

序 文

多賀城市内には特別史跡多賀城跡附寺跡をはじめ、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数所在し、それらは市域の約3割にも及んでおります。これら貴重な「文化遺産」を後世に伝えていくことは我々の重要な責務であります。

近年は、西部地区を中心とし宅地造成工事や個人住宅建築工事などによる発掘調査件数が増加傾向にありますが、当教育委員会としても開発事業との円滑な調整を図りつつ、国民共有の歴史的財産である埋蔵文化財を適切に保護し、活用に努めているところです。

本書は、平成31年度から令和2年度にわたり受託事業として実施した山王遺跡第214次調査の成果を収録したものです。今回の調査では古墳時代、奈良・平安時代の遺構や遺物が発見されました。平安時代では、多賀城の南面に広がるまち並みの基幹道路である東西大路と平行する東西道路跡が発見され、当時の方格地割を検討する上で貴重な資料を得ることができました。また、何度も耕作が繰り返されたと考えられる畑の跡、そして、畠地から掘立柱建物が立ち並ぶまちの風景へと変化していく変遷も確認することができました。

広大な遺跡範囲に対し、調査面積はわずかですが、これらひとつひとつの成果を積み重ねていくことが、本市の新たな歴史の解明につながるものと確信しております。

最後になりましたが、発掘調査に際し、御理解と御協力をいただきました地権者の皆様をはじめ関係各位に対し、心より感謝申し上げ挨拶といたします。

令和4年3月

多賀城市教育委員会
教育長 麻生川 敦

例　　言

- 1 本書は、令和元年から令和2年の受託事業で実施した山王遺跡第214次調査の成果をまとめたものである。
- 2 遺構の名称は、各遺跡とも第1次調査からの通し番号である。
- 3 平成14年4月1日の測量法の改正に従い、本書では経緯度の基準を世界測地系で表示している。また、本書で報告している調査では、平成23年3月11日の東日本大震災以降に測量した座標を用いているが、震災以前の座標値と整合させるために、再測量の成果に基づき、震災以前に行った調査については東に約3m、南に約1mの補正をかけている。
- 4 挿図中の高さは、標高値を示している。
- 5 土色は、『新版標準土色帖』(小山・竹原：1996)を参考にした。
- 6 自然科学分析は、(株)パレオ・ラボに委託して樹種同定を行った。
- 7 報告書作成にあたって、以下の方からご指導・ご助言を賜った（敬称略）。
荒井格（仙台市教育委員会）、佐藤信（東京大学名誉教授）、長岡龍作（東北大学）、
平川南（人間文化研究機構）
- 8 執筆は職員の協議・検討のもとⅠ・Ⅱを桑折肇、Ⅲを赤澤靖章が担当した。編集は赤澤が行った。遺物の写真撮影、図版作成等は赤澤・桑折・高橋伶奈と遺物整理員が行った。
- 9 調査に関する諸記録及び出土遺物は、すべて多賀城市教育委員会が保管している。

調　　査　要　項

- 1 調査主体 多賀城市教育委員会 教育長 麻生川敷
- 2 調査担当 多賀城市埋蔵文化財調査センター 所長 伊藤文昭
- 3 調査担当者 多賀城市埋蔵文化財調査センター
副主幹 千葉孝弥 赤澤靖章
技師 小原駿平
調査員 佐藤則之 桑折肇 金子かおる
- 4 調査協力者 株式会社みづば
- 5 調査従事者 平成31年度
伊藤茂 奥田美雪 菅野大 佐々木啓太 佐々木正則 佐藤長次 佐藤由紀子
菅原正義 武田進 竹本裕昭 土佐実 長瀬真貴子 半谷正明 幕田裕子
山田信治
令和2年度
阿部清次 阿部文紀 伊藤幸夫 内田節子 内田正樹 宇津志清明 岡澤一清
奥山妙子 工藤純子 斎藤隆行 佐藤俊博 鈴木道徳 鈴木真由美 竹本裕昭
土佐実 煙山慎次 村田文雄 山本耕文 横田律男 米倉幸恵
- 6 整理従事者 有路尚子 石垣玲子 浦山紀以子 奥田美雪 菊池あかね 佐々木直美
佐々木宣子 佐藤ゆかり 高橋明子 千葉貴久江 千葉都美 長瀬真貴子
秦千尋 堀川紀子 宮城ひとみ

凡　　例

1 本書で使用した遺構の略称は、次のとおりである。

S A : 挖立柱跡 S B : 挖立柱建物跡 SD : 溝跡 SE : 井戸跡 SK : 土坑

ピット (P) : 柱穴及び小穴 SX : その他の遺構

2 遺物観察表内の計測値はすべてcmである。また、土器の調整は、回転ヘラケズリを回転ケズリ、手持ちヘラケズリを手持ケズリと省略している。

3 奈良・平安時代の土器の分類記号は『市川橋遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書II』(多賀城市教育委員会 2003) に従った。詳細は下記のとおりである。

(1) 土師器坏

A類: ロクロ調整を行わないもの

B類: ロクロ調整を行ったもの

B I 類: ロクロからの切り離し後、回転ヘラケズリされたもの

B II 類: ロクロからの切り離し後、手持ちヘラケズリされたもの

B III 類: ロクロからの切り離しがヘラ切りで、再調整されないもの

B IV 類: ロクロからの切り離しが静止糸切りで、再調整されないもの

B V 類: ロクロからの切り離しが回転糸切りで、再調整されないもの

B I ・ B II 類では、ロクロからの切り離しが識別できる資料があり、ヘラ切りによるものをa、静止糸切りによるものをb、回転糸切りによるものをcとして細分する

(2) 土師器甕

A類: ロクロ調整を行わないもの B類: ロクロ調整を行ったもの

(3) 須恵器坏

I類: ロクロからの切り離し後、回転ヘラケズリされたもの

II類: ロクロからの切り離し後、手持ちヘラケズリされたもの

III類: ロクロからの切り離しがヘラ切りで、再調整されないもの

IV類: ロクロからの切り離しが静止糸切りで、再調整されないもの

V類: ロクロからの切り離しが回転糸切りで、再調整されないもの

I ・ II 類では、ロクロからの切り離しが識別できる資料があり、ヘラ切りによるものをa、静止糸切りによるものをb、回転糸切りによるものをcとして細分する。

4 本文中で用いている「灰白色火山灰」とは、東北地方に広く降下した広域火山灰である。その降下年代に関しては、915年とする説（町田洋「火山灰とテフラ」日本第四紀学会編『日本第四紀地図』1987年、阿子島功・壇原徹「東北地方、10C頃の降下火山灰について」『中川久夫教授退官記念地質学論文集』、1991年）と、907年から934年の間とする説（宮城県多賀城跡調査研究所『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1997、1998年』）に見解が分かれている。近年、915年説を評価するものも見られる（小口雅史「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題—和田aと白頭山（長白山）を中心に—」、笹山晴生編『日本律令制の展開』吉川弘文館、2003年）。本書では、これらの研究成果をもとに、10世紀前葉に降下したものと理解する。

目 次

I	遺跡の地理的・歴史的環境	1
II	調査に至る経緯と経過	3
III	調査成果	7
1	基本層序	7
2	発見遺構と遺物	24
(1)	整地層	24
(2)	道路跡	24
(3)	溝跡	25
(4)	掘立柱建物跡	46
(5)	掘立柱塀跡	51
(6)	井戸跡	66
(7)	土坑	81
(8)	烟跡	96
(9)	遺構外出土遺物	111
3	まとめ	118
(1)	山王遺跡第123次調査の検討	118
(2)	東西道路跡と区画溝跡の変遷	119
(3)	方格地割	122
(4)	烟跡	122
(5)	掘立柱建物跡・掘立柱塀跡	122
(6)	S D 3110区画溝跡	124
(7)	S D 3113区画溝跡	124
(8)	S K 3085土坑	124
(9)	平仮名と推測される墨書き器	125
(10)	蓮弁状木製品	126
(11)	総括	127

I 遺跡の地理的・歴史的環境

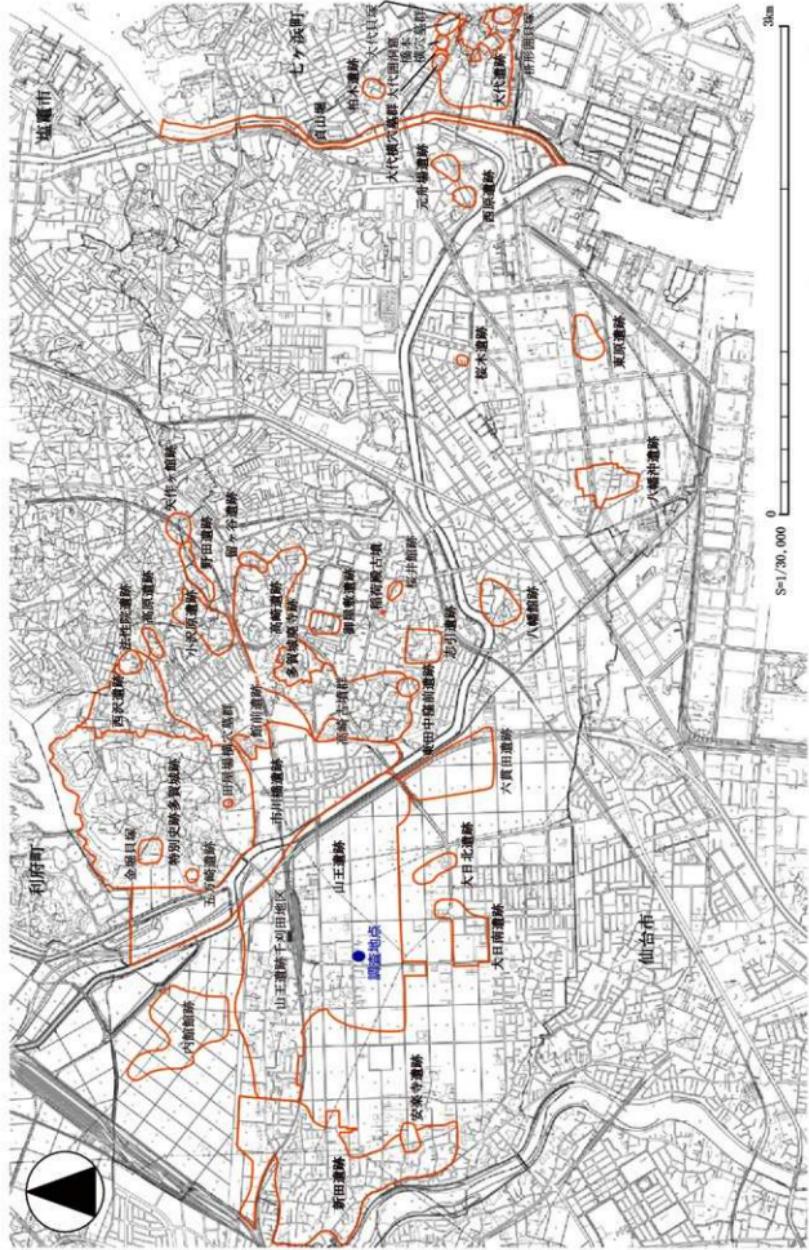
多賀城市的地形は、中央部を北西から南東方向に貫流する砂押川を境に、東側の丘陵部と西侧の沖積地に二分される。丘陵部は、松島・塩釜方面から延びる標高40～70mの低丘陵であり、南西に向かって枝状に派生している。沖積地と接する付近では、谷状の地形を形成しており、緩やかではあるが起伏に富んだ様相をみせる。沖積地は、仙台平野の北東部に相当する。仙台市岩切方面から東に向かう県道泉・塩釜線沿いには、標高5～6mの微高地が延びており、その北側には低湿地が広がっている。一方、南側には大小の微高地や低湿地、旧河道などがあり、海岸に近い場所では浜堤列も確認できる。

市内には、40を超える遺跡が所在している。西側の沖積地から丘陵部の西端にかけては、新田・山王・市川橋・高崎・西沢遺跡など市内でも有数の規模をもつ遺跡が隣接して分布している。これらの遺跡で発見された遺構や遺物には、陸奥国府が置かれた多賀城と密接に関わるものが多く認められ、この時期に限ってみれば一連の遺跡群と捉えることができる。一方、南東部には海岸線沿いの浜堤上に八幡沖遺跡、浜堤から丘陵にかけては大代貝塚や大代横穴墓群、柏木遺跡などが所在している。

山王遺跡は、標高3～4mの微高地に立地し、その範囲は東西約2km、南北約1kmである。これまで弥生時代中期頃の水田跡や古墳時代前期～後期の集落跡、古代の方格地割、中世の屋敷跡などが発見されている。このうち、古代の方格地割は南北大路と東西大路の二つの幹線道路を基準とし、東西・南北の直線道路によっておよそ1町四方の区画を造成したものである。これによって形成されたまち並みからは、上級役人の邸宅や中・下級役人の住まいである建物跡や井戸跡などが多数発見されている。



第1図 多賀城市位置図



第2図 調査地の位置と周辺の道路

II 調査に至る経緯と経過

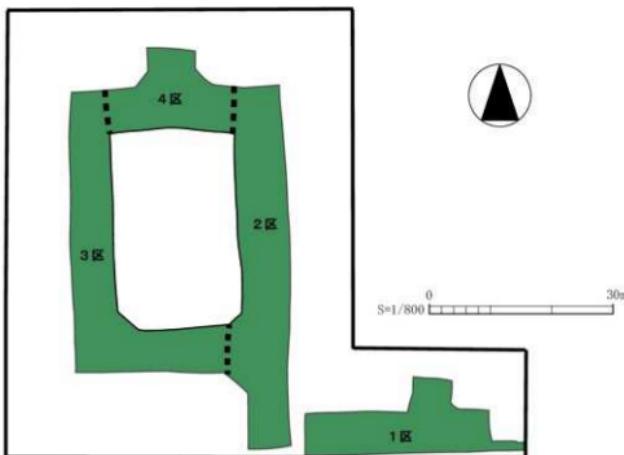
本件は、山王字山王四区地内における宅地造成工事に伴う本発掘調査である。平成31年3月27日、地権者より当該地区における宅地造成計画と埋蔵文化財のかかわりについての協議書が提出された。計画では約4,600m²の敷地内での宅地造成17区画及び幅6mの道路建築を行うものである。道路部分で1mの掘削、上水道管理設部分で幅50cm、深さ最大1.7mの掘削を行う。東側隣接地で実施された第186次調査（平成29年）において、旧水田耕作土から約30cmの深さで遺構を確認しているため、計画面積も広く、埋蔵文化財への影響が懸念された。このため、工法変更による遺跡を保存する協議を行ったが、提出された工法で工事を実施することになり、道路部分については発掘調査を行うことになった。7月5日より地権者と本発掘調査に係わる調査期間及び費用について打ち合わせを行い、7月17日に本件に係る発掘調査委託契約書を締結した。

調査は1区から令和元年11月1日より実施した。重機により表土を除去した後、プレハブ、簡易トイレの設置など調査に係る環境整備を行った。6日より作業員を投入して調査区東半部の精査を開始した。22日までの間に、光波測量を行い、調査区に任意の基準点を設定し、平面図・断面図の作成を随時行った。12月20日までに全ての記録を記録を取り終えて、機材の引上げを行った。その後、調査区の埋戻しを行い、1区の調査は一旦終了した。

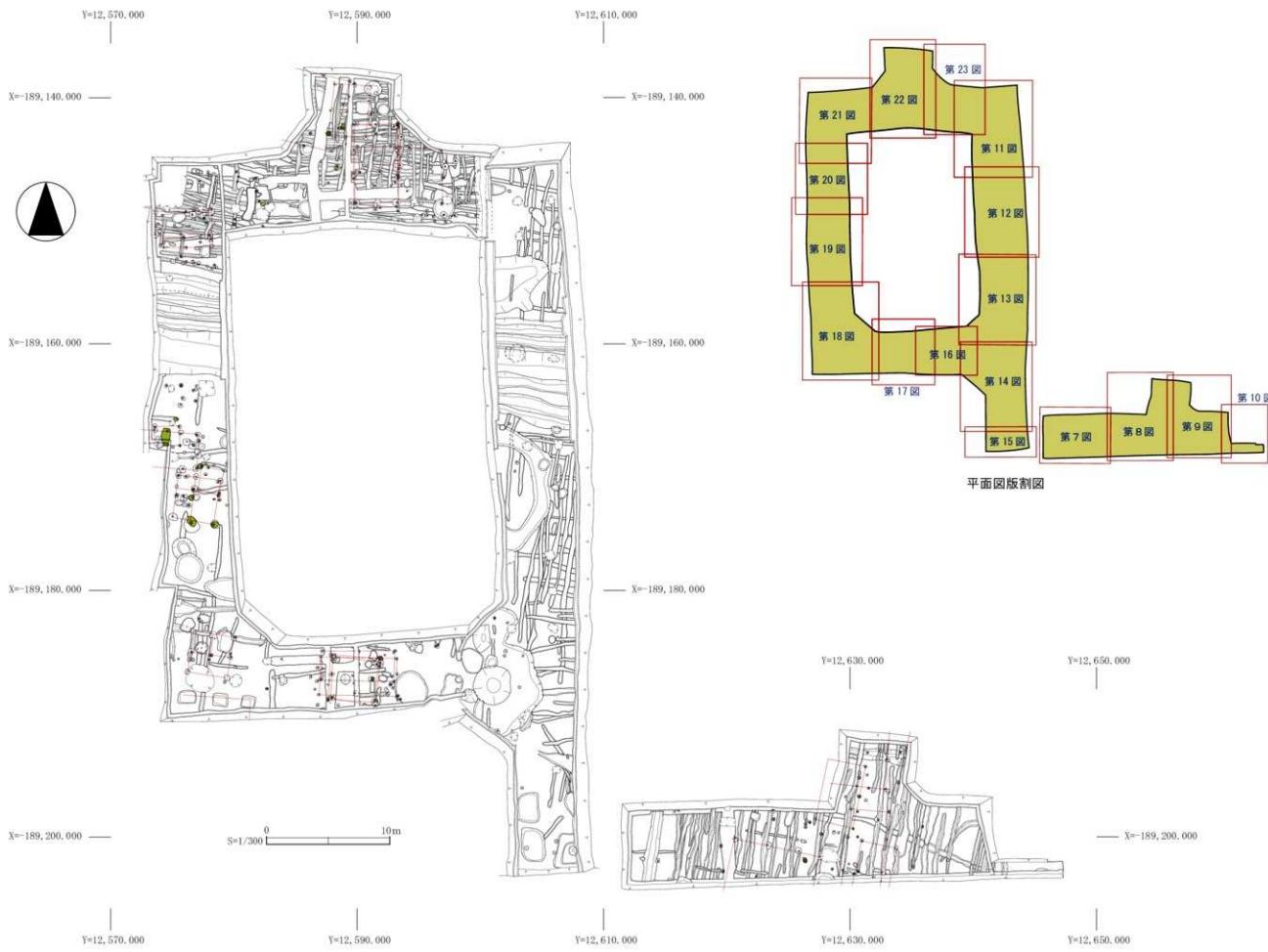
2回目の調査は令和2年4月20日より実施した。重機による1区の擁壁工区の土砂の撤去及び水汲みを施工業者に依頼した。21日より作業員を投入して環境整備と擁壁工区の精査作業を行った。精査の結果、遺構は確認出来なかったため、24日に写真記録及び光波測量を行い、擁壁工区の調査は終了した。同時進行で2区の南側から重機による掘削を行い、溝跡と土坑、井戸跡などを発見した。28日より遺構の掘り下げを行った。5月7日から2区の北半分の掘削を行い、11日から遺構検出作業を行った。15日に図面作成のための基準点を調査区内に設定し、平面図・断面図の作成を随時行った。6月29日からは遺構の掘り下げ、図面記録と並行して重機による3区の掘削を開始し、3区中央部に2区で確認した道路跡の延長部分を確認した。7月13日に3区の光波測量による2区同様の基準点の設定を行い、平面図・断面図の作成を随時行った。7月30日には2区での全ての記録が完了し、重機による埋戻しを行い、31日には埋戻しが完了した。8月28日から重機による4区の掘削を開始した。9月3日から3区の作業と並行して、4区での作業を開始し、16日から検出作業を行った。18日に3区の完掘写真と4区の遺構検出の写真記録を終え、その後、光波測量を行い、4区内にも図面作成のための基準点を設定し、平面図・断面図の作成を随時行った。10月15日から16日にかけて3区の埋戻しを行った。11月6日までに4区のすべての記録を取り終えて、機材撤収の作業を行い10日には、すべての機材を引上げた。翌日11日に施工業者に現地引き渡しを行い、本件に係る現地調査の一切を終了した。



第3図 計画位置図



第4図 造成計画地と調査区位置図



III 調査成果

1 基本層序

今回の調査で確認した層序は、以下のとおりである（第6・26・31図）。

I層：現代の盛土（I1層）と山王旧市営住宅建設（昭和40年代）以前の水田耕作土（I2層。黒褐色(7.5YR3/1)粘土）である。厚さはI1層が80～100cm、I2層が20cmである。

II層：黒色（10YR1.7/1）粘土。方格地割廃絶後の堆積層で、1区や2区北部～4区東端部、道路跡上層などで確認した。厚さは4cmである。

III1層：灰黄褐色（10YR4/2）シルト。灰白色火山灰ブロックを含み（二次堆積）、1区～2区南部、2区北部～4区東端部などで確認した。厚さは10～15cmである。

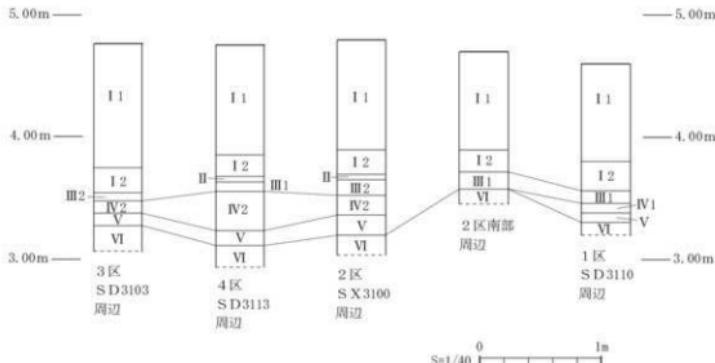
III2層：黒褐色（10YR3/2）シルト。2区中央部～3区中央部で確認し、道路跡などの遺構検出面となる。厚さは7cmである。

IV1層：S X3099整地層。「2 発見遺構と遺物（1）整地層」に記載した。

IV2層：浅黄色（2.5Y7/3）シルト、灰黄褐色（10YR4/2）シルト。下層土ブロックを含む地点もある。1区～2区南部を除く調査区で確認した。遺構検出面である。厚さは16～32cmである。

V層：黒褐色（7.5YR3/2・2.5Y3/2）粘土。1区東北部、2区北部～中央部、3・4区で確認した。3区南西部で遺構検出面となる。1区で古墳時代前期の土器が出土した。厚さは7～16cmである。

VI層：にぶい黄褐色（10YR7/2）砂質シルト、灰黄色（2.5Y7/2）シルト。すべての調査区で確認した。1区（北東部を除く）、2区南部で遺構検出面となる。



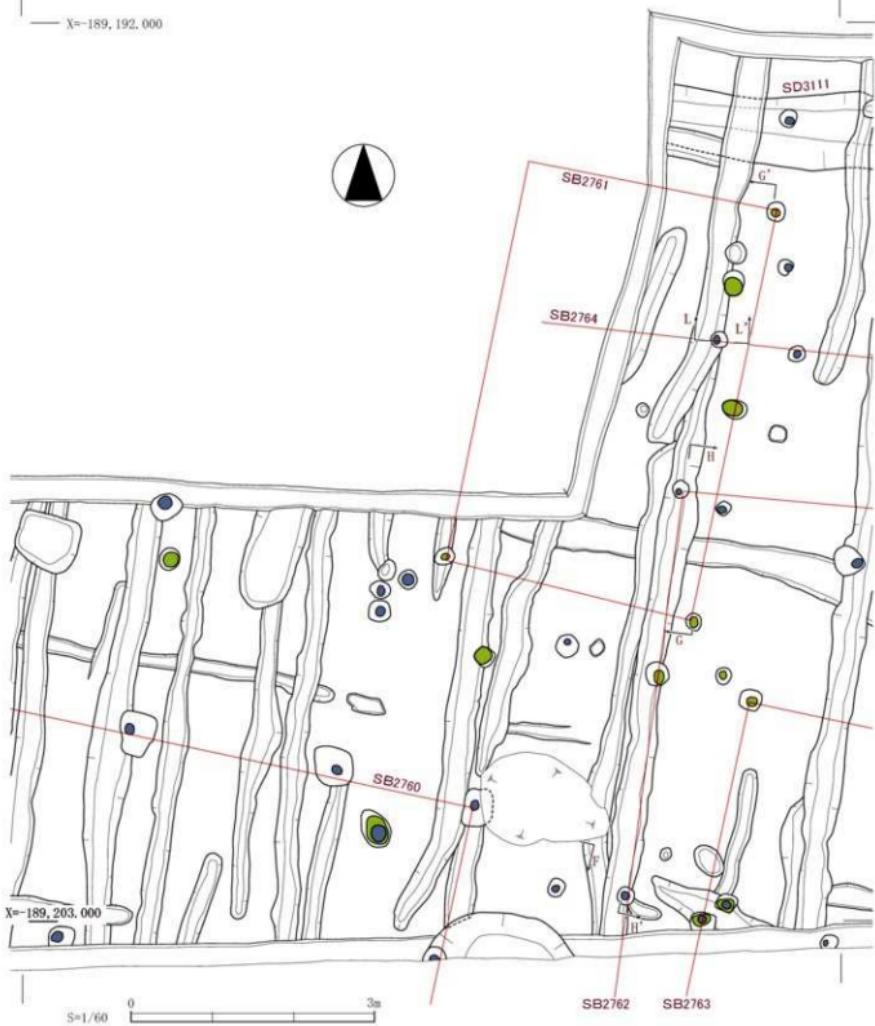
第6図 層序模式図



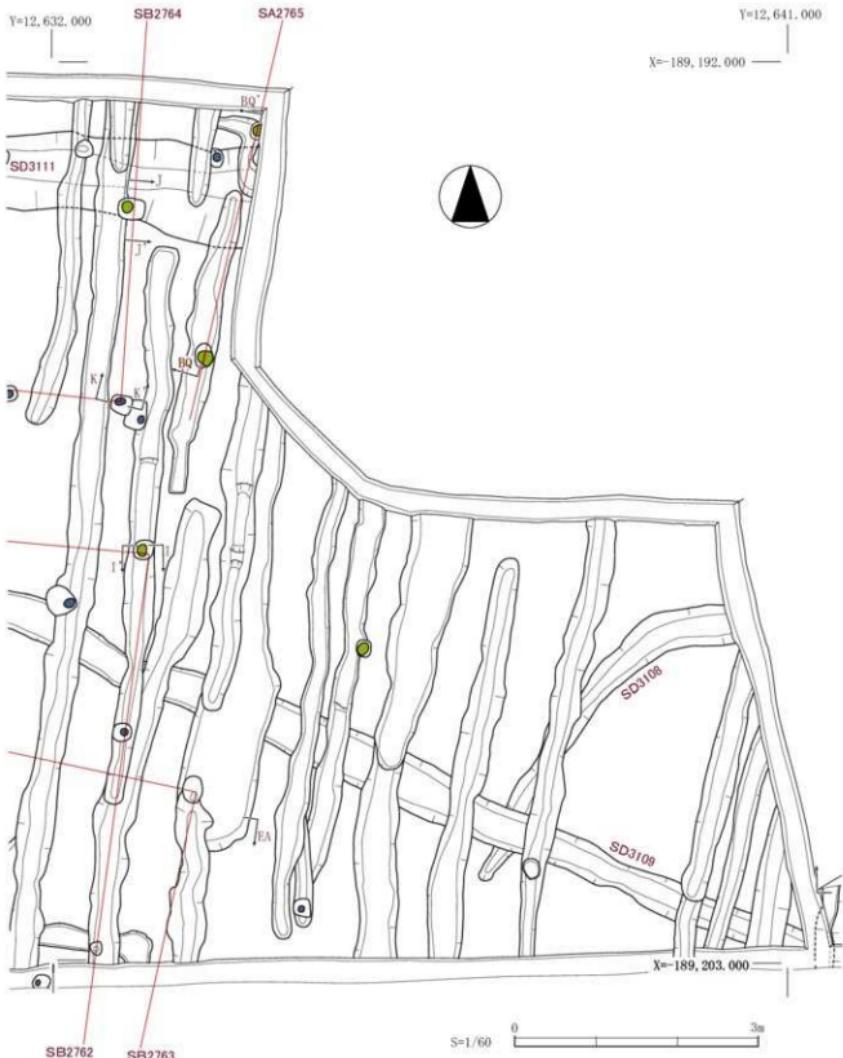
第7図 1区平面図(1)

Y=12,622,000
X=-189,192,000

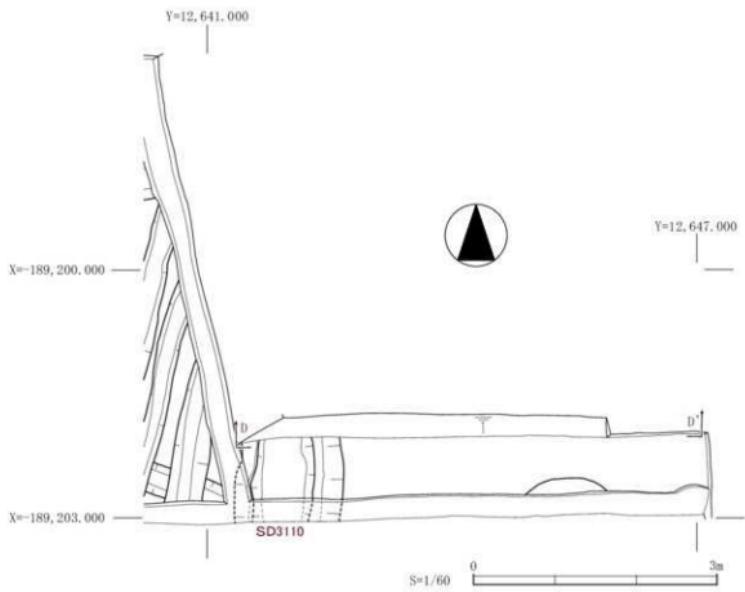
Y=12,632,000



第8図 1区平面図(2)



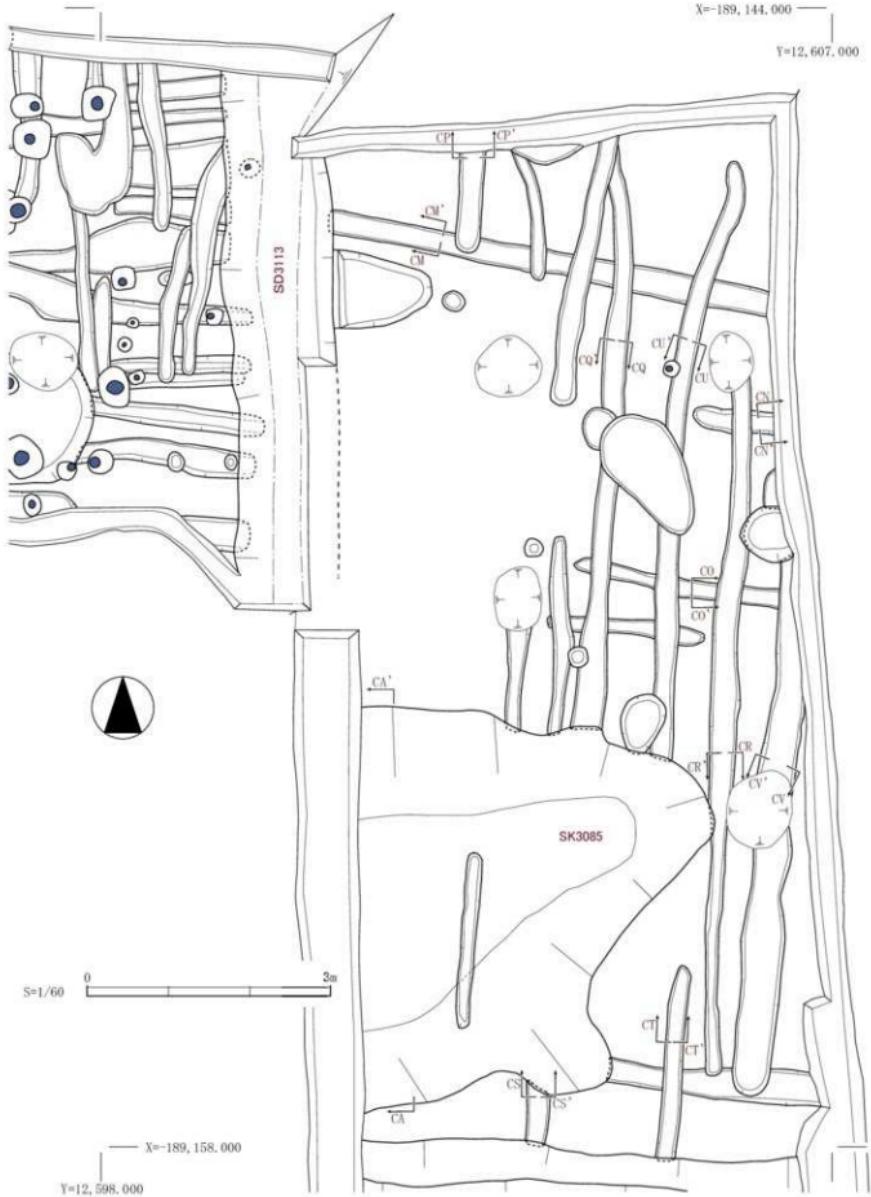
第9図 1区平面図(3)



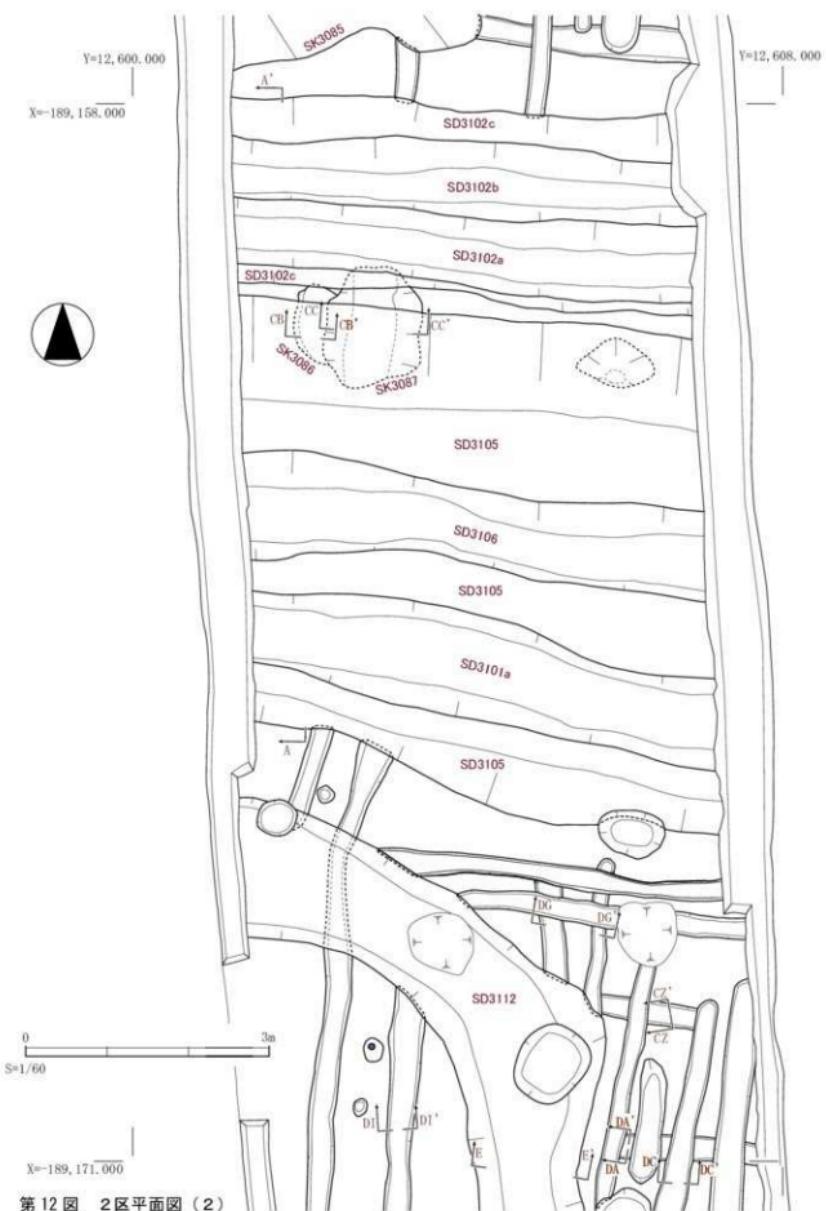
第 10 図 1 区平面図 (4)

X=-189, 144.000

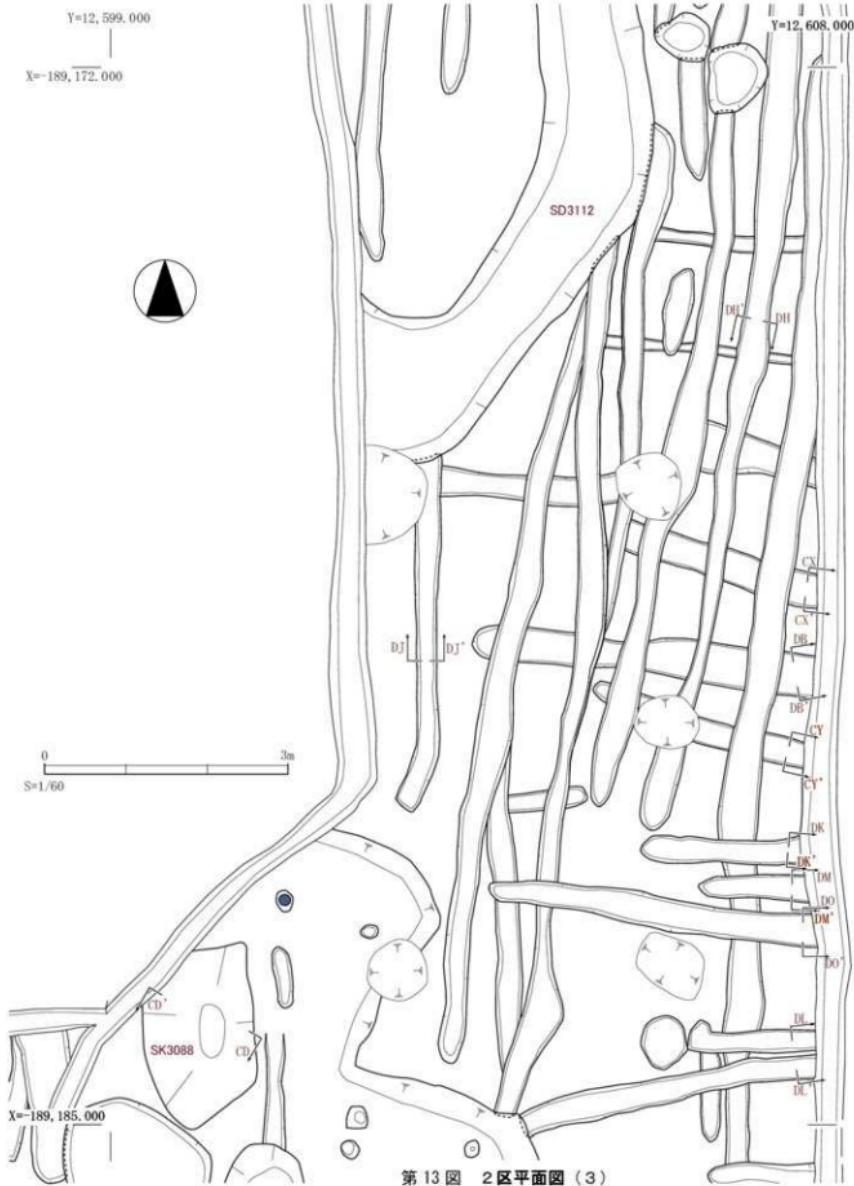
Y=12, 607.000



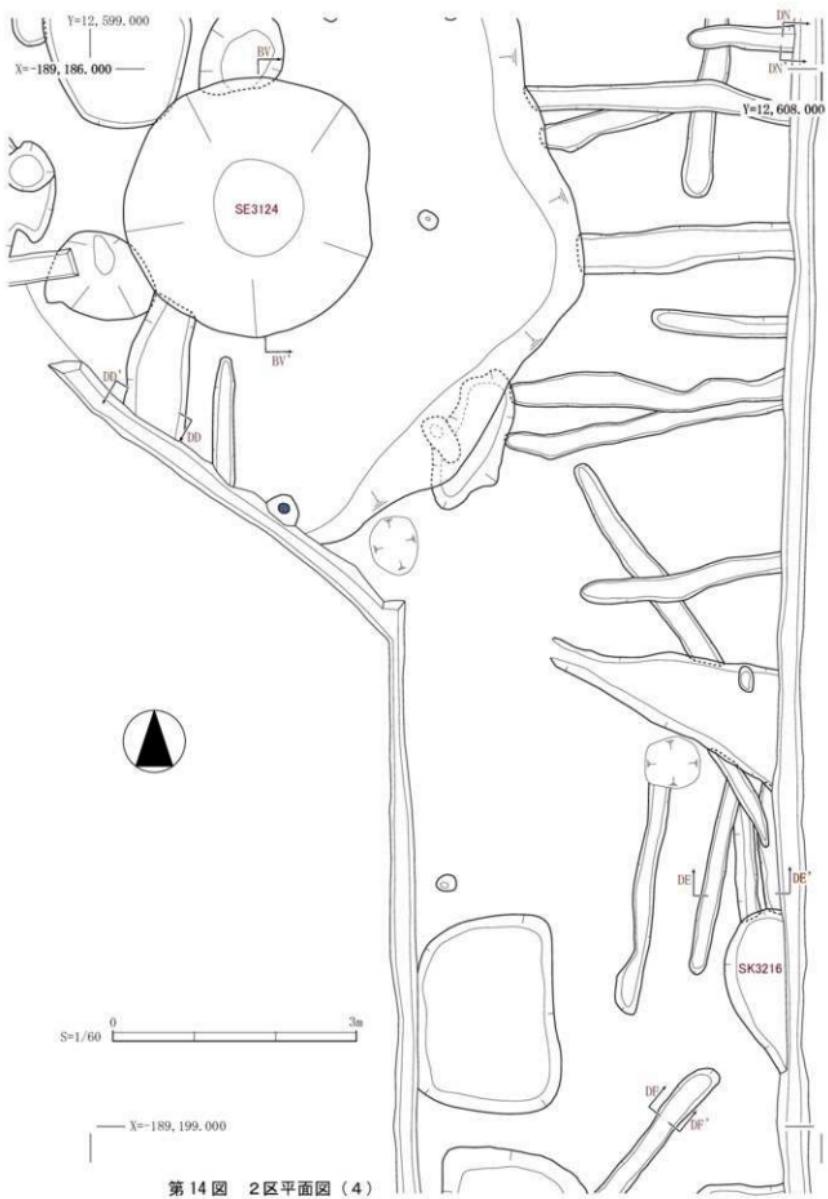
第11図 2区平面図 (1)



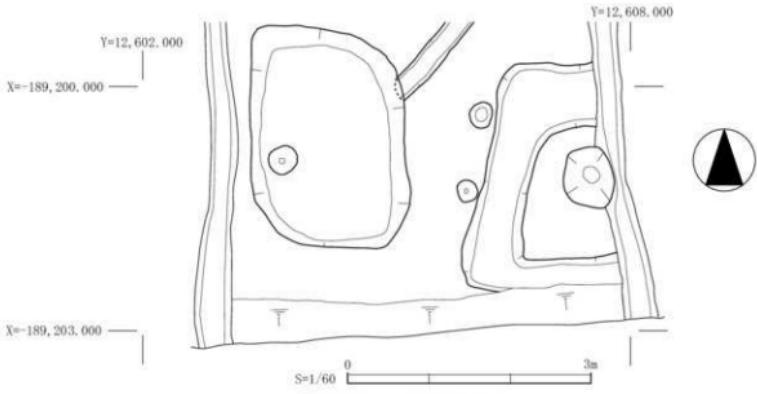
第12図 2区平面図(2)



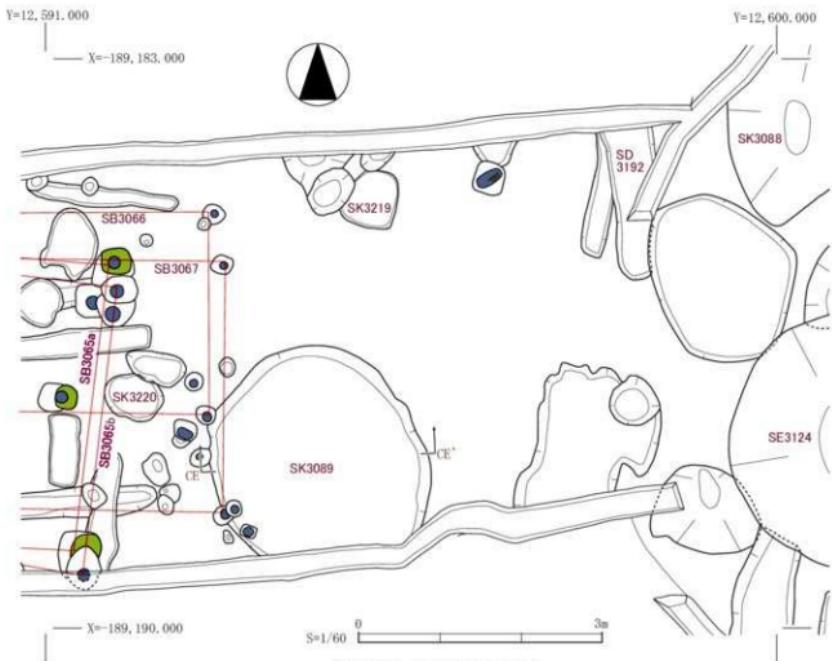
第13図 2区平面図(3)



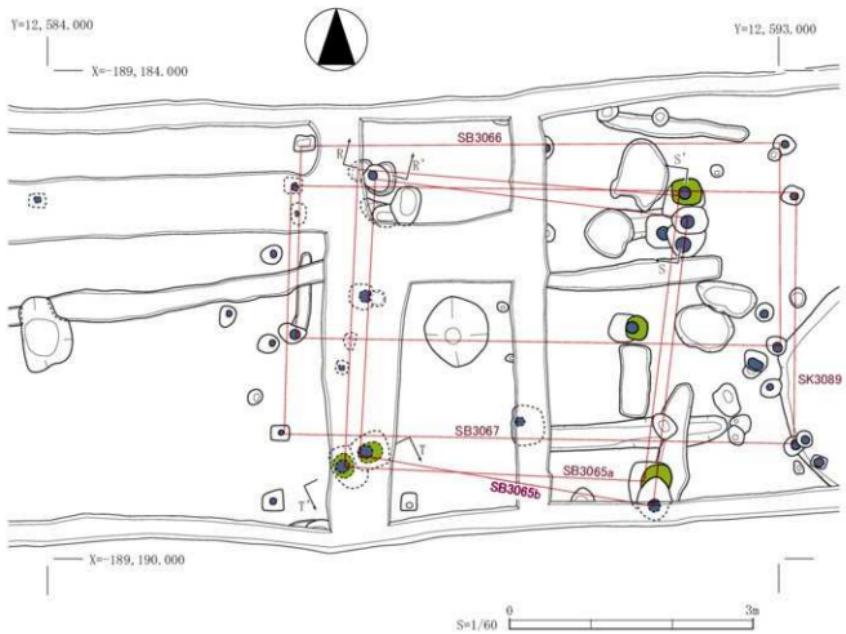
第14図 2区平面図(4)



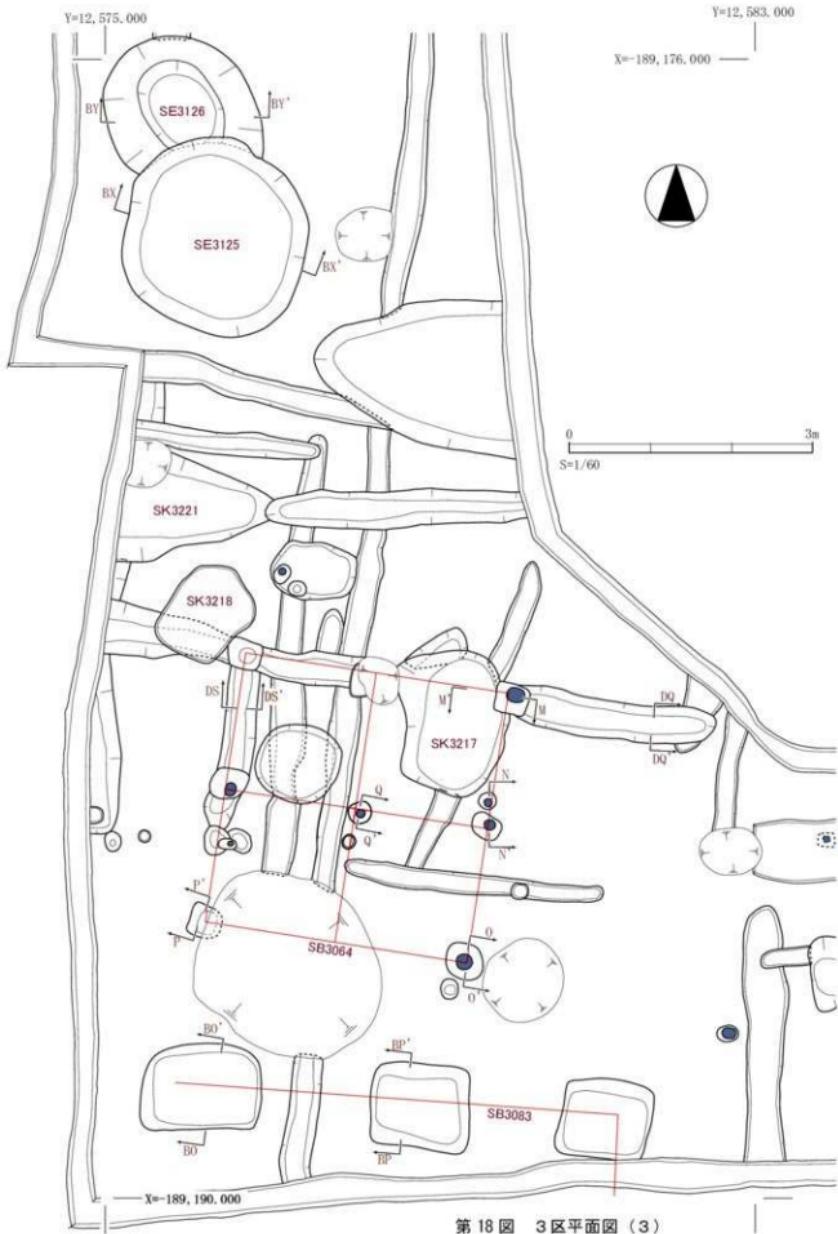
第15図 2区平面図(5)



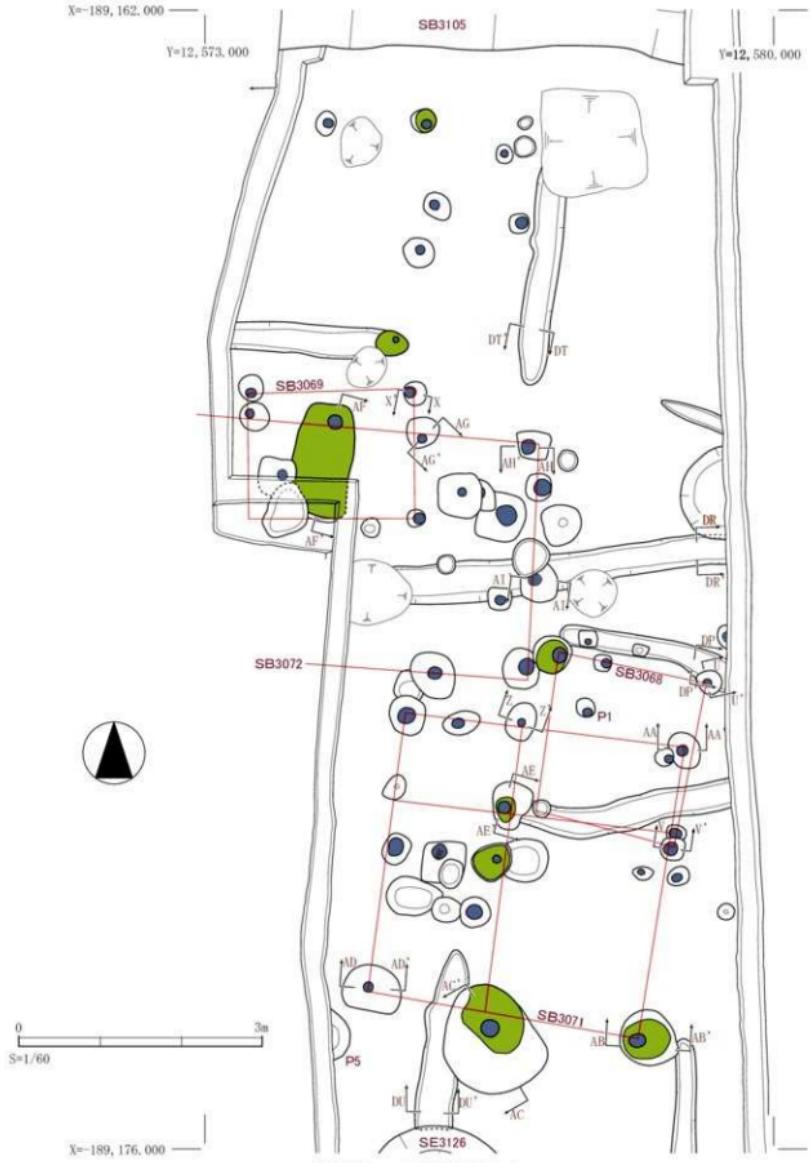
第16図 3区平面図(1)



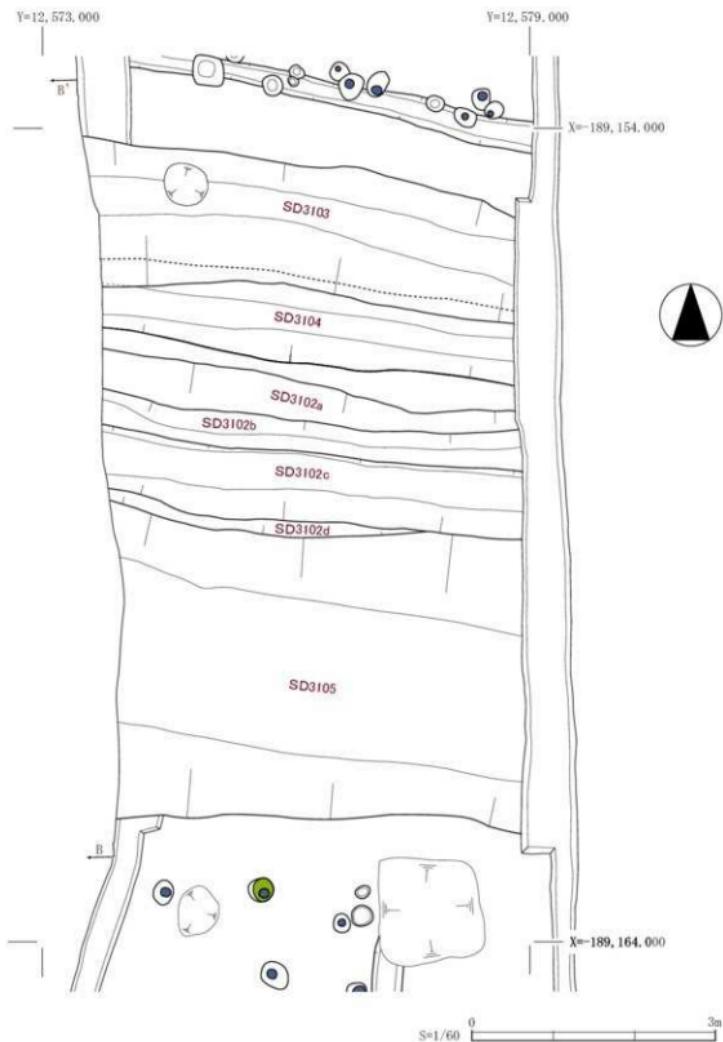
第17図 3区平面図（2）



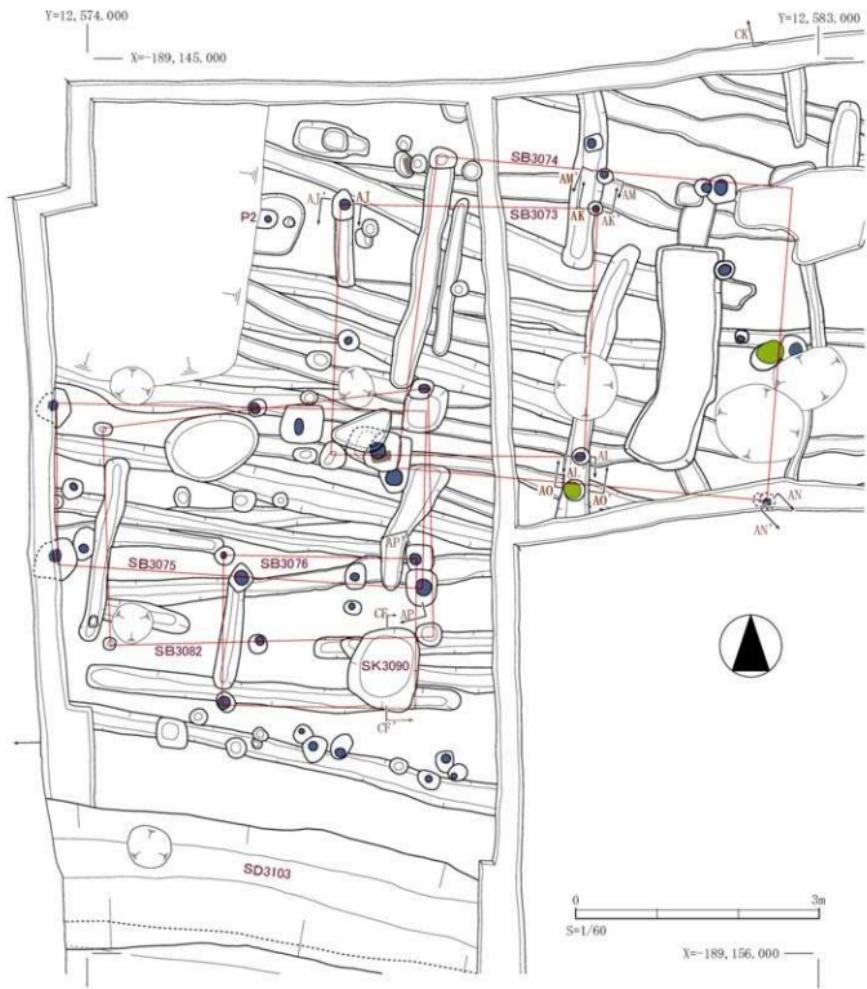
第18図 3区平面図(3)



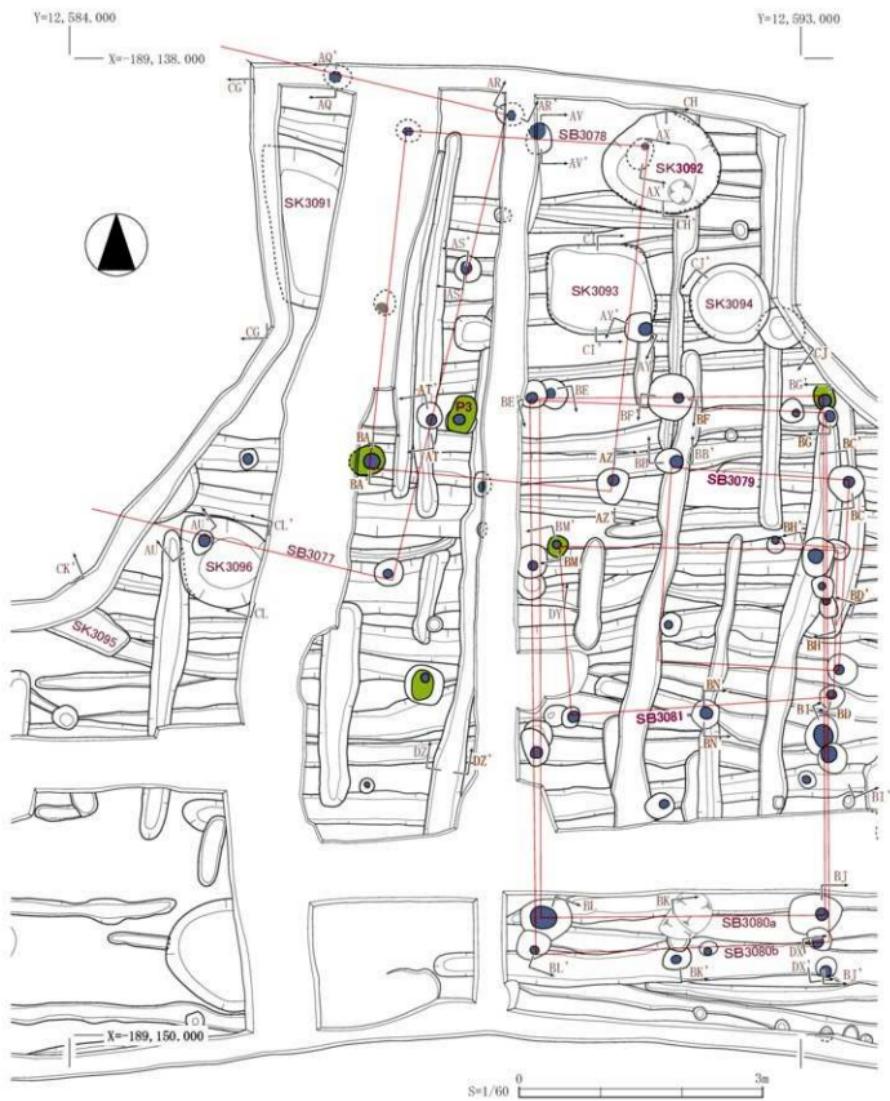
第19図 3区平面図(4)



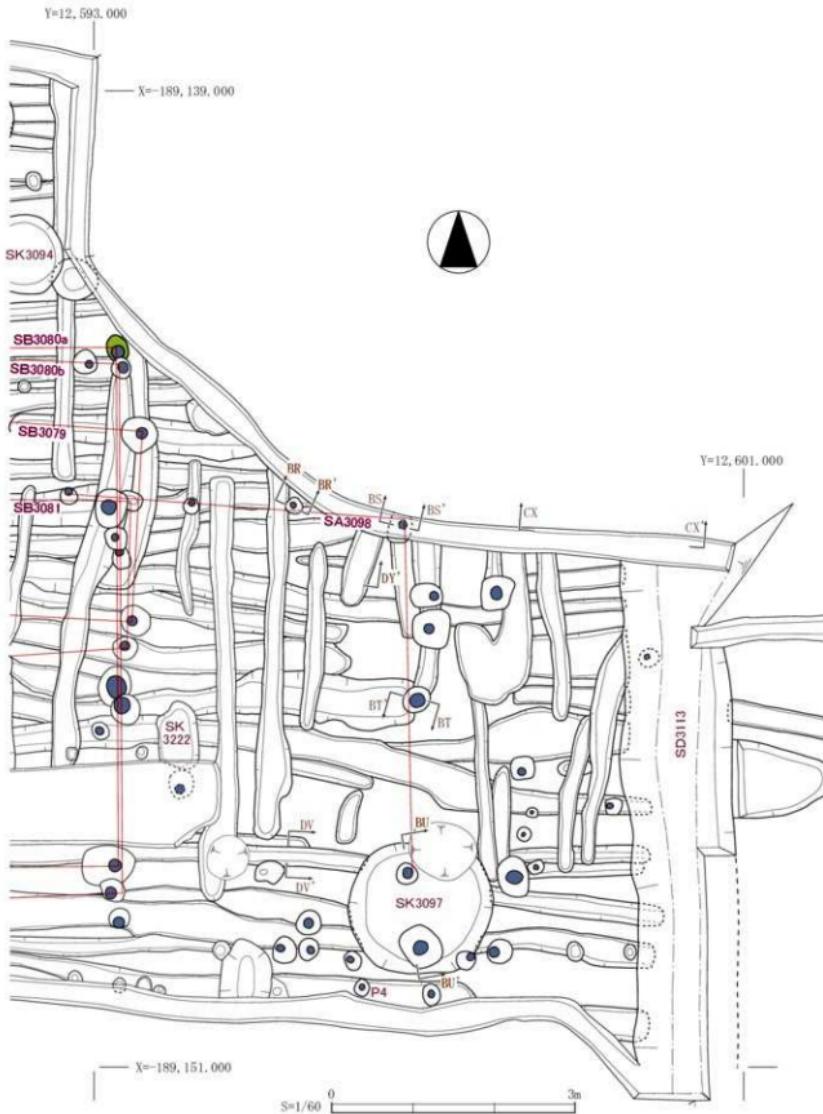
第20図 3区平面図(5)



第21図 3区平面図(6)・4区平面図(1)



第22図 4区平面図(2)



第23図 4区平面図(3)

2 発見遺構と遺物

(1) 整地層

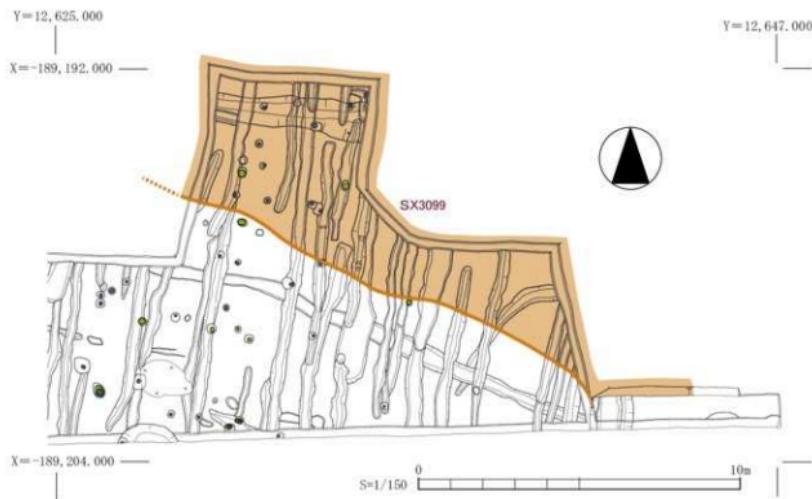
1区から整地層1面を検出した。

【S X3099整地層】(第24・31(SD3110)図)

【重複】 S D3110・3111溝跡、 S B2761・2762・2764掘立柱建物跡、 S A2765掘立柱壙跡等より古い。 S D3108溝跡より新しい。

【規模・埋土】東西16.4m以上、南北9.5m以上、厚さ5~13cmである。埋土は、にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂で、黄灰色シルトブロックを少量含む。下層のV層(自然堆積)の分布と同じ範囲に堆積している。

【出土遺物】出土していない。



第24図 S X3099 整地層

(2) 道路跡

2・3区で東西道路跡1条を検出した。

【S X3100東西道路跡】(第12・20・25~30・85・86図、写真図版5・6)

【重複】 S D3105・3106区画溝跡、 S K3086・3087土坑、 S X3116・3118烟跡より新しい。

【変遷】 S D3101南側溝跡は2・3区で2時期、 S D3102北側溝跡は2区で3時期、3区で4時期確認した。道路跡の変遷は、古い順からA期→B期→C期→D期となる。

【規模・路面】検出長は34.00m、路幅(側溝心々計測)は、C期で2区が5.58~6.28m、3区が2.53~2.80mである。D期で2区が5.00~5.68m、3区が2.42~2.59mである。方向はE-5°-Sである。路面構築土は確認されなかった。路面堆積土は2層確認した。2層(第25図No18)は灰白色火山灰が自然堆積し、3区 S D3102bでも同様の状況からB期に伴うものと考える。遺物は出土していない。1層(第

25図N6.17)はD期の3区S D3101dに切られていることから、D期よりも古いC期に伴うものと考える。出土遺物は、土師器高台付坏(B V)・甕(A・B)、須恵器坏(V)(第33図1)・蓋(第33図2・3)・甕・瓶、須恵器土器坏が出土した。

【S D3101南側溝】2区:(S D3101c) 3101dに壊されている。上幅1.43~1.60m、下幅0.65~0.80m、深さ0.50mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器坏(B)・甕(A・B)、須恵器坏・甕が出土した。(S D3101d) 上幅2.48~1.68m、下幅0.45~0.62m、深さ0.36mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器坏(B V)(第33図4・5)、丸瓦(第33図6)、2層から須恵器坏・甕が出土した。

3区:(S D3101c) 3101dに壊されている。上幅1.20~1.30m、下幅0.34~0.47m、深さ0.76mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器坏(B V)・甕(B)、須恵器甕・瓶、2層から土師器坏(B V)・甕(A)(第32図6・7)、須恵器坏(III)(第32図4)・(I c)(第32図5)・蓋・甕(第32図8)・瓶、平瓦が出土した。(S D3101d) 上幅1.53~1.60m、下幅0.18~0.30m、深さ0.42mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器坏(B V)・甕(B)、須恵器甕、平瓦、2層から土師器坏(B V)・甕(A・B)、須恵器甕・瓶、3層から土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕が出土した。

【S D3102北側溝】2区:(S D3102b) 3102c・dに壊されている。上幅0.82~0.97m、下幅0.40~0.44m、深さ0.43mである。埋土は2層で、人為堆積である。出土遺物は、須恵器甕が出土した。(S D3102c) 3102dに壊されている。上幅0.81~1.00m、下幅0.20~0.30m、深さ0.43mである。埋土は2層で、自然堆積である。出土遺物は、2層から土師器片、須恵器坏(I)(第32図2)・(V)(第32図3)が出土した。(S D3102d) 上幅2.18~2.47m、下幅0.82~1.03m、深さ0.44mである。埋土は5層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器甕(A・B)、須恵器坏(IIa)・甕、2層から須恵器甕、3層から土師器坏(B)、須恵器甕が出土した。その他、a~b(層位不明)から土師器坏(B V)(第33図7)・甕(B)(第33図8)、須恵器坏(I)(第33図9)・蓋(第33図11)・瓶(第33図10・12)が出土した。

3区:(S D3102a) 3102b・cに壊されている。上幅0.25~0.57m、深さ0.28mである。埋土は1層で、自然堆積である。遺物は出土していない。(S D3102b) 3102cに壊されている。上幅0.44~0.59m、下幅0.15~0.30m、深さ0.47mである。埋土は3層で、自然堆積である。1層に灰白色火山灰が自然堆積している。出土遺物は、1層から土師器坏(B)・甕(B)、須恵器甕(第32図1)・瓶、平瓦が出土した。(S D3102c) 3102bに壊されている。上幅1.36~1.61m、下幅0.40~0.52m、深さ0.63mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、土師器坏(B II・B V)・甕(B)、須恵器甕が出土した。(S D3102d) 上幅1.85~2.10m、下幅0.43~0.60m、深さ0.58mである。埋土は6層で、自然堆積である。出土遺物は、1層は土師器坏(B)・甕(B)、須恵器坏・甕・瓶、平瓦、2層から土師器坏(B V)・甕(B)、須恵器甕・瓶、3層から土師器坏(B V)・甕(B)、須恵器坏・甕が出土した。

(3) 溝跡

溝跡は14条検出した。

【S D3103区画溝跡】(第20・30・86図、写真図版6)

3区のS X3100東西道路跡の北側で検出された。道路跡と平行した位置関係にある。

【重複】 S D3104区画溝跡より新しい。

【規模・埋土】 検出長5.82m、上幅1.31～2.08m、下幅0.40～0.52m、深さ0.29～0.43mである。方向はE-10°～Sである。埋土は4層で、自然堆積である。

【遺物】 1層から土師器壺（B I）（第37図2）・（B V）・甕（A・B）、須恵器壺（V）・高台付壺（I）（第37図2）・甕、2層から土師器甕（A）、須恵器甕、二彩または三彩と推定される瓶類（第37図1）が出土した。

【S D3104区画溝跡】（第20・30・86図、写真図版6）

3区のS X3100東西道路跡の北側で検出された。S D3103区画溝跡と同様に道路跡と平行した位置関係にある。

【重複】 S D3103区画溝跡より古い。

【規模・埋土】 検出長5.82m、上幅0.81～1.01m、下幅0.27～0.37m、深さ0.32～0.40mである。方向はE-8°～Sである。埋土は3層で、自然堆積である。

【遺物】 1層から土師器壺（B V）・蓋・甕（A）・（B）（第37図5・7）、須恵器壺（II・IIb）・（V）（第37図6）・蓋・甕、平瓦・丸瓦（第37図8）、土玉（第37図9）が出土した。2層から土師器壺（B V）（第37図4）が出土した。

【S D3105区画溝跡】（第12・20・25・26・28・30・86図、写真図版5）

S X3100東西道路跡のS D3101南側溝跡下で検出された。南側溝跡と同じ方向である。

【重複】 S X3100東西道路跡（S D3101・3102）より古い。S D3106区画溝跡より新しい。

【規模・埋土】 検出長34.00m、上幅3.45～6.12m、下幅1.70～4.32m、深さ0.52～0.60mである。方向はE-8°～Sである。埋土は2区が2層、3区が3層で、自然堆積である。

【遺物】 2区は1層から土師器壺（B V）（第36図1）・高台付壺・甕（A・B）、須恵器壺（II・III・V）・高台付壺（I c）・蓋・甕・瓶、平瓦、2層からは土師器壺（B I・B V）・高台付壺（第36図2）・蓋・甕（A）・（B）（第36図3・4）、須恵器壺（I・I c）・（II）（第36図5）・（V）（第36図6）・高台付壺（第36図7）・甕（第36図10・11）・瓶（第36図8・9）、平瓦が出土した。3区は1層からは土師器壺（A）（第35図1）・高壺（第35図2）・甕（A・B）、須恵器壺（第35図5）・（IIa）（第35図3）・（V）（第35図4・6）・鉢（第35図7）・甕・瓶（第35図8・9）、平瓦が出土した。2層からは土師器壺（B）（第34図10）、須恵器壺（II）（第34図11）・（III・V）・高台付壺（I）・双耳壺（第34図12）・蓋（第34図13）・甕・瓶・平瓶（第34図14）、平瓦が出土した。3層から土師器壺（B）・甕（A・B）、須恵器壺（I）（第34図4）・（II）（第34図3・6・7）・（IIb）（第34図5）・（V）・蓋（第34図8）・甕・瓶、ミニチュア土器（第34図9）が出土した。その他、底面から須恵器壺（第34図1）・蓋（第34図2）が出土した。

【S D3106区画溝跡】（第12・25・28・86図、写真図版5）

2区のS D3105区画溝跡下で検出された。S D3101南側溝跡・S D3105区画溝跡と同じ方向である。

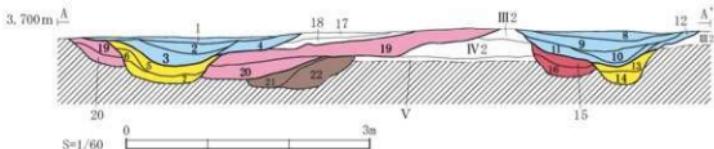
【重複】 S D3105区画溝跡より古い。

【規模・埋土】 検出長5.63m、上幅0.85～1.32m、下幅0.45～0.66m、深さ0.42mである。方向はE-7°～Sである。埋土は2層で、人為堆積である。

【遺物】 1層から土師器甕（A・B）、須恵器壺が出土した。

【S D3107溝跡】（第7・31図、写真図版6）

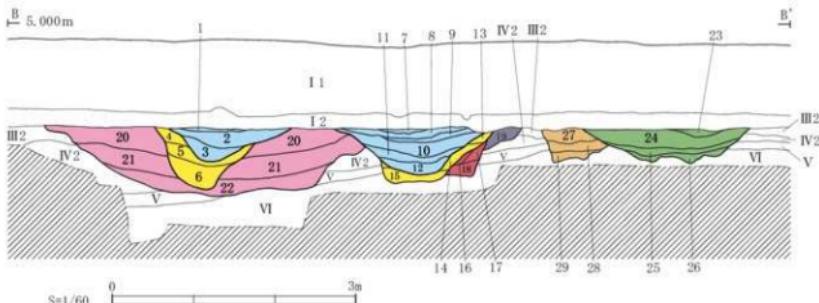
1区の西部で検出された。



No.	遺構	土色	土性	備考
1		10YR1.7/1	粘土	
2	SD3101d	10YR6.2	シルト	炭化物含む
3		10YR5.2	シルト	
4		2.5Y6.3	シルト	炭化物含む
5		2.5Y5.2	シルト	炭化物含む
6	SD3101e	10YR4.2	粘土	炭化物含む
7		2.5Y4.2	シルト質粘土	地山ブロック含む
8		10YR1.7/1	粘土	
9		10YR3.2	シルト	小礫含む
10	SD3102d	10YR3.2	粘土質シルト	炭化物含む
11		10YR3.1	粘土質シルト	炭化物含む
12		2.5Y4.3	シルト	小礫含む

No.	遺構	土色	土性	備考
13		2.5Y3.2	シルト	炭化物含む
14	SD3102e	2.5Y3.2	シルト	灰白色火山灰ブロック含む (二次堆積)
15		10YR3.1	粘土質シルト	地山ブロック含む。人為堆積
16		10YR3.1	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。人為堆積
17		SY5.2	シルト	
18		SY4.1	シルト	灰白色火山灰(自然堆積)
19		10YR3.4	シルト	炭化物含む
20		10YR4.4	シルト	地山ブロック含む
21		SY4.2	シルト	地山ブロック多量含む。人為堆積
22	SD3106	SY4.1	シルト	地山ブロック多量含む。人為堆積

第25図 2区東西道路跡他断面図



No.	遺構	土色	土性	備考
1		7.5Y8.1	粘土	
2	SD3101d	2.5Y6.3	粘土質シルト	褐色粘土ブロック含む
3		2.5Y5.3	シルト	灰白色火山灰小ブロック含む (二次堆積)
4		2.5Y5.2	粘土質シルト	炭化物含む
5	SD3101e	2.5Y4.2	粘土質シルト	
6		2.5Y3.2	粘土	灰白色火山灰小ブロック含む (二次堆積)
7		7.5Y8.1	粘土質シルト	
8		7.5Y2.1	粘土	
9		7.5Y3.1	粘土質シルト	
10	SD3102d	2.5Y5.3	粘土質シルト	褐色粘土ブロック含む
11		2.5Y4.3	粘土質シルト	褐色粘土ブロック含む
12		2.5Y4.2	シルト質粘土	炭化物含む
13		2.5Y6.3	シルト	
14	SD3102e	2.5Y5.2	シルト	灰白色火山灰含む(二次堆積)
15		2.5Y4.1	粘土質シルト	PV2層土ブロック含む

No.	遺構	土色	土性	備考
16		SY8.1	シルト	灰白色火山灰(自然堆積)
17	SD3102e	2.5Y5.3	シルト	灰白色火山灰小ブロック含む (二次堆積)
18		2.5Y4.3	シルト	炭化物・IV2層土含む
19	SD3102a	2.5Y6.4	シルト	
20		10YR4.1	粘土質シルト	炭化物・褐色粘土ブロック含む
21	SD3105	2.5Y4.1	粘土質シルト	炭化物含む
22		5Y6.1	細砂	IV2層土・褐色粘土ブロック含む
23		2.5Y6.4	シルト	明褐色シルトブロック含む
24	SD3103	2.5Y5.3	粘土質シルト	炭化物含む
25		2.5Y4.3	粘土質シルト	
26		2.5Y4.2	粘土質シルト	IV2層土ブロック含む
27		2.5Y4.2	シルト	炭化物含む
28	SD3104	10YR4.2	粘土質シルト	
29		2.5Y4.2	粘土質シルト	IV2層土ブロック含む

第26図 3区東西道路跡他断面図

【重複】2基のピットより古い。東西方向の小溝跡1条より新しい。

【規模・埋土】検出長6.00m、上幅0.83～1.10m、下幅0.35～0.43m、深さ0.35～0.41mである。方向はN-8°-Eである。埋土は1層で、自然堆積である。

【遺物】土師器坏（A）（第38図1）・甕（A）、須恵器坏・甕・瓶、平瓦が出土した。

【S D3108溝跡】（第9図）

1区の東部で検出された。

【重複】S X3099整地層・SD3109溝跡・SX3114烟跡より古い。

【規模・埋土】検出長4.77m、上幅0.25～0.52m、下幅0.08～0.35m、深さ0.04～0.10mである。方向はN-25°-E～E-13°-Nである。断面形は浅い皿形である。埋土は1層（2.5Y4/3 砂質シルト）で、自然堆積である。

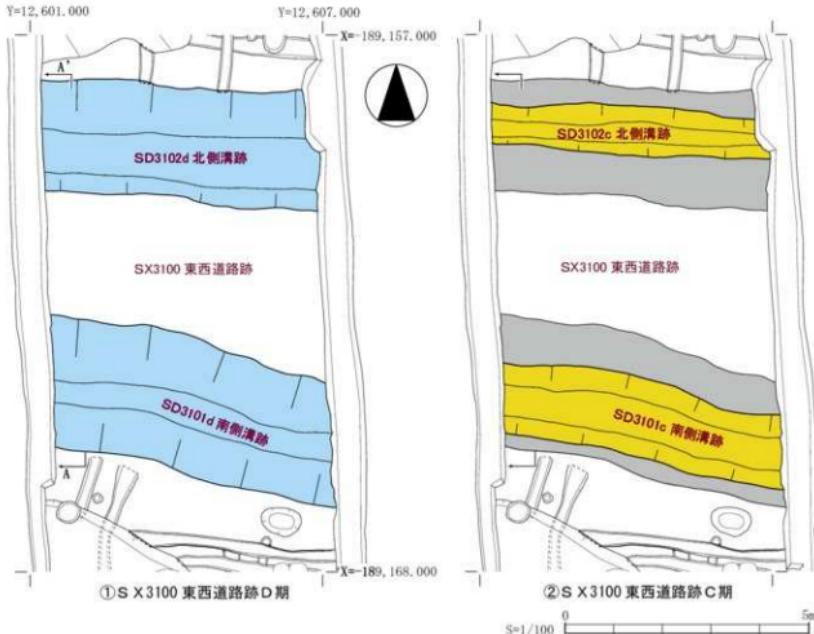
【遺物】出土していない。

【S D3109溝跡】（第8・9図、写真図版6）

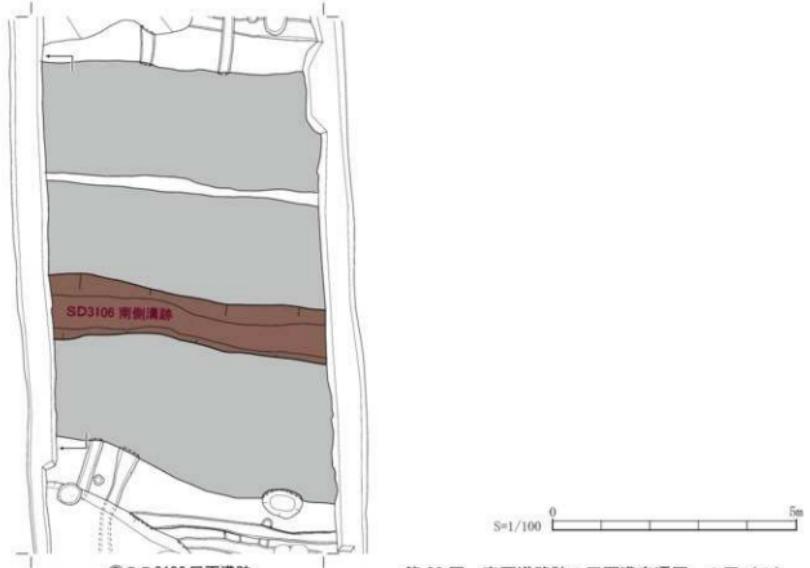
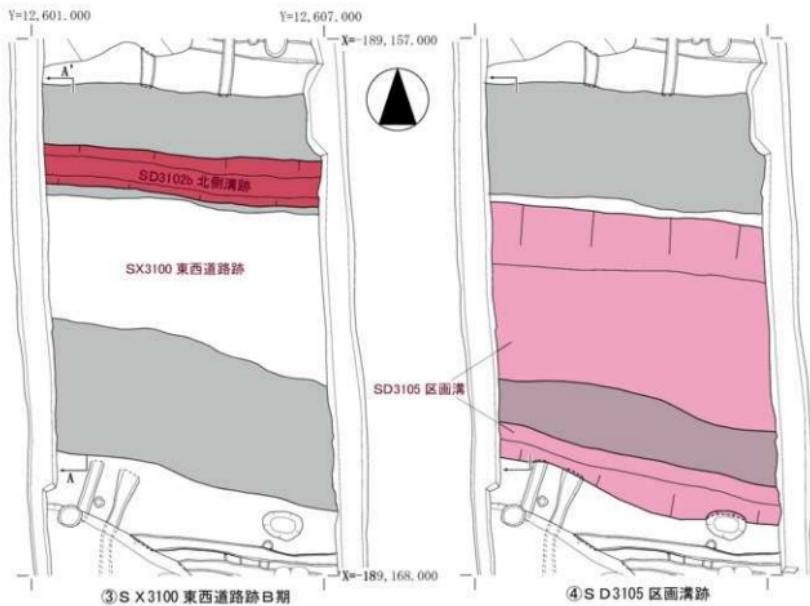
1区の中央部～東部で検出された。

【重複】S B2761・2762掘立柱建物跡、SX3114烟跡より古い。SD3108溝跡より新しい。

【規模・埋土】検出長14.30m、上幅0.30～0.63m、下幅0.15～0.45m、深さ0.07～0.11mである。方向



第27図 東西道路跡・区画溝変遷図 2区（1）



第 28 図 東西道路跡・区画溝変遷図 2 区 (2)

はE-19° - Sである。断面形は浅い皿形である。埋土は1層(2.5Y6/4 砂質シルト)で、自然堆積である。
〔遺物〕出土していない。

【SD3110区画溝跡】(第10・31図)

1区の東部で検出された。本調査区の北方向で実施された山王遺跡第187～191次調査(多賀城市教育委員会:2018)で検出された区画溝跡の延長部の可能性がある。1度の掘り直しが認められ、2時期の変遷が考えられる。

〔重複〕SX3099整地層より新しい。

〔規模・埋土〕古い時期のSD3110a区画溝跡の検出長1.05m、上幅0.76m、下幅0.46m、深さ0.32mである。方向はN-1° - Eである。埋土は1層で、自然堆積である。新しい時期のSD3110b区画溝跡の検出長1.05m、上幅1.33m、下幅0.88m、深さ0.43mである。方向はE-1° - Eである。埋土は3層で、自然堆積である。1層に灰白色火山灰が自然堆積している。

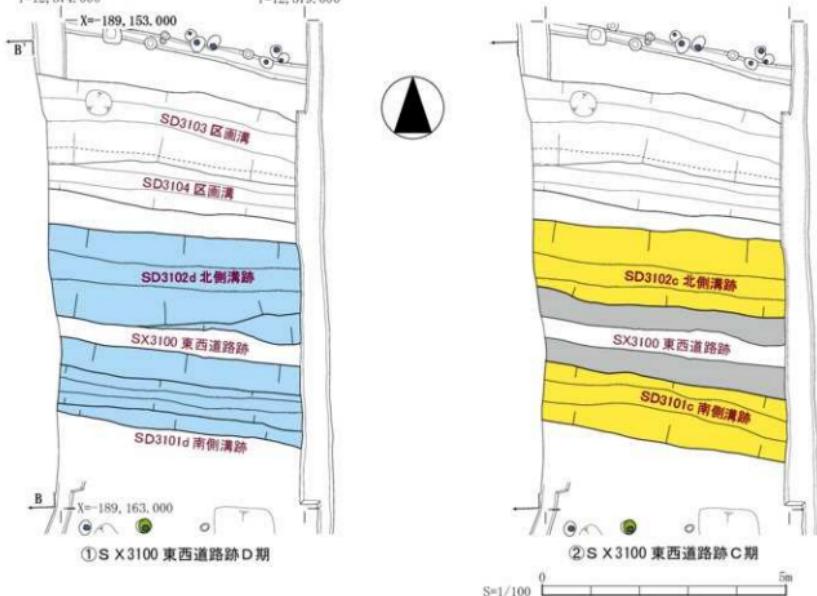
〔遺物〕1層から土器師甕(B)、須恵器壺・甕が出土した。

【SD3111溝跡】(第8・9図)

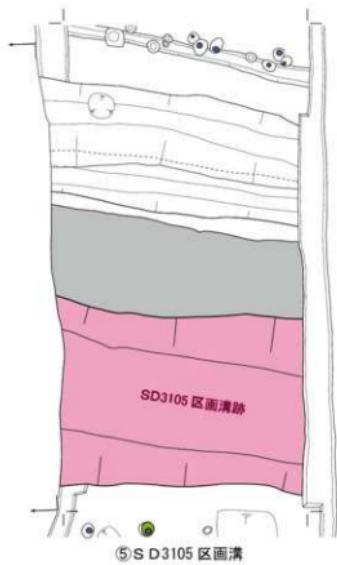
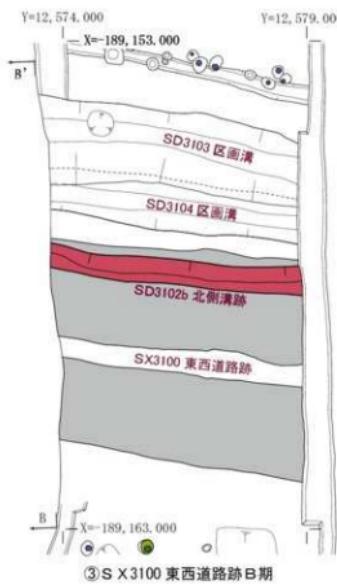
1区の北部で検出された。

〔重複〕SB2764掘立柱建物跡・SA2765掘立柱廻跡・SX3114畑跡より古い。SX3099整地層より新しい。

〔規模・埋土〕検出長4.91m、上幅0.76～1.20m、下幅0.25～0.40m、深さ0.25～0.40mである。方向Y=12,574.000
Y=12,579.000



第29図 東西道路跡・区画溝変遷図 3区(1)



S=1/100 0 5m

第30図 東西道路跡・区画溝変遷図 3区(2)

はE-5° - Sである。断面形は浅い皿形である。埋土は1層（5Y5/2 砂質シルト）で、自然堆積である。[遺物]出土していない。

【S D3112溝跡】(第12・13・31図、写真図版6)

2区の中央部で検出された。

[重複] 2基の土坑より古い。SX3117～3119畠跡より新しい。

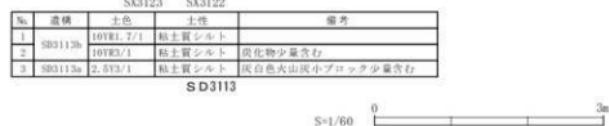
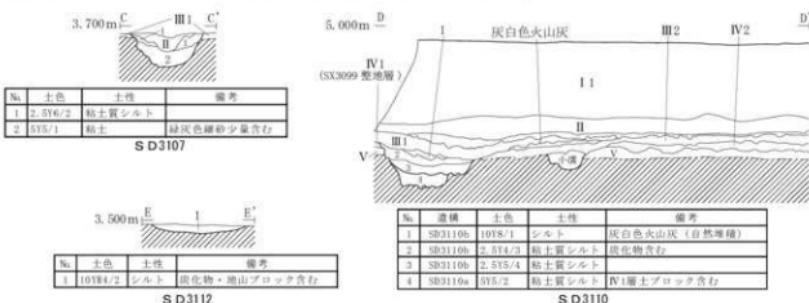
[規模・埋土] 窓んだ円形状に巡り、南北外径10.43m、南北内径6.92m、上幅1.10～1.90m、下幅0.60～1.40m、深さ0.05～0.14mである。埋土は1層で、自然堆積である。

[遺物] 土師器坏（B）（第38図6・7）・（B II）（第38図5）・（B V）・甕（A・B）、須恵器坏（第38図9）・（V）（第38図8）・蓋・高台付坏・甕・瓶が出土した。

【S D3113区画溝跡】(第23・31図、写真図版6)

2区北部・4区東部で検出された。溝跡はほぼ真北方向に延び、溝跡を境に東側と西側で遺構の様相が異なる。1度の掘り直しが認められ、2時期の変遷が考えられる。

[重複] SX3115・3122・3123畠跡、その他土坑・ピットより新しい。



第31図 溝跡断面図

[規模・埋土] 古い時期の S D 3113a区画溝跡は北壁直下部分のみ掘り下げた。検出長6.50m、上幅0.61m、下幅0.16m、深さ0.22mである。方向はN-1°-Wである。埋土は1層、自然堆積で、灰白色火山灰ブロックを含む。新しい時期の S D 3113b区画溝跡は検出長6.50m、上幅1.25~1.70m、下幅0.55~1.00m、深さ0.38mである。方向はE-1°-Wである。埋土は2層で、自然堆積である。

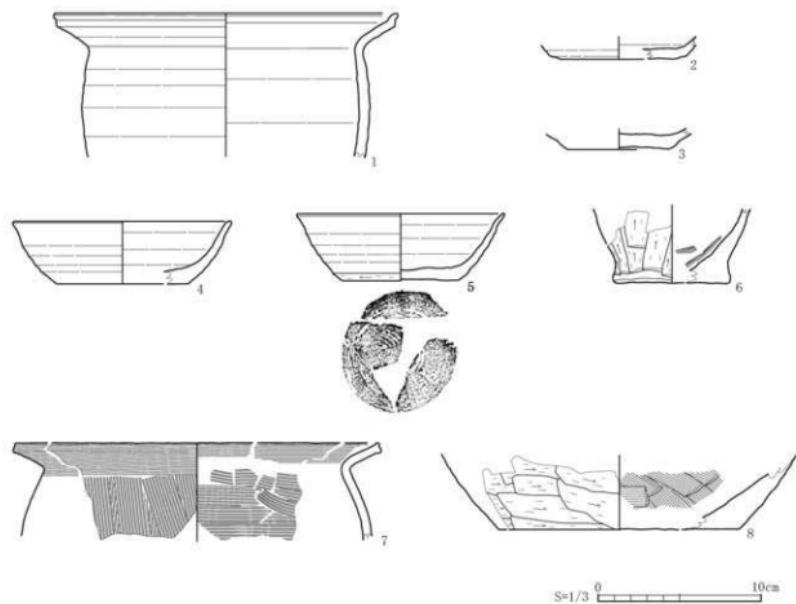
[遺物] 1層から土器器坏 (B)・甕 (B)、須恵器坏 (V)・甕、平瓦が出土した。

【S D 3192溝跡】(第16図)

3区の東部で検出された。

[重複] 接する土坑より古い。S X 3121烟跡より新しい。

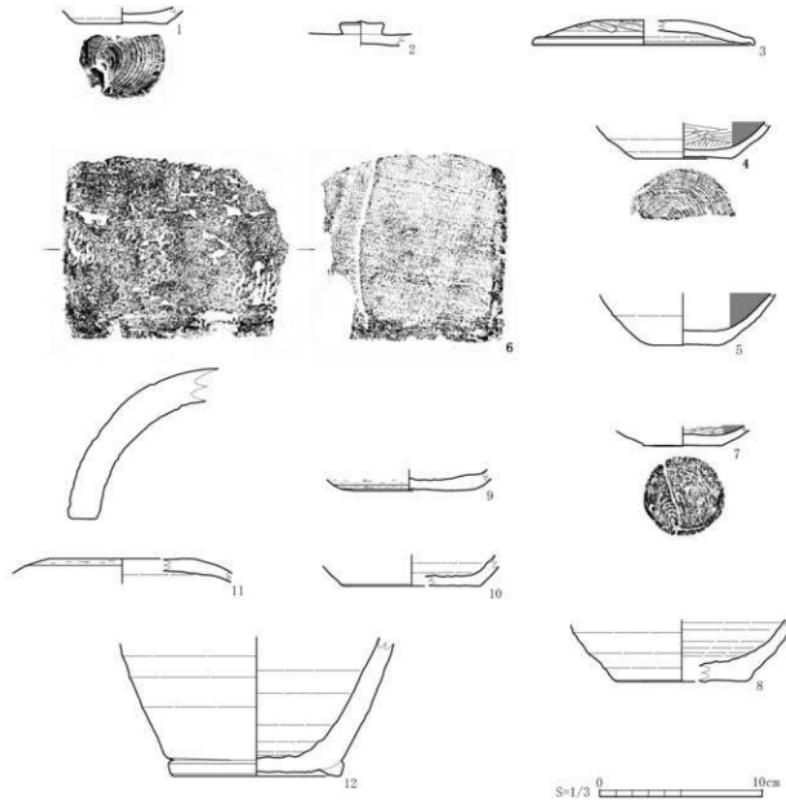
[規模・埋土] 検出長1.84m、上幅0.62m、下幅0.52m、深さ0.10mである。方向はN-8°-Wである。



S=1/3 0 10cm

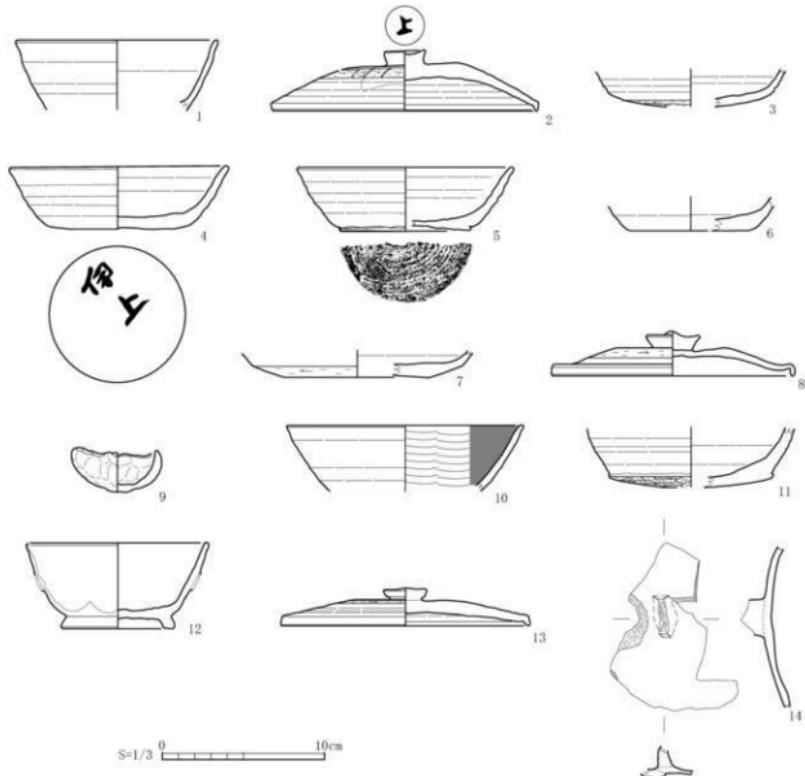
No.	種類	遺構	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	高さ	登録番号	鑑定
1	須恵器甕	3区 SD3102b	1	ロクロナデ	ロクロナデ	(20.9) × 2/24		(8.8)	R106	B期
2	須恵器坏	2区 SD3102c	2	ロクロナデ。底：回転ケズリ	ロクロナデ		(7.0) × 4/24	(1.4)	R236	C期
3	須恵器坏	3区 SD3101c	2	ロクロナデ。底：回転角烟	ロクロナデ		(6.2) × 12/24	(1.3)	R235	C期
4	須恵器坏		2	ロクロナデ。底：回転ハ切	ロクロナデ	(13.2) × 6/24	(8.0) × 8/24	2.5	R101	C期
5	須恵器坏	3区 SD3101c	2	ロクロナデ・回転ケズリ。 底：割れ無切・回転ケズリ	ロクロナデ	(12.6) × 5/24	(7.2) × 13/24	4.1	R104	C期
6	土師器甕		2	ヘラケズリ。底：手持ケズリ	ヘラナデ		(7.0) × 7/24	(4.8)	R100	C期
7	土師器甕		2	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ヨコナデ	(22.2) × 2/24		(6.0)	R99	C期
8	須恵器甕		2	ハラケズリ。底：手持ケズリ	ヘラナデ		(14.8) × 5/24	(4.6)	R105	C期

第32図 S X 3100 東西道路跡出土遺物 (1)



No.	種類	遺物	層位	外　面	内　面	口径・残存半	底径・残存半	器高	巾幅	備考
1	須恵器環		1	ロクロナデ。底：回転赤切	ロクロナデ		(5.4) × 15/24	(1.0)	R244	C期
2	須恵器蓋		1	ロクロナデ・回転ケズリ	ロクロナデ			(1.5)	R21	C期
3	須恵器蓋		1	ロクロナデ・回転ケズリ・ヘラケズリ	ロクロナデ	(13.6) × 2/24		(1.5)	R30	C期
4	土師器環		1	ロクロナデ。底：回転赤切	ヘラミガキ・黒色処理		(6.0) × 9/24	(2.2)	R220	D期
5	土師器環		1	ロクロナデ。底：回転赤切	窄減・黒色処理		(4.5) × 16/24	(3.2)	R102	D期
6	瓦		1	凸：彌タタキ目・ロクロナデ	面：赤目・ヘラケズリ	長：(9.8)	幅：(13.7)		R103	D期
7	土師器環			ロクロナデ。	底：回転赤切	ヘラミガキ・黒色処理		4.9 × 24/24	(1.2)	R229
8	土師器甕			ロクロナデ。底：手持ケズリ	ロクロナデ		(8.0) × 4/24	(3.8)	R230	
9	須恵器环			回転ケズリ。底：回転ケズリ	ロクロナデ		(8.4) × 7/24	(1.3)	R231	
10	須恵器瓶		2区 S33102	ロクロナデ。底：回転赤切、手持ケズリ	ロクロナデ		(8.4) × 5/24	(1.9)	R232	
11	須恵器蓋			ロクロナデ・回転ケズリ	ロクロナデ			(1.5)	R233	
12	須恵器瓶			ロクロナデ。底：不明	ロクロナデ		(10.4) × 11/24	(8.5)	R234	

第33図 S X3100 東西道路跡出土遺物 (2)



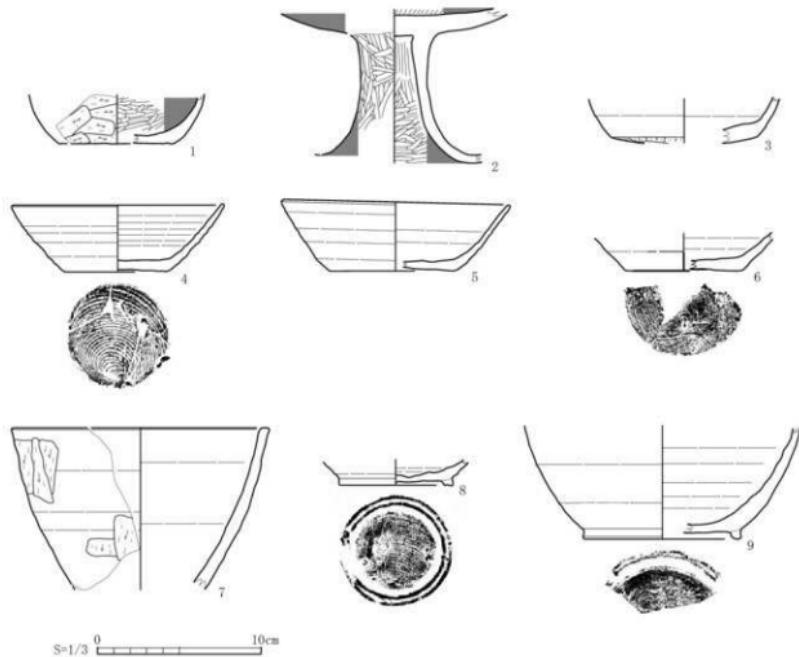
S=1/3 0 10cm

No.	種類	遺構	部位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	高さ	参考番号	備考
1	須惠器环	3区 SD3105	底面	ロクロナデ	ロクロナデ	(12.3) × 4/24		(4.3)	R117	
2	須惠器蓋		底面	ロクロナデ・回転ケズリ	ロクロナデ	(16.2) × 4/24		(3.8)	R22	墨書き「上」
3	須惠器环		3	ロクロナデ	ロクロナデ		(8.3) × 3/24	(2.2)	R124	
4	須惠器环		3	ロクロナデ。底：回転ヘラ切、回転ケズリ	ロクロナデ	(13.3) × 14/24	8.4 × 24/24	3.9	R24	墨書き「伊上」
5	須惠器环		3	ロクロナデ。底：静止柔切、手持ケズリ	ロクロナデ	(13.2) × 5/24	(8.0) × 11/24	3.9	R118	底にヘラ書き
6	須惠器环		3	ロクロナデ。底・手持ケズリ	ロクロナデ		(7.4) × 10/24	(2.1)	R119	
7	須惠器环		3	ロクロナデ・回転ケズリ。	ロクロナデ		(9.0) × 6/24	(1.7)	R122	
8	須惠器蓋		3	ロクロナデ・回転ケズリ	ロクロナデ	(14.8) × 4/24		2.7	R123	
9	[コトガ]土器		3	オサエヌ	オサエヌ	5.6 × 24/24		2.8	R121	
10	土師器环		2	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理	(14.4) × 7/24		(4.1)	R127	
11	須惠器环		2	ロクロナデ。底：手持ケズリ	ロクロナデ		(10.2) × 7/24	(3.7)	R126	
12	須惠器双耳杯		2	ロクロナデ。底・回転ケズリ	ロクロナデ	(11.0) × 2/24	(6.7) × 23/24	5.3	R128	
13	須惠器蓋		2	ロクロナデ・回転ケズリ	ロクロナデ	(15.2) × 1/24		2.3	R129	
14	須惠器平瓶		2	ロクロナデ	ロクロナデ				R43	

第34図 S D3105溝跡出土遺物（1）

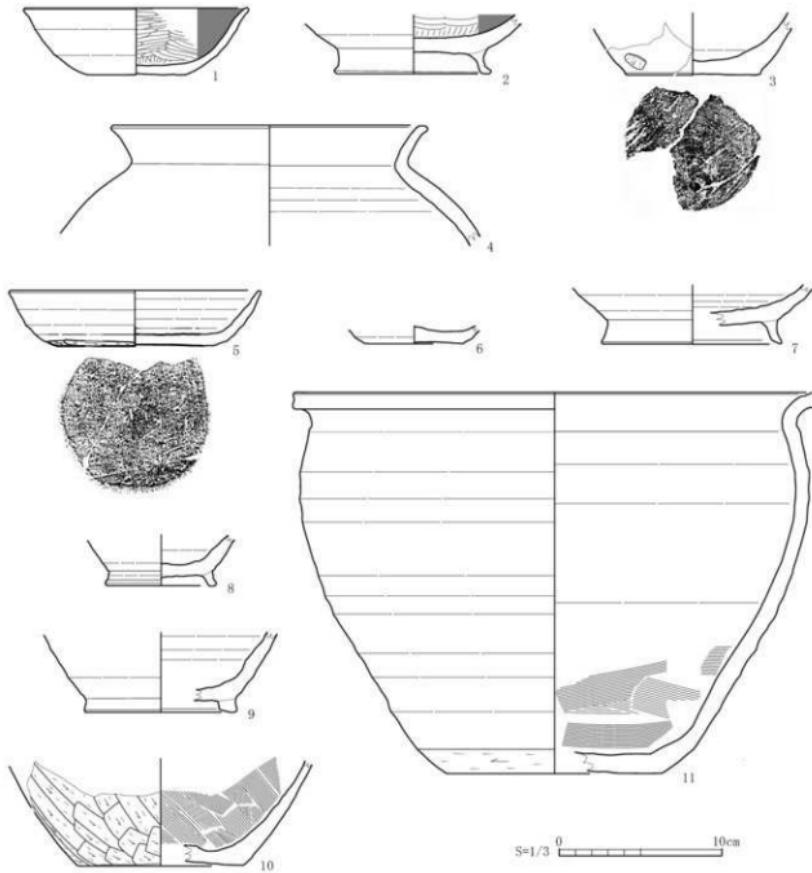
断面形は浅い皿形である。埋土は1層（10YR2/2 シルト）で、自然堆積である。

〔遺物〕土師器甕（A）（第38図2・4）、羽口（第38図3）が出土した。



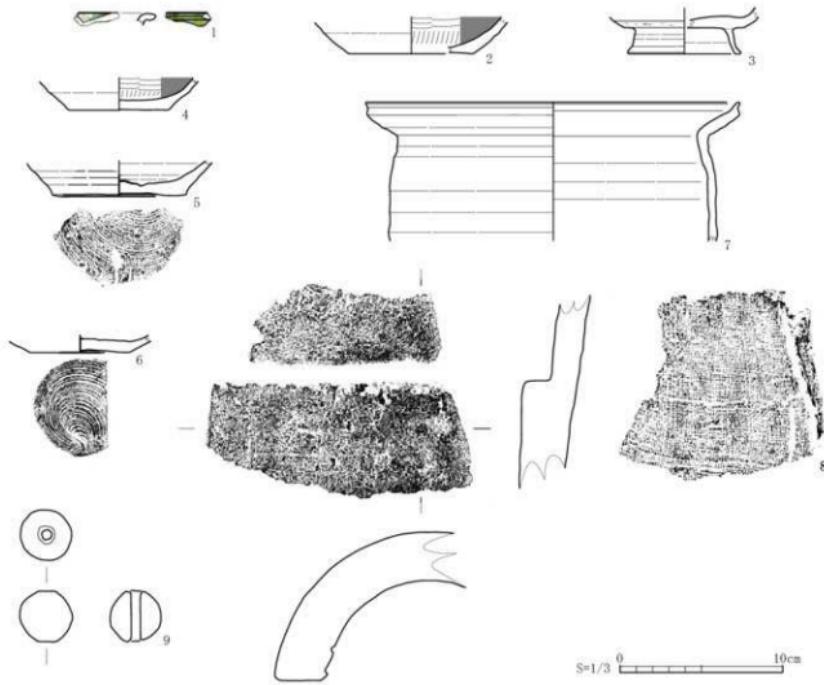
No.	種類	遺構	層位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	壁厚	備考
1	土師器甕			1 ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色處理		(7.0) × 9/24	(3.0)	R134	
2	土師器高环			1 ヘラミガキ・黒色處理	ヘラミガキ・黒色處理			(9.4)	R135	
3	土師器甕			1 ロクロナデ。底：側転ヘラ 切、手持ケズリ	ロクロナデ		(9.0) × 7/24	(2.8)	R136	
4	土師器甕		3区 SD3105	1 ロクロナデ。底：側転あ切	ロクロナデ	(12.8) × 16/24	6.2 × 24/24	4.1	R131	
5	土師器甕			1 ロクロナデ。底：摩滅	ロクロナデ	(13.8) × 14/24	(7.7) × 18/24	4.4	R130	
6	土師器甕			1 ロクロナデ。底：側転あ切	ロクロナデ	(7.0) × 10/24	(2.3)	R137		
7	土師器甕			1 ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ	(15.6) × 3/24		(9.9)	R138	
8	土師器甕			1 ロクロナデ。底：静止あ切	ロクロナデ		7.0 × 24/24	(1.6)	R132	
9	土師器甕			1 ロクロナデ。底：不明	ロクロナデ		(9.5) × 6/24	(6.9)	R133	

第35図 SD3105 溝跡出土遺物（2）



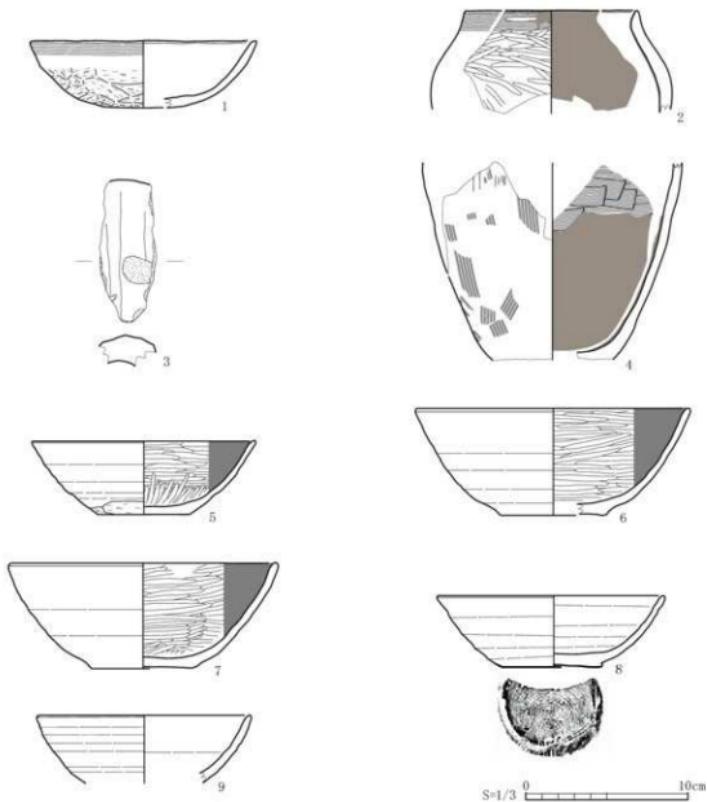
No.	種類	造構	層位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	壁厚	備考
1	土師器坏	S3105 2 区	1	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・ 黒色处理	(13.6)・2/24	(6.2)・14/24	4.1	R225	
2	土師器高台付坏		2	ロクロナデ。底：摩滅	ヘラミガキ・ 黒色处理		(9.3)・23/24	(3.6)	R242	
3	土師器壺		2	ロクロナデ・ヘラケズリ。 底：回転系切	ロクロナデ		(8.2)・12/24	(3.8)	R223	
4	土師器壺		2	ロクロナデ	ロクロナデ	(19.1)・5/24		(7.4)	R226	
5	須無器坏		2	ロクロナデ。底：手跡ケズリ	ロクロナデ	(15.3)・4/24	(9.5)・17/24	3.4	R227	
6	須無器坏		2	ロクロナデ。	ロクロナデ		(5.9)・11/24	(1.1)	R222	
7	須無器高台付坏		2	ロクロナデ。底：回転ヘラ切	ロクロナデ	(10.9)・2/24	(3.6)	R221		
8	須無器壺		2	ロクロナデ。底：回転ヘラ切	ロクロナデ	(6.8)・16/24	(3.1)	R139		
9	須無器瓶		2	ロクロナデ。底：不明	ナデ		(9.1)・7/24	(4.9)	R224	
10	須無器壺		2	ヘラケズリ	ナデ		(10.2)・8/24	(6.6)	R243	
11	須無器壺		2	回転ケズリ。底：不明	ナデ	(31.8)・2/24	(13.1)・10/24	23.4	R228	

第36図 S D3105 溝跡出土遺物（3）



%	種類	遺構	層位	外　面	内　面	口徑・壁厚	底径・残存率	測定	分類番号	備考
1	二彩or三彩 瓶類		1	施釉	施釉				R42	
2	土師器坏	SD3103	1	ロクロナデ。底：回転ケズリ。	ヘラミガキ・ 黒色処理		(7.6) × 6/24	(2.3)	R109	
3	須恵器高台付环		1	ロクロナデ・回転ケズリ。 底：回転ケズリ	ロクロナデ		(6.8) × 6/24	(2.8)	R167	
4	土師器坏		2	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.0) × 10/24	(2.6)	R110	
5	土師器甕	SD3104	1	ロクロナデ。底：回転系切	ロクロナデ		(6.2) × 11/24	(2.2)	R111	
6	須恵器坏		1	ロクロナデ。底：回転系切	ロクロナデ		(6.0) × 16/24	(1.1)	R114	
7	土師器甕		1	ロクロナデ	ロクロナデ	(22.9) × 5/24		(8.5)	R112	
8	丸瓦		1	凸：ロクロナデ	圓：布目	長：(12.3)	幅：(12.5)		R116	
9	土玉		1	ナゾワケ		縦：(3.1)	横：(3.2)		R113	

第37図 SD3103・3104溝跡出土遺物



No.	種類	遺構	層位	外面	内面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1.	土師器环	SD3107	2	ヨコナデ・ヘラケズリ。 底: 手持ケズリ	摩滅	(13.9) × 8/24	(5.0) × 8/24	4.2	R256	
2.	土師器便		2.	ヨコナデ・ヘラミガキ。 漆付着	不明。漆付着	(10.6) × 3/25		(6.3)	R263	
3.	羽口	SD3192	2.	オサヌメ		長: (8.7)	幅: (3.8)		R98	
4.	土師器便		2.	ハケヌメ	ヘラナダ。 漆付着		(12.1) × 7/24	(12.1)	R41	
5.	土師器环		1.	ロクロナデ・手持ケズリ。 底: 手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.8) × 3/24	(5.8) × 22/24	4.5	R1	
6.	土師器环		1.	ロクロナデ。底: 摩滅	ヘラミガキ・ 黒色処理	(16.8) × 4/24	(6.4) × 10/24	6.6	R2	
7.	土師器环	SD3112	1.	ロクロナデ。底: 摩滅	ヘラミガキ・ 黒色処理	(16.4) × 11/24	(6.3) × 13/24	6.5	R3	
8.	須恵器环		1.	ロクロナデ。	ロクロナデ	(13.9) × 15/24	(6.1) × 17/24	4.4	R4	
9.	須恵器环		1.	ロクロナデ	ロクロナデ	(13.1) × 4/24		(4.2)	R237	

第38図 S D3107・3192・3112溝跡出土遺物



第32図1



第32図6



第32図4



第32図5



第32図7



第32図8



第32図8



第33図3



第33図6



8



第33図4



第33図5



第33図7



第33図9



第33図8



第33図10



第33図12

15

写真図版1



第34図1 1



第34図2



第34図3 3



第34図4



4



第34図5 5



第34図6 6



第34図8

7



第34図9 8



第34図10 9



第34図11 10



第34図12 11



第34図13



第34図14 13



第35図1 14



第35図2 15



第35図3 16



第35図4 17



第35図5 18



第35図6 19



第35図7 20

写真図版2



第35図8 1



第35図9 2



第36図1 3



第36図2 4



第36図3 5



第36図4 6



第36図5 7



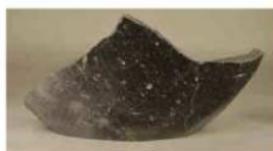
第36図7 8



第36図8 9



第36図9 10



第36図10 11



第36図11 12



SD1105-1層出土鉄滓 13

写真図版3



第37図1



1



第37図2

2



第37図3

3



4

SD3103-1層出土鉄滓



第37図4

5



第37図5

6



第37図7

7



第37図8

8



第37図9

9



SD3104-1層出土灰釉陶器

10



第38図1

11



第38図2

12



第38図4

14



第38図3

13



第38図5

15



第38図8

18



第38図6

16



第38図7

17



第38図9

19

写真図版4



2区 S X3100 東西道路跡検出（東から）



2区 S X3100 東西道路跡、S D3105 · 3106 区画溝跡完掘（東から）



2区 S X3100 東西道路跡、S D3105 · 3106 区画溝跡断面（東から）



3区 S X3100 東西道路跡、S D3103 · 3104 区画溝跡検出（東から）



3区 S X3100 東西道路跡D期（東から）



3区 S X3100 東西道路跡C期（東から）



3区 S X3100 東西道路跡、S D3103 · 3104 · 3105 区画溝跡完掘（東から）



3区 S X3100 東西道路跡、S D3103 · 3104 · 3105 区画溝跡断面（東から）

写真図版5



3区北半部完掘（南東から）



3区SD3103区画溝跡完掘（東から）



3区SD3103・3104区画溝跡完掘（東から）



1区SD3107区画溝跡断面（北から）



1区SD3109区画溝跡検出（北東から）



2区SD3112溝跡完掘（東から）



4区SD3113区画溝跡検出（北から）



4区SD3113区画溝跡断面（南から）

写真図版 6

(4) 堀立柱建物跡

27棟の堀立柱建物跡を検出した。

【S B2760堀立柱建物跡】(第7・8・39・42図、写真図版8)

1区西部で検出した桁行3間、梁行2間以上の東西棟堀立柱建物跡である。

【重複】S X3114烟跡より新しい。

【規模】桁行は西から2.71m・2.60m・1.76m、総長7.07mである。梁行は東妻で1.96m、西妻で検出長は3.62mである。方向は北側柱列でE-13°-Sである。

【柱穴】一辺0.36～0.53mの隅丸方形で、深さ0.33～0.90mである。掘方埋土に灰白色火山灰ブロックを含む。

【柱痕跡】直径0.12～0.16mの円形である。

【遺物】出土していない。

【S B2761堀立柱建物跡】(第8・39・42図、写真図版8)

1区中央部で検出した桁行2間、梁行1間の南北棟堀立柱建物跡である。

【重複】S X3114烟跡より新しい。

【規模】桁行は東側柱列で北から2.45m・2.67m、総長5.12mである。梁行は南妻で3.17m（総長）である。方向は東側柱列でN-12°-Eである。

【柱穴】直径0.18～0.27mの円形で、深さ0.16～0.34mである。柱抜取穴を確認し、埋土に灰白色火山灰ブロックを含む。

【柱痕跡】確認されなかった。

【遺物】出土していない。

【S B2762堀立柱建物跡】(第8・9・39・42図、写真図版8)

1区中央部で検出した桁行3間以上、梁行1間の南北棟堀立柱建物跡である。

【重複】S X3114烟跡より新しい。

【規模】桁行は西側柱列で北から2.28m・2.72m、総長5.00mである。梁行は北妻で3.10m（総長）である。方向は東側柱列でN-12°-Eである。

【柱穴】一辺0.15～0.30mの隅丸方形で、深さ0.14～0.26mである。柱抜取穴を確認した。

【柱痕跡】直径0.07～0.15mの円形である。

【遺物】出土していない。

【S B2763堀立柱建物跡】(第8・9・39図、写真図版8)

1区中央部で検出した桁行2間以上、梁行1間の南北棟堀立柱建物跡である。

【重複】S X3114烟跡より新しい。

【規模】桁行は西側柱列で2.73mである。梁行は北妻で2.91m（総長）である。方向は西側柱列でN-13°-Eである。

【柱穴】一辺0.25～0.31mの隅丸方形や長径0.32mの楕円形で、深さ0.05～0.15mである。掘方埋土に灰白色火山灰ブロックを含む。柱抜取穴を確認した。

【柱痕跡】直径0.10mの円形である。

【遺物】出土していない。

【S B2764掘立柱建物跡】(第8・9・39・42・43図、写真図版8)

1区中央部で検出した東西2間以上、南北2間以上の掘立柱建物跡である。

〔重複〕S D3111溝跡・S X3114烟跡より新しい。

〔規模〕東西柱列で2.37mである。南北柱列で2.39mである。方向は東側柱列でN-2°-Eである。

〔柱穴〕一辺0.20~0.33mの隅丸方形で、深さ0.17~0.37mである。掘方埋土に灰白色火山灰ブロックを含む。柱抜取穴を確認した。

〔柱痕跡〕直径0.11~0.15mの円形である。

〔遺物〕出土していない。

【S B3064掘立柱建物跡】(第18・40・43図、写真図版8)

3区西南部で検出した桁行2間、梁行2間の東西棟総柱建物跡である。

〔重複〕S K3218土坑より古い。S K3217土坑・S X3120・3121烟跡より新しい。

〔規模〕桁行は北柱列で西から1.54・1.80m、総長3.34mである。梁行は東妻で北から1.63・1.70m、総長3.33mである。方向は北側柱列でE-8°-Sである。

〔柱穴〕一辺0.30~0.46mの隅丸方形で、深さ0.19~0.36mである。

〔柱痕跡〕直径0.11~0.22mの円形である。

〔遺物〕掘方埋土から土師器壺(B)・甕(A)、須恵器甕が出土した。柱痕跡から土師器壺(B)・甕(B)が出土した。柱抜取穴から土師器壺(BV)(第50図1)、須恵器壺が出土した。埋土から須恵器壺(V)(第50図2)が出土した。

【S B3065掘立柱建物跡】(第17・40・43・44図)

3区東部で検出した桁行1間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。建て替えが認められ2時期ある。

〔重複〕S X3120・3121烟跡より新しい。

〔規模〕古い時期のS B3065a掘立柱建物跡の桁行は南柱列で3.63m(総長)である。梁行は東妻で3.50m(総長)である。方向は北側柱列でE-7°-Sである。新しい時期のS B3065b掘立柱建物跡の桁行は南柱列で3.65m(総長)である。梁行は東妻で3.55m(総長)である。方向は北側柱列でE-3°-Sである。

〔柱穴〕S B3065aは一辺0.33~0.45mの隅丸方形や長径0.50mの楕円形で、深さ0.31~0.43mである。柱抜取穴を確認した。S B3065bは一辺0.40~0.50mの隅丸方形や長径0.30mの楕円形で、深さ0.26~0.61mである。柱抜取穴を確認した。

〔柱痕跡〕S B3065aは直径0.12~0.16mの円形である。S B3065bは直径0.15mの円形である。

〔遺物〕S B3065aの埋土から土師器甕が出土した。S B3065bの柱痕跡から土師器甕、埋土から土師器甕(B)が出土した。

【S B3066掘立柱建物跡】(第17・40図)

3区東部で検出した桁行2間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

〔重複〕S K3089土坑より新しい。

〔規模〕桁行は北柱列で西から2.98・2.95m、総長5.93mである。梁行は東妻で2.50m(総長)である。方向は北側柱列でE-1°-Sである。

〔柱穴〕一辺0.20~0.30mの隅丸方形で、深さ0.16~0.34mである。

〔柱痕跡〕直径0.10~0.13mの円形である。

[遺物]出土していない。

【S B3067掘立柱建物跡】(第17・40図)

3区東部で検出した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。

[重複] S K3089土坑より新しい。

[規模]桁行は南柱列で西から2.95・3.42m、総長6.37mである。梁行は東妻で北から1.26・1.78m、総長3.04mである。方向は南側柱列でE-1°-Sである。

[柱穴]一辺0.18～0.48mの方形や隅丸方形、長径約0.25mの楕円形で、深さ0.14～0.29mである。

[柱痕跡]直径0.07～0.12mの円形である。

[遺物]出土していない。

【S B3068掘立柱建物跡】(第19・40・44図、写真図版8)

3区中央部で検出した桁行1間、梁行1間の南北棟掘立柱建物跡である。

[重複] S B3071・3072掘立柱建物跡、S X3120烟跡より新しい。

[規模]桁行は東柱列で2.07m（総長）である。梁行は北妻で1.85m（総長）である。方向は東側柱列でN-12°-Eである。

[柱穴]一辺0.30～0.45mの隅丸方形や直径0.23mの不整円形で、深さ0.19～0.24mである。柱抜取穴を確認した。

[柱痕跡]直径0.11～0.17mの円形である。

[遺物]埋土から土師器壺（A）が出土した。

【S B3069掘立柱建物跡】(第19・40・44図、写真図版8)

3区中央部で検出した桁行1間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

[重複]ない。

[規模]桁行は北柱列で1.95m（総長）である。梁行は東妻で1.55m（総長）である。方向は北側柱列でE-1°-Nである。

[柱穴]直径0.21～0.32mの不整円形で、深さ0.18～0.30mである。

[柱痕跡]直径0.13～0.15mの円形である。

[遺物]出土していない。

【S B3071掘立柱建物跡】(第19・40・44・45図、写真図版8)

3区中央部で検出した桁行2間、梁行2間の南北棟総柱建物跡である。

[重複] S X3120・3121烟跡より新しい。

[規模]桁行は東柱列で北から1.03・2.59m、総長3.62mである。梁行は北妻で西から1.43・2.00m、総長3.43mである。方向は東側柱列でN-9°-Eである。

[柱穴]一辺0.24～0.73mの隅丸方形で、深さ0.16～0.34mである。柱抜取穴を確認した。

[柱痕跡]直径0.12～0.21mの円形である。

[遺物]埋土から土師器壺（B II）（第50図3）・壺が出土した。

【S B3072掘立柱建物跡】(第19・40・45図、写真図版8)

3区中央部で検出した桁行3間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。

[重複] S B3068掘立柱建物跡、ピットより古い。S X3120烟跡より新しい。

【規模】桁行は北柱列で西から1.06・1.10・1.30m、検出長3.46mである。梁行は東妻で北から1.62・1.07m、総長2.69mである。方向は北側柱列でE-6°-Sである。

【柱穴】一辺0.34～0.85mの隅丸方形や直径0.36の円形で、深さ0.20～0.32mである。柱抜取穴を確認した。

【柱痕跡】直径0.11～0.20mの円形である。

【遺物】出土していない。

【S B3073掘立柱建物跡】(第21・41・45図、写真図版8)

3区北部・4区西部で検出した桁行1間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

【重複】S X3122・3123烟跡より新しい。

【規模】桁行は北柱列で3.12m(総長)である。梁行は東妻で3.05m(総長)である。方向は北側柱列でE-1°-Sである。

【柱穴】直径0.18～0.32mの不整円形や一辺0.26～0.37mの隅丸方形で、深さ0.22～0.28mである。

【柱痕跡】直径0.09～0.13mの円形である。

【遺物】埋土から土師器壺(B)・甕(A・B)が出土した。

【S B3074掘立柱建物跡】(第21・41・45・46図、写真図版8)

3区北部・4区西部で検出した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。

【重複】S X3122・3123烟跡より新しい。

【規模】桁行は南柱列で西から2.20・2.41m、総長4.61mである。梁行は東妻で北から1.98・1.85m、総長3.83mである。方向は南側柱列でE-4°-Sである。

【柱穴】一辺0.25～0.35mの隅丸方形や直径0.20～0.25mの円形で、深さ0.14～0.50mである。

【柱痕跡】直径0.10～0.20mの円形である。

【遺物】埋土から土師器甕(B)、須恵器壺(第50図4)・蓋が出土した。

【S B3075掘立柱建物跡】(第21・41・46図、写真図版8)

3区北部で検出した桁行2間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

【重複】S B3082掘立柱建物跡より古い。S B3076掘立柱建物跡、S X3122・3123烟跡、土坑より新しい。

【規模】桁行は南柱列で西から2.30・2.25m、総長4.55mである。梁行は西妻で1.88m(総長)である。方向は南側柱列でE-4°-Sである。

【柱穴】一辺0.26～0.60mの隅丸方形で、深さ0.28～0.50mである。

【柱痕跡】直径0.13～0.18mの円形である。

【遺物】柱痕跡から土師器甕(B)・須恵器甕が出土した。埋土から土師器壺(B)・甕(A・B)、須恵器壺・蓋・甕が出土した。

【S B3076掘立柱建物跡】(第21・41・46図、写真図版8)

3区北部で検出した桁行1間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

【重複】S B3075掘立柱建物跡より古い。S X3122烟跡より新しい。

【規模】桁行は北柱列で2.35m(総長)である。梁行は西妻で1.81m(総長)である。方向は北側柱列でE-2°-Sである。

【柱穴】直径0.25mの不整円形や一辺0.33mの隅丸方形で、深さ0.25～0.39mである。

【柱痕跡】直径0.07～0.15mの円形である。

【遺物】埋土から土師器壺（B）・甕（A）、須恵器壺が出土した。

【S B3077掘立柱建物跡】（第22・41・46図、写真図版8）

4区中央部で検出した桁行3間、梁行2間以上の南北棟掘立柱建物跡である。

【重複】S K3096土坑、S X3122・3123痕跡より新しい。

【規模】桁行は東柱列で北から1.96・1.92・1.96m、総長5.84mである。梁行は南妻で2.29m（検出長）である。方向は東側柱列でN-15°-Eである。

【柱穴】直径0.31～0.36mの円形や長径0.36mの楕円形で、深さ0.44～0.55mである。

【柱痕跡】直径0.12～0.14mの円形である。

【遺物】埋土から土師器甕（B）、須恵器甕が出土した。

【S B3078掘立柱建物跡】（第22・41・46・47図、写真図版8）

4区中央部で検出した桁行2間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。

【重複】S X3122・3123痕跡より新しい。

【規模】桁行は東柱列で北から2.25・1.90m、総長4.15mである。梁行は北妻で西から1.59・1.36m、総長2.95mである。方向は西側柱列でN-6°-Eである。

【柱穴】一辺0.30～0.40mの隅丸方形や直径0.21～0.31mの不整円形で、深さ0.28～0.51mである。柱抜取穴を確認した。

【柱痕跡】直径0.08～0.21mの円形である。

【遺物】埋土から土師器甕（A）・（B）（第50図5）が出土した。

【S B3079掘立柱建物跡】（第22・41・47図、写真図版8）

4区中央部で検出した桁行1間、梁行1間の南北棟掘立柱建物跡である。

【重複】S X3122・3123痕跡より新しい。

【規模】桁行は東柱列で2.40m（総長）である。梁行は北妻で2.15m（総長）である。方向は東側柱列でN-3°-Eである。

【柱穴】直径0.35～0.45mの不整円形で、深さ0.17～0.28mである。

【柱痕跡】直径0.13～0.16mの円形である。

【遺物】埋土から土師器壺（B）・甕（A・B）、須恵器壺・甕が出土した。

【S B3080掘立柱建物跡】（第22・41・47・48図、写真図版8）

4区中央部で検出した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。建て替えが認められ2時期ある。

【重複】S B3081掘立柱建物跡、S X3120・3121痕跡より新しい。

【規模】古い時期のS B3080a掘立柱建物跡の桁行は東柱列で北から2.28・1.84・2.20m、総長は6.32mである。梁行は北妻で3.38m（総長）である。方向は西側柱列でN-1°-Eである。新しい時期のS B3065b掘立柱建物跡の桁行は東柱列で北から1.73・2.43・2.32m、総長は6.48mである。梁行は北妻で西から1.80・1.88m、総長3.68mである。方向は西側柱列でN-1°-Eである。

【柱穴】S B3080aは一辺0.26～0.42mの隅丸方形や長径約0.33～0.48mの楕円形で、深さ0.19～0.42mである。S B3080bは一辺0.25～0.55mの隅丸方形や長径0.25mの楕円形で、深さ0.13～0.33mである。

【柱痕跡】S B3080aは直径0.09～0.24mの円形である。S B3065bは直径0.25～0.37mの円形である。

【遺物】S B 3080aの埋土から土師器甕（B）（第50図7）、須恵器坏（IIa）（第50図6）・甕、羽口（第50図8）が出土した。S B 3065bの埋土から土師器坏（B）・甕（A）、須恵器坏が出土した。

【S B3081掘立柱建物跡】（第22・41・48図、写真図版8）

4区中央部で検出した桁行2間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

【重複】S B 3080掘立柱建物跡より古い。S X3122・3123痕跡より新しい。

【規模】桁行は南柱列で西から1.64・1.56m、総長3.20mである。梁行は西妻で2.10m（総長）である。方向は北側柱列でE-1°-Sである。柱抜取穴を確認した。

【柱穴】一辺0.21～0.30mの隅丸方形や直径0.37mの不整円形で、深さ0.14～0.30mである。

【柱痕跡】直径0.10～0.14mの円形である。

【遺物】出土していない。

【S B3082掘立柱建物跡】（第21・41図、写真図版8）

3区北部で検出した桁行2間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

【重複】S X 3122痕跡より新しい。

【規模】桁行は北柱列で西から1.89・2.11m、総長4.00mである。梁行は東妻で3.02m（総長）である。方向は南側柱列でE-1°-Nである。

【柱穴】一辺0.16～0.32mの隅丸方形で、深さ0.15～0.43mである。

【柱痕跡】直径0.11～0.14mの円形である。

【遺物】埋土から土師器坏（B）（第50図9）・甕（A・B）、須恵器坏が出土した。

【S B3083掘立柱建物跡】（第18・40・48図、写真図版8）

3区南西部で3個の柱穴を検出し、掘立柱建物跡と考えられる。建て替えが認められ2時期ある。

【重複】ない。

【規模】古い時期のS B 3083a掘立柱建物跡の柱間は西から2.68・2.30mで、総長4.98mである。方向はE-5°-Sである。新しい時期のS B 3083b掘立柱建物跡の規模は確認されなかった。

【柱穴】S B 3083aは長辺1.10～1.50m、短辺1.00mの長方形・隅丸長方形で、深さ0.64～0.74mである。S B 3083bは半截により確認され、一辺0.60～0.86m、深さ0.53～0.63mである。柱抜取穴を確認し、埋土に多量の炭化物・焼土を含む。

【柱痕跡】確認されなかった。

【遺物】S B 3083aの埋土から土師器壺（第50図10）が出土した。S B 3083bの柱抜取穴から土師器坏（A）、須恵器蓋が出土した。埋土から土師器が出土した。

（5）掘立柱壠跡

2条の掘立柱壠跡を検出した。

【S A2765掘立柱壠跡】（第9・39・49図、写真図版8）

1区中央部で検出した南北2間以上の掘立柱壠跡である。

【重複】S X3114痕跡より新しい。

【規模】柱間は2.87mである。方向はN-14°-Eである。

【柱穴】長径0.24～0.31mの楕円形で、深さ0.18～0.21mである。柱抜取穴を確認した。

【柱痕跡】確認されなかった。

【遺物】出土していない。

【S A3098掘立柱壙跡】(第23・41・49図、写真図版8)

4区東部で検出した東西3間、南北2間以上の掘立柱跡である。

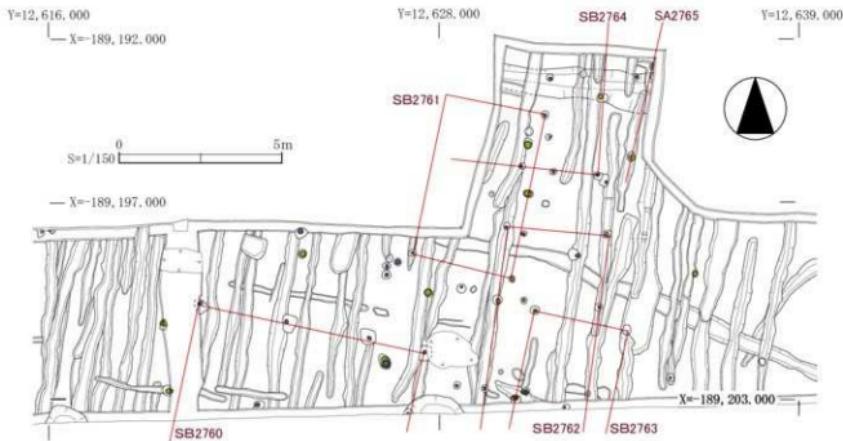
【重複】S K3097土坑、S X3122・3123壙跡より新しい。

【規模】柱間は東西方向で西から1.53・1.26・1.37m、総長4.16mである。方向はE-6°-Sである。南北方向で北から2.17・2.13m、検出長4.30mである。方向はN-1°-Wである。

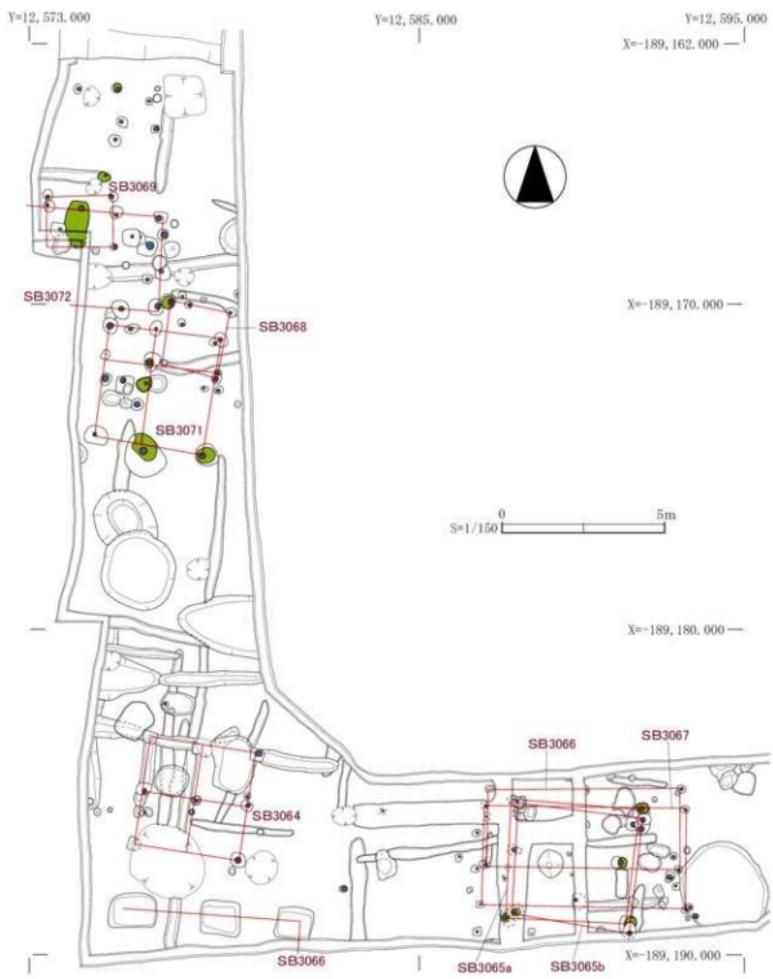
【柱穴】直径0.19～0.30mの不整円形や一辺0.28～0.35mの隅丸方形で、深さ0.19～0.50mである。

【柱痕跡】直径0.08～0.17mの円形である。

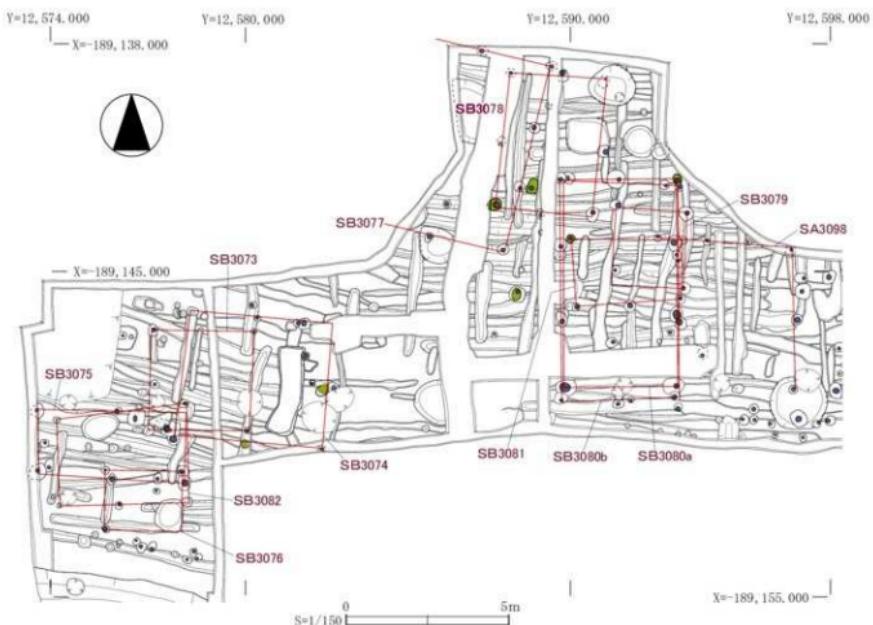
【遺物】埋土から土師器甕(B)、須恵器坏が出土した。



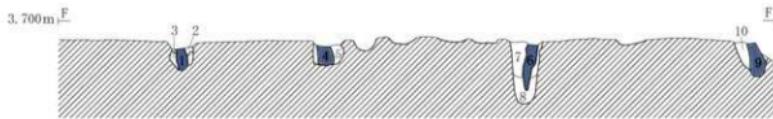
第39図 1区掘立柱建物跡等位置図



第40図 3区掘立柱建物跡等位置図



第 41 図 3・4 区掘立柱建物跡等位置図



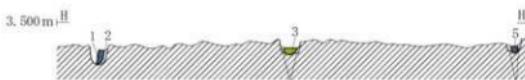
No.	土色	土性	備考
1	2,5Y4/2	粘土	灰白色火山灰粒微量含む。柱痕跡
2	2,5Y4/1	シルト	淡オリーブ色シルト・灰白色火山灰ブロック少量含む。側方埋土
3	2,5Y4/1	シルト	淡黄色細砂・灰白色火山灰ブロック多量含む。側方埋土
4	2,5Y4/2	粘土	灰白色火山灰粒微量含む。柱痕跡
5	2,5Y4/1	シルト	淡黄色細砂・灰白色火山灰ブロック多量含む。底面に礫板。側方埋土
6	2,5Y4/2	粘土	灰白色火山灰粒微量含む。柱痕跡
7	2,5Y4/1	シルト	淡黄色細砂・灰白色火山灰ブロック多量含む。側方埋土
8	5Y4/1	粗砂	灰白色火山灰ブロック少量含む。黒褐色粘土粒微量含む。側方埋土
9	2,5Y4/2	粘土	灰白色火山灰粒微量含む。柱痕跡
10	2,5Y4/1	シルト	淡黄色細砂・灰白色火山灰ブロック多量含む。側方埋土

S B2760



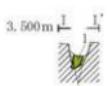
No.	土色	土性	備考
1	10TR3/1	粘土	灰白色火山灰粒少量含む。柱痕跡
2	10TR3/1	シルト	淡黄色細砂少量含む。側方埋土
3	10TR3/1	シルト	淡黄色細砂・灰白色火山灰粒少量含む。柱痕跡
4	10TR4/1	シルト	淡黄色細砂多量含む。側方埋土
5	10TR3/1	粘土	灰白色火山灰粒少量含む。柱痕跡
6	10TR4/1	シルト	淡黄色細砂少量含む。側方埋土

S B2761



No.	土色	土性	備考
1	10TR3/1	粘土	柱痕跡
2	10YR4/1	シルト	淡黄色細砂少量含む。側方埋土
3	10YR4/1	シルト	淡黄色細砂多量含む。柱痕跡
4	5Y8/2	シルト	鵝灰色シルト粒少量含む。側方埋土
5	10TR3/1	粘土	柱痕跡
6	10YR4/1	シルト	淡黄色細砂少量含む。側方埋土

S B2762 (1)



No.	土色	土性	備考
1	10TR3/1	シルト	淡黄色細砂・炭化物少量含む。柱痕跡
2	10YR4/1	シルト	淡黄色細砂多量含む。側方埋土

S B2762 (2)



No.	土色	土性	備考
1	10YR5/1	シルト	淡黄色細砂少量含む。柱痕跡
2	10YR4/1	シルト	淡黄色細砂多量含む。周作物微量含む。側方埋土

S B2764 (1)

第 42 図 据立柱建物跡断面図 (1)

Scale 1/60 0 2m

3. 500m K K'



No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1	粘土	柱痕跡
2	5YR3/3	砂	褐色灰色粘土多量含む。塑性理土。

S B2764 (2)

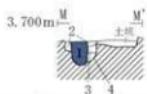
3. 500m L L'



別の透構

No.	土色	土性	備考
1	10YRA/1	粘土	柱痕跡
2	10YRA/1	シルト	淡黄色細砂斑状に含む。灰白色火山灰粒少量含む。塑性理土。

S B2764 (3)



No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2	シルト	地山小ブロック少量含む。柱痕跡
2	10YR2/2	シルト	地山ブロック多量含む。塑性理土
3	10YR3/1	シルト	地山ブロック多量含む。塑性理土
4	10YR3/1	砂	黑色土ブロック少量含む。塑性理土

S B3064 (1)

No.	土色	土性	備考
1	2.5Y3/1	シルト	地山ブロック多量含む。炭化物微量含む。柱痕跡
2	5Y2/2	シルト	柱痕跡
3	2.5Y2/1	シルト	地山ブロック多量含む。塑性理土

S B3064 (3)

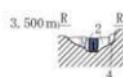


No.	道構	土色	土性	備考
1	SB3064	10YR2/2	シルト	地山小ブロック少量含む。柱痕跡
2		10YR2/2	シルト	地山ブロック多量含む。塑性理土
3		10YR4/1	粘土	柱痕跡
4	ピット	2.5Y3/2	シルト	地山小ブロック少量含む。塑性理土

S B3064 (2)

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2	シルト	地山ブロック多量含む。柱痕跡
2	10YR3/2	シルト	地山小ブロック・炭化物少量含む。塑性理土
3	2.5Y2/1	シルト	黑色土少量含む。塑性理土

S B3064 (4)

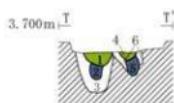


No.	土色	土性	備考
1	5Y2/1	粘土	地山ブロック少量含む。柱痕跡
2	10Y4/1	砂	黑色土ブロック少量含む。柱痕跡
3	2.5Y2/1	シルト	黑色土少量含む。塑性理土
4	10Y4/1	砂	黑色土ブロック多量含む。塑性理土

S B3064 (5)

No.	道構	土色	土性	備考
1	SB3065b	10YR2/2	粘土	柱痕跡
2		10YR3/1	シルト	酸化鉄含む。塑性理土
3	SB3065a	10YR3/3	シルト	塑性理土
4	ピット	10YR3/1	シルト	塑性理土

S B3065 (1)

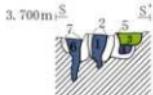


No.	道構	土色	土性	備考
1		10YR3/2	シルト	炭オーリーブ色砂多量含む。柱抜取穴
2	SB3065b	2.5Y3/1	砂質シルト	炭オーリーブ色砂多量含む。柱痕跡
3		10YR3/2	シルト	炭オーリーブ色砂・酸化鉄多量含む。塑性理土
4		10YR3/2	シルト	炭化鉄多量含む。柱抜取穴
5	SB3065a	10YR3/2	シルト	黃灰色鉄合物。柱痕跡
6		2.5Y3/3	砂質シルト	西灰色土多量含む。塑性理土

S B3065 (3)

0 2m
S=1/60

第43図 挖立柱建物跡断面図(2)

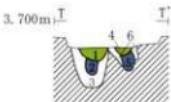


No.	道構	土色	土性	備考
1	SB3065b	2.5Y4/2	シルト	柱痕跡
2		2.5Y3/2	シルト	炭酸色土含む。掘方埋土
3		10YR2/3	シルト	炭酸物・酸化鉄含む。柱抜取穴
4	SB3065a	10YR2/2	粘土	柱痕跡
5		10YR3/3	シルト	炭酸色土含む。掘方埋土
6		10YR3/2	シルト	炭酸物・炭化物・酸化鉄含む。柱痕跡
7	ピット	10YR3/3	シルト	明黄褐色多量含む。掘方埋土

S B3065 (2)



S B3068 (1)



S B3065 (3)

No.	道構	土色	土性	備考
1		10YR3/2	シルト	炭オーリップ色粉多量含む。柱抜取穴
2	SB3065b	2.5Y3/1	砂質シルト	炭オーリップ色粉多量含む。柱痕跡
3		10YR3/2	シルト	炭オーリップ色粉・酸化鉄多量含む。掘方埋土
4		10YR3/2	シルト	炭化物多量含む。柱抜取穴
5	SB3065a	10YR3/2	シルト	黃灰色砂含む。柱痕跡
6		2.5Y3/3	砂質シルト	黃灰色土多量含む。掘方埋土

S B3065 (2)



S B3068 (2)



S B3069 (1)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3	シルト	酸化鉄含む。柱痕跡
2	10YR3/3	シルト	炭酸物・酸化鉄含む。掘方埋土
3	2.5Y4/3	粘土	酸化鉄含む。掘方埋土

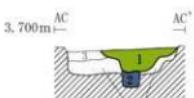
S B3071 (1)



S B3071 (2)

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2	シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
2	10YR3/3	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

S B3071 (1)



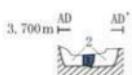
S B3071 (3)

No.	土色	土性	備考
1	2.5Y3/2	シルト	地山ブロック・炭化物・底土含む。柱抜取穴
2	10YR3/2	シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡
3	2.5Y4/1	シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土
4	2.5Y4/1	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

S B3071 (4)

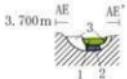
0 2m
S=1/60

第 44 図 挖立柱建物跡断面図 (3)



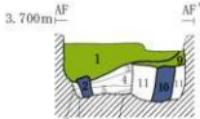
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2	シルト 酸化鉄含む。柱痕跡	
2	10YR2/2	シルト 酸方理土	

SB3071 (5)



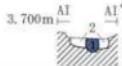
No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2	シルト	灰褐色砂・酸化鉄含む。柱痕跡
2	10YR2/2	シルト	酸化鉄含む。柱痕跡
3	7.5YR3/2	シルト	オリーブ褐色シルトブロック・酸化鉄含む。酸方理土

SB3071 (6)



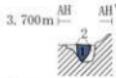
No.	遺構	土色	土性	備考
1		10YR3/1	シルト	地山ブロック・小礫・粘土含む。柱痕跡
2		10YR2/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
3		5Y5/3	砂	酸方理土
4		5Y2/2	粘土質シルト	酸方理土
5	SB3072	5Y5/3	砂	酸方理土
6		5Y2/2	粘土質シルト	酸方理土
7		2.5Y5/3	シルト	酸方理土
8		10YR3/1	粘土質シルト	酸方理土
9		10YR4/2	シルト質砂	柱抜取穴
10	ビット	2.5Y3/2	シルト質砂	柱痕跡
11		10YR3/1	粘土質シルト	暗褐色灰砂ブロック含む。酸方理土

SB3072 (1)



No.	土色	土性	備考
1	2.5Y5/3	シルト	柱痕跡
2	2.5Y4/2	シルト	地山ブロック含む。酸方理土
3	10YR4/1	シルト	地山ブロック含む。酸方理土

SB3072 (2)



SB3072 (3)



No.	土色	土性	備考
1	2.5Y3/2	シルト	柱痕跡
2	2.5Y4/2	シルト	地山ブロック・炭化物少量含む。酸方理土

SB3073 (1)

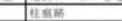


No.	土色	土性	備考
1	2.5Y3/2	粘土	地山小ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2	2.5Y3/1	粘土	地山ブロック多量含む。酸方理土

SB3073 (2)



SB3073 (3)



No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2	シルト質粘土	地山ブロック多量含む。柱痕跡
2	10YR3/1	粘土	柱痕跡
3	10YR3/2	粘土	地山ブロック多量含む。酸方理土
4	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。酸方理土

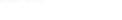
SB3074 (1)



No.	土色	土性	備考
1	2.5YR3/1	粘土	炭化物少量含む。柱痕跡
2	10YR3/2	粘土	酸方理土

SB3074 (2)

SB3074 (2)



No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1	粘土	炭化物含む。柱痕跡
2	10YR3/1	シルト	地山ブロック多量含む。酸方理土

SB3074 (3)

第45図 挖立柱建物跡断面図(4)

0 2m
S=1/60

3. 700m $\overbrace{\text{AO}}^{\text{AO'}}$ 

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2	粘土	地山小ブロック含む。柱痕跡
2	10YR3/2	粘土	地山ブロック多量含む。側方理土。

S B3074 (3)

3. 700m $\overbrace{\text{AP}}^{\text{AP'}}$ 

4 6

No.	層構	土色	土性	備考
1	S B3075	10YR3/1	シルト	地山小ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2		10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。炭化物少量含む。側方理土。
3		10YR3/1	シルト	地山小ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
4	S B3076	SY4/1	粘土	地山ブロック多量含む。柱痕跡
5		10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。炭化物少量含む。側方理土
6		2, SY3/1	粘土	地山ブロック多量含む。側方理土

S B3075・3076

3. 700m $\overbrace{\text{AS}}^{\text{AS'}}$ 

3

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	地山ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2	10YR3/1	粘土	地山ブロック・炭化物含む。側方理土。
3	10YR4/1	シルト	地山ブロック多量含む。炭化物含む。側方理土

S B3077 (3)

3. 700m $\overbrace{\text{AU}}^{\text{AU'}}$ 

2

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	地山ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2	5GY4/1	粘土質シルト	側方理土。
3	10YR2/1	粘土	炭化物少量含む。側方理土。
4	10YR3/1	シルト	地山ブロック・炭化物含む。側方理土

S B3077 (5)

3. 300m $\overbrace{\text{AX}}^{\text{AX'}}$ 

2

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	柱痕跡
2	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。側方理土。

S B3078 (2)

3. 700m $\overbrace{\text{AQ}}^{\text{AQ'}}$ 

3

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	柱痕跡
2	10YR3/1	シルト	地山ブロック・炭化物含む。側方理土。
3	10YR3/1	シルト	地山ブロック含む。側方理土。
4	10YR3/1	砂質シルト	側方理土

S B3077 (1)

3. 500m $\overbrace{\text{AR}}^{\text{AR'}}$ 

3

No.	土色	土性	備考
1	2, SY3/1	シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡
2	2, SY3/2	シルト	地山ブロック・炭化物多量含む。側方理土。
3	SY5/2	シルト	地山ブロック多量含む。側方理土。

S B3077 (2)

3. 700m $\overbrace{\text{AT}}^{\text{AT'}}$ 

3

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	地山ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2	5GY4/1	粘土質シルト	側方理土。
3	10YR2/1	粘土	炭化物少量含む。側方理土。
4	10YR3/1	シルト	地山ブロック・炭化物含む。側方理土。

S B3077 (4)

3. 500m $\overbrace{\text{AV}}^{\text{AV'}}$ 

2

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	炭化物多量含む。柱痕跡
2	10YR2/1	粘土質シルト	砂礫多量含む。地山ブロック・炭化物含む。側方理土。

S B3078 (1)

3. 500m $\overbrace{\text{AY}}^{\text{AY'}}$ 

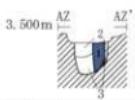
2

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1	粘土	柱痕跡
2	10YR1.7/1	粘土	地山ブロック多量含む。側方理土。

S B3078 (3)

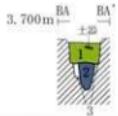
S=1/60 0 2m

第46図 掘立柱建物跡断面図(5)



No.	土色	土性	備考
1	2.SY3/1	粘土	柱材残存。柱痕跡
2	2.SY3/3	粘土質シルト	地山ブロック含む。幅方理土
3	10YR3/3	粘土質シルト	地山ブロック含む。幅方理土

SB 3078 (4)



No.	土色	土性	備考
1	2.SY3/1	シルト	地山ブロック含む。柱抜取穴
2	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
3	2.SY4/2	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。幅方理土

SB 3078 (5)



No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1	シルト	炭化物多量含む。柱痕跡
2	2.SY3/1	シルト	炭化物含む。幅方理土

SB 3079 (1)



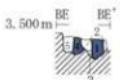
No.	造構	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。柱痕跡	
2	SB3079	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。幅方理土
3	10YR2/1	粘土	炭化物多量含む。	
4	SB3081	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。幅方理土
5	SB31226	2.SY2/1	粘土	地山ブロック多量含む。

SB 3079 (3)・SB 3081 (1)



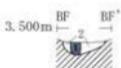
No.	土色	土性	備考
1	SY3/1	粘土質シルト	炭化物含む。柱痕跡
2	SY4/1	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。幅方理土

SB 3079 (2)



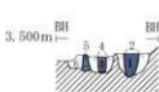
No.	造構	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。柱痕跡	
2	SB3080 b	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。幅方理土
3		SY3/2	粘土質シルト	地山ブロック含む。幅方理土
4	SB3080a	SY3/1	粘土質シルト	炭化物含む。柱痕跡
5		SY4/2	シルト	地山ブロック含む。幅方理土

SB 3080 (1)



No.	造構	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1	粘土	地山小ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡	
2	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。幅方理土	

SB 3080 (2)



No.	造構	土色	土性	備考
1	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡	
2	SB3080 b	10YR4/2	粘土質シルト	地山ブロック含む。幅方理土
3		SY3/1	シルト	地山ブロック含む。柱抜取穴
4	SB3080a	513/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
5		SY4/2	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。幅方理土

SB 3080 (3)

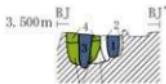
SB 3080 (4)

No.	造構	土色	土性	備考
1	SB3080 b	10YR2/2	シルト	炭化物含む。柱痕跡
2		10YR4/2	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。幅方理土
3	SB3080a	SY4/2	シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
4		SY3/2	シルト	地山ブロック含む。幅方理土
5	SB31226	SY4/3	シルト	地山ブロック含む。

SB 3080 (5)

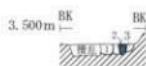
S=1/60 0 2m

第47図 挖立柱建物跡断面図(6)



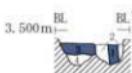
No.	造構	土色	土性	備考
1	SB3080 b	2. 5Y4/2	シルト	炭化物含む。柱痕跡
2		2. 5Y5/3	シルト	地山ブロック含む。雁方理土
3		10Y4/1	粘土質シルト	炭化物含む。柱痕跡
4	SB3080a	2. 5Y5/3	シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
5		10Y4/1	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱抜取穴
6		5Y4/3	シルト	地山ブロック多量含む。雁方理土

S B3080 (6)



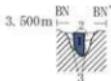
No.	造構	土色	土性	備考
1	ピット	10YR3/1	シルト	
2		SB3080 b	10YR3/1	柱痕跡
3		10YR4/1	シルト	雁方理土

S B3080 (7)



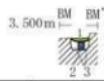
No.	造構	土色	土性	備考
1	SB3080 b	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
2		10YR4/1	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。雁方理土
3	SB3080a	2. 5Y3/2	シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡
4		2. 5Y3/2	シルト	地山ブロック多量含む。雁方理土

S B3080 (8)



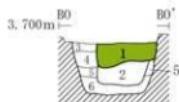
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1	粘土	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡
2	10YR3/1	シルト	地山ブロック・炭化物微量含む。雁方理土
3	10YR3/2	シルト	地山ブロック・炭化物微量含む。雁方理土

S B3081 (3)



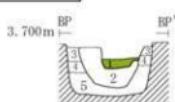
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2	シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
2	10YR3/1	シルト	柱痕跡
3	10YR4/1	シルト	地山ブロック含む。雁方理土

S B3081 (2)



No.	造構	土色	土性	備考
1	SB3083 b	10YR2/2	シルト	地山小ブロック・炭化物・粘土粒多量含む。柱抜取穴
2		10YR3/1	砂	IV層土・V層土多量含む。雁方理土
3		2. 5Y2/1	シルト	地山ブロック多量含む。雁方理土
4	SB3083a	10YR4/1	砂	IV'層土・V層土・VI層土多量含む。雁方理土
5		10YR4/1	砂	IV'層土・V層土多量含む。雁方理土
6		10YR4/1	砂	IV'層土・V層土多量含む。雁方理土

S B3083 (1)

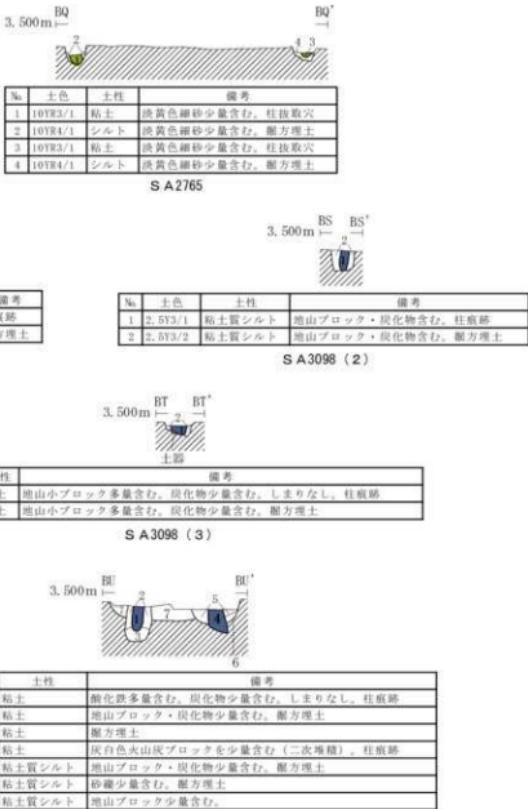


No.	造構	土色	土性	備考
1	SB3083 b	10YR4/1	シルト	地山小ブロック・炭化物・粘土粒多量含む。柱抜取穴
2		2. 5Y3/1	粘土	地山ブロック多量含む。雁方理土
3		2. 5Y3/1	シルト	地山小ブロック多量含む。雁方理土
4	SB3083a	2. 5Y4/1	粘土	地山砂多量含む。雁方理土
5		2. 5Y2/1	砂	地山砂・粘土ブロック多量含む。雁方理土

S B3083 (2)

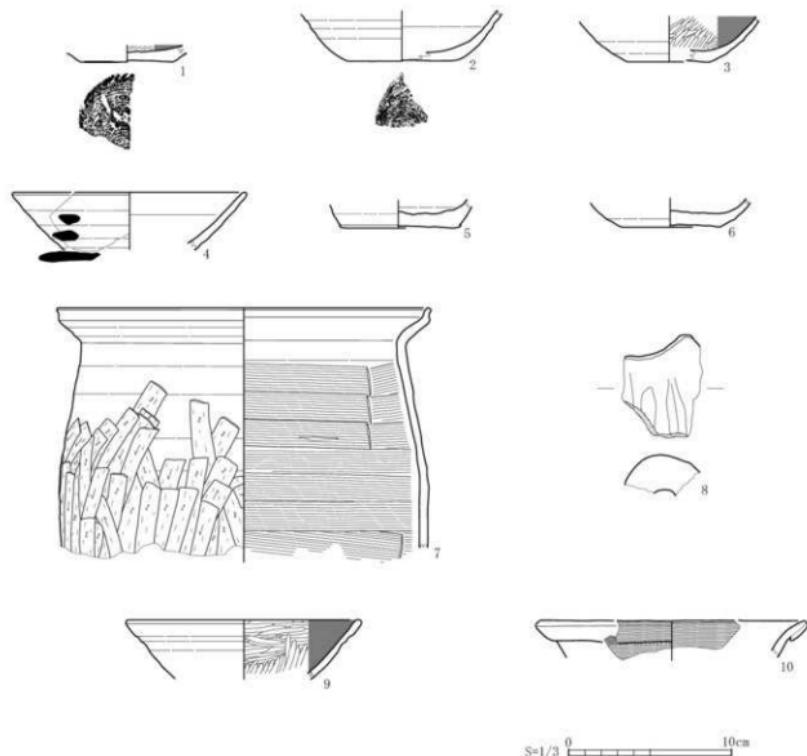
S=1/60

第48図 堀立柱建物跡断面図(7)



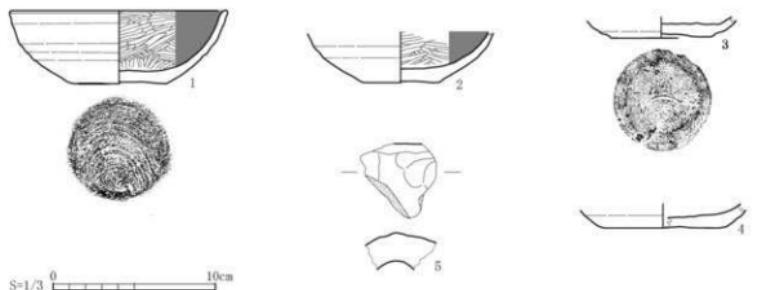
0 2m
S=1/60

第49図 墳跡等断面図



No.	種類	遺構	層位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	参考番号	備考
1	土師器环	SB3064	抜取	ロクロナデ。底：回転糸切	ヘラミガキ・黒色処理		(5.8) × 7/24	(1.6)	R57	
2	須恵器环			ロクロナデ。底：回転糸切	ロクロナデ		(6.7) × 5/24	(3.1)	R58	
3	土師器环	SB3071		ロクロナデ。底：手持ヶズリ	ヘラミガキ・黒色処理		(5.2) × 4/25	(2.8)	R80	N3E1
4	須恵器环	SB3074		ロクロナデ	ロクロナデ	(14.2) × 3/24		(3.5)	R53	墨書き「三」 N2E3
5	土師器甕	SB3078		ロクロナデ。底：回転糸切	ロクロナデ		7.2 × 24/24	(1.7)	R161	N3E3
6	須恵器环	SB3080a		ロクロナデ。底：回転ヘラ切・手持ヶズリ	ロクロナデ		6.1 × 24/24	(1.8)	R163	N1E3
7	土師器甕			ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ・回転ヘラナデ	(22.8) × 6/24		(15.6)	R162	N1E3
8	羽口			ナヂツケ		長：(6.2)	幅：(4.8)		R165	N4E1
9	土師器环	SB3082		ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理	(14.2) × 11/24		(3.7)	R81	N2E1
10	土師器甕	SB3083a		ハケメ・ロコナデ	ハケメ・ロコナデ	(16.3) × 2/24		(2.3)	R56	

第50図 堀立柱建物跡出土遺物



S=1/3 0 10cm

No.	種類	遺構	部位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登錄番号	備考
1	土師器坏	P5		ロクロナデ。底：圓 軸系切	ハラミガキ・ 黒色処理	(13.2) × 11/24	6.2 × 24/24	4.5	R88	3区 第19回
2	土師器坏	P1		ロクロナデ。底：圓 軸系切	ハラミガキ・ 黒色処理		4.8 × 24/24	(3.2)	R158	3区 第19回
3	須恵器坏	P2		ロクロナデ。底：圓 軸系切、手持ヶズリ	ロクロナデ		6.2 × 24/24	(1.2)	R157	3区 第21回
4	須恵器坏	P3		ロクロナデ。底：圓 軸系切、手持ヶズリ	ロクロナデ		(7.6) × 6/24	(1.5)	R159	4区 第22回
5	羽口	P4		オサエメ		長：(4.6)	幅：(4.6)		R160	4区 第23回

第51図 柱穴出土遺物



第50図2 1



第50図3 2



第50図4 3



第50図7 4



第50図9 5



第50図10 6



第51図1 7



第51図2 8



第51図5 9

写真図版7



1区 S B2760 挖立柱建物跡（南西から）



1区 S B2760 挖立柱建物跡柱穴検出



1区 S B2761～2764 挖立柱建物跡、S A2765 挖立柱塙（南から）



3区 S B3083 挖立柱建物跡（南から）



3区 S B3064 挖立柱建物跡（北から）



3区 S B3068・3069・3071・3072 挖立柱建物跡（東から）



3・4区 S B3073～3076・3082 挖立柱建物跡（北から）



4区 S B3077～3081 挖立柱建物跡、S A3098 挖立柱塙跡（北から）

写真図版8

(6) 井戸跡

3基の井戸跡を検出した。

【S E3124井戸跡】(第14・53図、写真図版13)

2区南部で検出した素掘りの井戸跡である。

【重複】S X3118細跡、接する土坑より新しい。

【規模・埋土】直径3.10mの円形で、深さは0.92mである。埋土は5層で、自然堆積である。2層に灰白色火山灰が自然堆積している。

【遺物】1層から土師器壺(B)(第55図6)・(B II)(第55図7)が出土した。3層から土師器壺(B)(第55図1)・(B V)(第55図2)・甕(B)、須恵器壺(I)・(II)(第55図3)・高台付壺・甕・瓶(第55図4・5)が出土した。4層から土師器壺(B I・B I c)・(B V)(第54図1~5)・甕(A・B)、須恵器壺(I a)(第54図7)・(V)(第54図6)・蓋・甕(第54図9)・瓶(第54図8)が出土した。6層から土師器壺(B)、須恵器壺・甕が出土した。7層から須恵器甕が出土した。

【S E3125井戸跡】(第18・52・53図、写真図版13)

3区南西部で検出した井戸枠のある井戸跡である。

【重複】S E3126井戸跡より新しい。

【掘方】一辺2.22mの隅丸方形で、深さは約1.20mである。

【井戸枠】4本の隅柱(丸木)と幅が不揃いな縱板、横桟による構造である。隅柱にはほぞ穴が作られており、横桟とほぞ継ぎされている。内法は東西・南北とも0.65mである。井戸底面で集水施設は確認されなかった。

【抜取穴】直径1.28mの不整円形で、深さは0.42mである。埋土は3層で、自然堆積である。2層に灰白色火山灰が自然堆積している。

【遺物】抜取穴から土師器壺(B)(第57図5・9)・(B V)(第57図4・6・7)・甕(B)、須恵器壺(V)(第57図8)・甕・瓶・円面鏡(第57図10)が出土した。井戸内から土師器壺(B V)(第57図2・3)・須恵器壺(II)・蓋、木製品(第58図~第60図)が出土した。掘方埋土から土師器壺(B)(第56図1)・(B I b)・(B II)(第56図2)・(B II c)(第56図3・4)・(B V)(第56図5~10)・甕(A)・(B)(第56図12)、須恵器壺(I)・(II a)(第56図11)・(V)・甕・円面鏡、平瓦・丸瓦(第57図1)が出土した。

木製品の樹種同定は、(株)パレオ・ラボに委託して行った。第60図~第62図の9点を分析し、結果はすべてカヤであった。カヤはイチイ科の常緑針葉樹で、自然分布域は東北以西の本州、四国、九州になる。

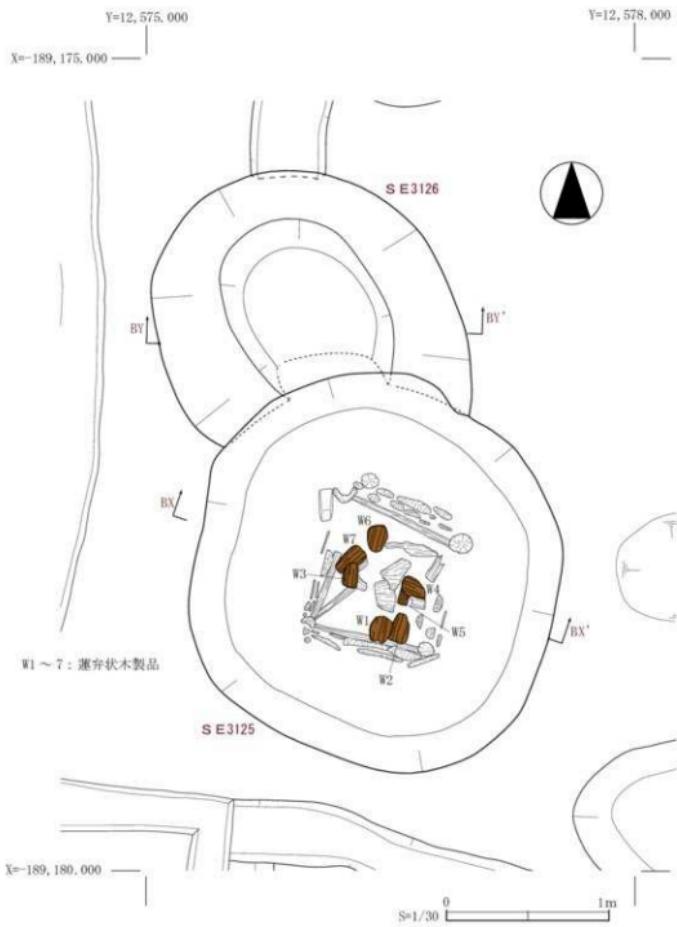
【S E3126井戸跡】(第18・52・53図、写真図版13)

3区南西部で検出した素掘りの井戸跡である。

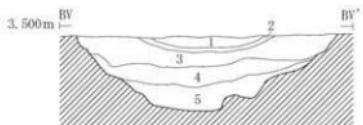
【重複】S E3125井戸跡より古い。

【規模・埋土】長径2.05m(検出長)、短径1.82mの楕円形で、深さは0.95mである。埋土は4層で、1層は人為堆積、下層は自然堆積である。

【遺物】1層から土師器甕(A)、須恵器壺が出土した。3層から土師器甕(A)、須恵器壺(I)・甕・瓶が出土した。

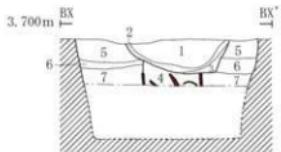


第52図 SE3125・3126 井戸跡



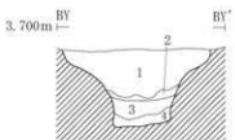
No.	土色	土性	備考
1	2.SY4/1	粘土質シルト	炭化物少量含む
2	SY8/1	シルト	灰白色火山灰(自然堆積)
3	2.SY3/1	粘土質シルト	砂礫多量含む
4	10YR5/1	粘土	
5	2.SY4/1	シルト	黒褐色粘土ブロック含む

S E3124



No.	土色	土性	備考
1	10YR4/1	シルト	炭化物・酸化鉄多量含む。井戸栓抜取穴
2	SY8/1	シルト	灰白色火山灰(自然堆積)。井戸栓抜取穴
3	10YR3/1	シルト	井戸栓抜取穴
4	10YR3/1	粘土	井戸栓内堆積土
5	10YR3/1	シルト	砂礫多量含む。雁方埋土
6	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。雁方埋土
7	10YR3/1	シルト質粘土	地山ブロック含む。雁方埋土

S E3125

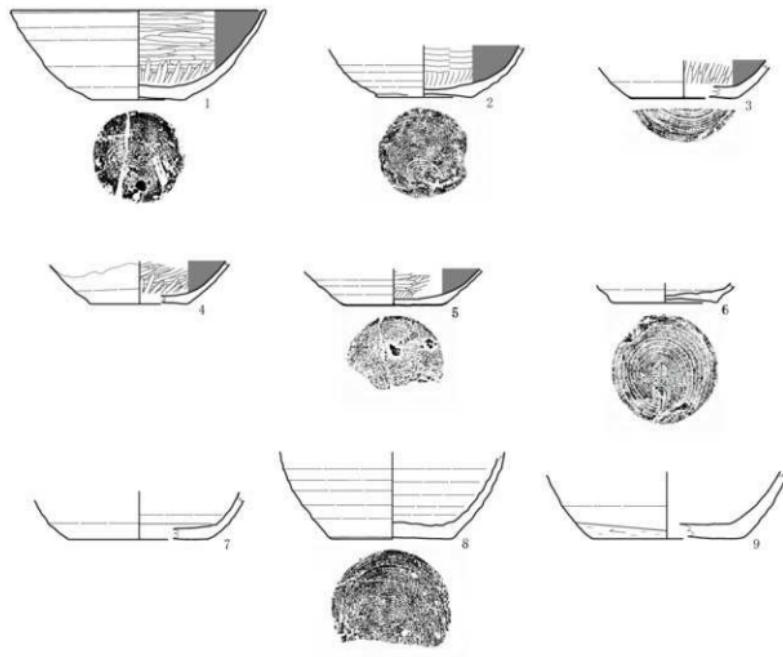


No.	土色	土性	備考
1	2.SY5/2	粘土質シルト	IV2層土多量含む。人為堆積
2	2.SY4/1	シルト質粘土	
3	SY3/1	粘土質シルト	砂含む。
4	7.SY3/1	シルト質粘土	砂含む。

S E3126

0 2m
S=1/60

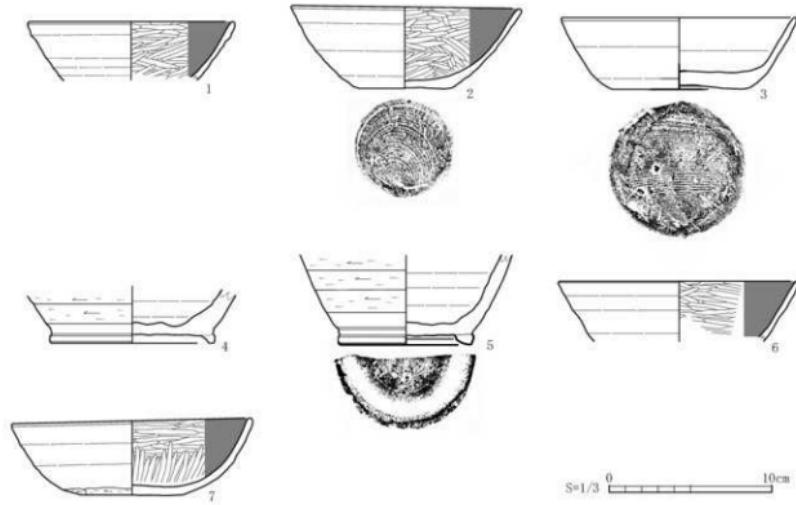
第53図 井戸跡断面図



S=1/3 0 10cm

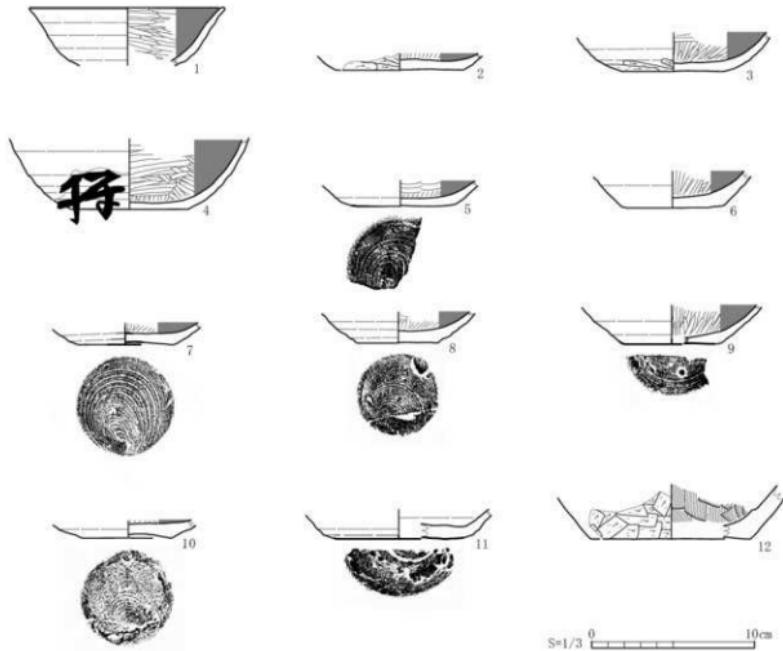
No.	種類	遺構	層位	外　面	内　面	口径・現存率	底径・現存率	器高	登録番号	備考
1	土師器坏	SE3124	4	ロクロナデ。底：回転赤切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(15.6)・1/24	5.7・24/24	5.5	R181	
2	土師器坏		4	ロクロナデ。底：回転赤切	ヘラミガキ・ 黒色処理		5.7・24/24	(3.2)	R182	
3	土師器坏		4	ロクロナデ。底：回転赤切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.4)・10/24	(2.3)	R183	
4	土師器坏		4	ロクロナデ。底：回転赤切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.0)・9/24	(2.6)	R187	
5	土師器坏		4	ロクロナデ。底：回転赤切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.1)・10/24	(2.2)	R188	
6	須恵器坏		4	ロクロナデ。底：回転赤切	ロクロナデ		6.4・24/24	(1.3)	R184	
7	須恵器坏		4	ロクロナデ。底：回転ヘラ 切・回転ケズリ	ロクロナデ		(8.5)・5/24	(2.9)	R185	
8	須恵器瓶		4	ロクロナデ。底：回転赤切	ロクロナデ		(7.4)・17/24	(5.3)	R186	
9	須恵器隻		4	ロクロナデ・回転ケズリ。 底：手持ケズリ	ロクロナデ		(9.2)・8/24	(4.1)	R189	

第54図 SE3124 井戸跡出土遺物 (1)



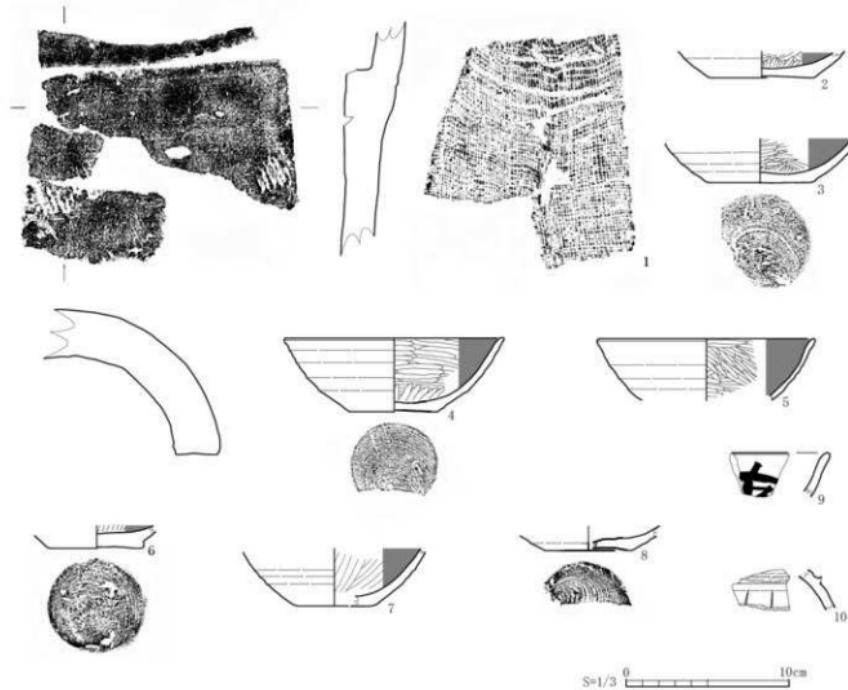
No.	種類	遺構	層位	外観	内面	口径・残存率	底径・残存率	器高	参考番号	備考
1	土師器壺	SE3124	3	口クロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(12.5)・7/24		(3.6)	R191	
2	土師器壺		3	口クロナデ。底：回転角切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14.0)・22/24	5.7・24/24	5.1	R27	
3	須恵器壺		3 9	口クロナデ。底：手持ヶズリ	ロクロナデ	(14.4)・4/24	8.4・24/24	4.4	R8	
4	須恵器瓶		3	ロクロナデ・回転ヶズリ。 底：不明	ロクロナデ	(12.0)・10/24	(2.7)	R190		
5	須恵器瓶		3	ロクロナデ・回転ヶズリ。 底：回転ヶズリ	ロクロナデ		(8.0)・13/24	(5.5)	R192	
6	土師器壺		1	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14.7)・4/24		(3.7)	R193	
7	土師器壺		1	ロクロナデ・手持ヶズリ。 底：手持ヶズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14.6)・21/24	6.3・24/24	4.7	R7	

第55図 SE3124 井戸跡出土遺物（2）



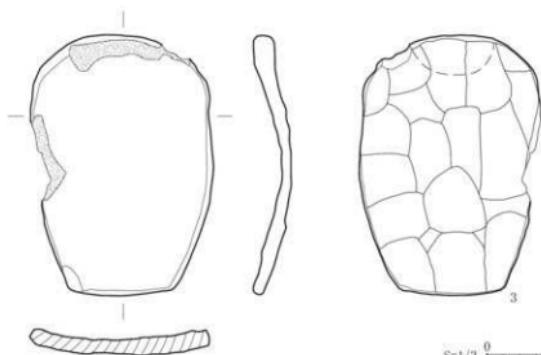
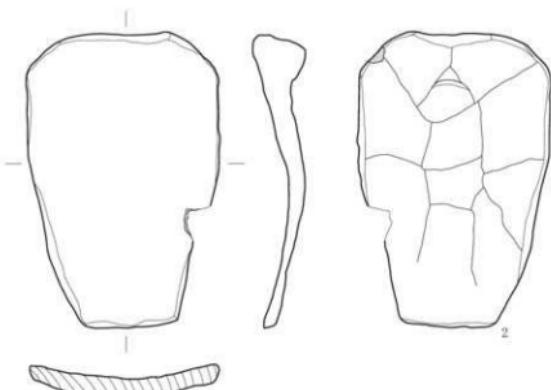
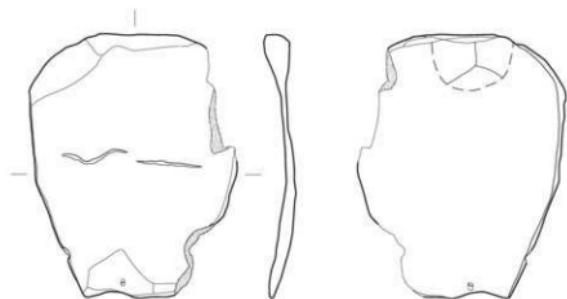
%	種類	遺構	層位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	参考番号	備考
1	土師器坏	SE3125	掘方	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(11.8)・4/24		(3.6)	R72	
2	土師器坏		掘方	手持ケズリ。底：手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理		(7.8)・6/24	(1.0)	R69	
3	土師器坏		掘方	ロクロナデ・手持ケズリ。 底：回転系切・手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.2)・11/24	(2.4)	R77	
4	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底：回転系切・ 手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理		(7.2)・19/24	(4.3)	R45	墨書き「持」カ
5	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.5)・7/24	(1.6)	R66	
6	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.2)・12/24	(2.3)	R70	
7	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・ 黒色処理		6.0・24/24	(1.4)	R68	
8	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・ 黒色処理	5.1・24/24	(1.9)	R74		
9	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(5.9)・9/24	(2.4)	R73		
10	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底：回転ヘラ 切・手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理	5.5・24/24	(1.1)	R75		
11	須恵器坏		掘方	ロクロナデ。底：手持ケズリ	ロクロナデ	(8.0)・9/24	(1.8)	R71		
12	土師器甕		掘方	ヘラケズリ。底：手持ケズリ	ヘラナゲ	(9.8)・5/24	(3.3)	R65		

第56図 S E3125 井戸跡出土遺物（1）



No.	種類	遺構	層位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	厚さ	目録番号	備考
1	丸瓦		掘方 SE3125	凸面：縦タタキ目・ロクロナ 凹面：3°	凹面：布目	口径：(14.9)	底径：(12.0)		R67	
2	土師器坏			ロクロナダ。底：回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.4)・13/24	(1.6)	R64	
3	土師器坏			ロクロナダ。底：回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.4)・16/24	(2.7)	R262	
4	土師器坏			ロクロナダ。底：回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.3)・4/24	(5.4)・17/24	4.5	R59	
5	土師器坏			ロクロナダ ²	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.3)・4/24		(306)	R261	
6	土師器坏			ロクロナダ。底：回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		5.9・24/24	(1.4)	R62	
7	土師器坏			ロクロナダ。底：回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(4.6)・6/24	(3.5)	R63	
8	須恵器坏			ロクロナダ。底：回転糸切	ロクロナダ		(5.3)・10/24	(1.5)	R60	
9	土師器坏			ロクロナダ	ヘラミガキ・ 黒色処理			(2.8)	R44	墨書き「雨」
10	須恵器 内面鏡			ロクロナダ ² ・沈跡	ロクロナダ			(2.5)	R61	

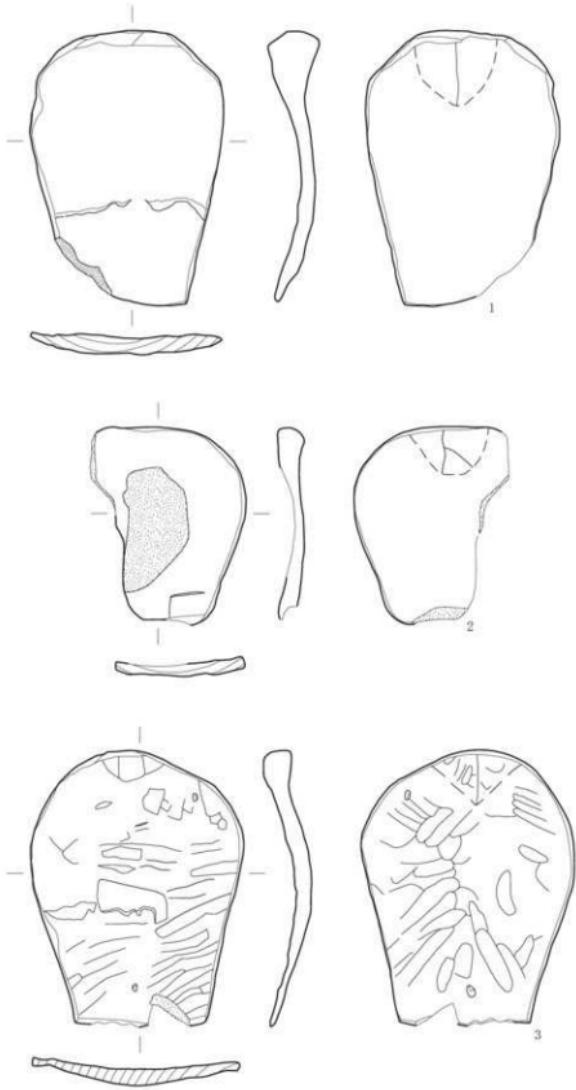
第57図 S E3125 井戸跡出土遺物（2）



No.	種類	直径	底径	厚さ	目録番号	備考
1	水差品	4 カナ	16.1	1.6	W1	底丸無
2	水差品	4 カナ	16.0	1.3	W2	
3	水差品	4 カナ	16.0	1.3	W3	

S=1/3 0 10cm

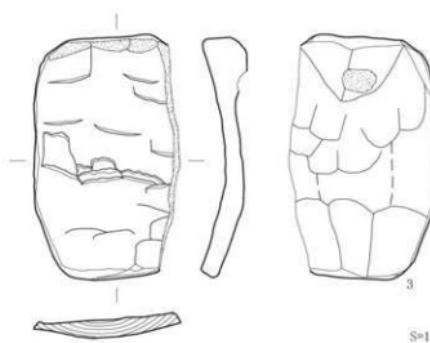
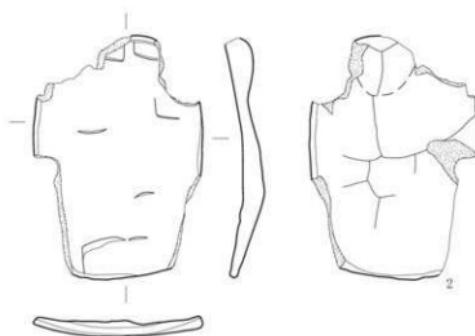
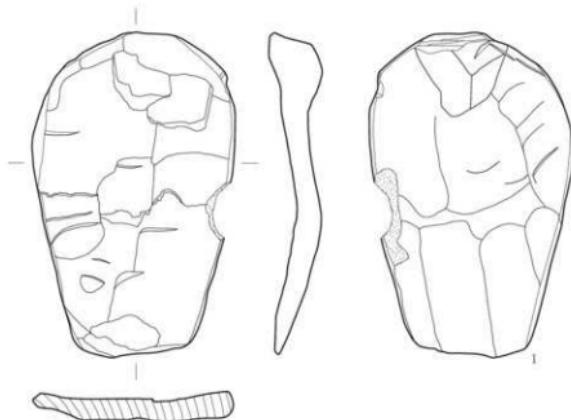
第58図 S E3125 井戸跡出土遺物 (3)



No.	種類	直径	周長	高さ	幅	厚さ	備考
1	木製品	4	27.7	16.8	11.8	3.1	W4
2	木製品	SE3125	4	27.7	11.9	9.3	W5
3	木製品	4	27.7	16.9	13.0	1.7	W6 P1,b,6

S=1/3 0 10cm

第59図 SE3125 井戸跡出土遺物(4)



No.	種類	遺体	部位	頭頂	長軸	幅	厚さ	当該面	備考
1	木製品	4	女子	19.7	12.5	3.0	.97		
2	木製品	38×3125	4	16.8	10.4	1.6	.89		
3	木製品	4	女子	14.8	8.9	2.6	.89		

S=1/3 0 10cm

第60図 SE3125 井戸跡出土遺物（5）



第54図1



第55図2



第54図2



第54図8



第55図5



第55図7



第56図1



第56図4



第56図3



第56図6



第56図8



第56図9



第57図1



15



第56図12



第57図2



第57図3



第57図4



第57図5



第57図6



第57図7



第57図8



第57図9



第57図10

写真図版9



第 58 図 1

1



第 58 図 2

2



第 58 図 3

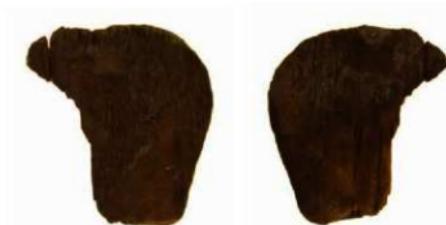
3

写真図版 10



第59図1

1



第59図2

2



第59図3

3

写真図版 11



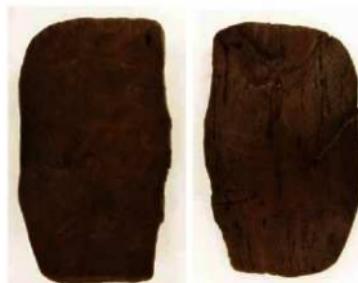
第 60 図 1

1



第 60 図 2

2



第 60 図 3

3

写真図版 12



2区 S E3124 井戸跡完掘（北西から）



2区 S E3124 井戸跡断面（西から）



3区 S E3125 井戸跡断面（南から）



3区 S E3125 井戸跡運び状木製品出土状況（北西から）



3区 S E3125 井戸跡（東から）



3区 S E3125 井戸跡（東から）



3区 S E3126 井戸跡完掘（南から）



3区 S E3126 井戸跡断面（南から）

写真図版 13

(7) 土坑

63基の土坑を検出し、そのうち14基について説明する。

【S K3084土坑】(第7・61図)

1区西部で検出した土坑である。

【重複】S X3114細跡より新しい。

【規模・埋土】東西1.30m(検出長)、南北0.54m(検出長)で、深さは0.20mである。埋土は2層で、自然堆積である。

【遺物】1層から土師器甕(B)、須恵器壺(II)(第63図1)・(IIa)(第63図2)・(V)・甕、須恵器壺が出土した。

【S K3085土坑】(第11・61図、写真図版18)

2区北部で検出した土坑である。

【重複】土坑の中央に溝跡1条を確認し、それより古い。S X3115・3116細跡、接する土坑より新しい。

【規模・埋土】東西5.10m(検出長)、南北5.42m(検出長)で、深さは1.08mである。埋土は8層で、自然堆積である。2層に灰白色火山灰が自然堆積している。

【遺物】1層から土師器壺(B)・甕(第65図11)・(A・B)、須恵器壺(II・V)・蓋・甕、平瓦が出土した。2層から土師器壺(BV)・甕(B)、須恵器壺(V)が出土した。3層から土師器壺(B IIc)(第65図5)・(BV)(第65図4・6・7)・甕(A)・(B)(第65図10)、須恵器壺(Ia)(第65図8)・(IIa)・甕・瓶(第65図9)、平瓦が出土した。4層から土師器壺(BV)(第65図1)・甕(A)・(B)(第65図2)・蓋(第65図3)、須恵器壺が出土した。5層から土師器壺(B)・高台付壺・甕(B)が出土した。6層から土師器壺(B)(第64図8・9)・(BV)(第64図6・7・10)・高台付壺(BV)(第64図11)・甕(B)、須恵器壺(V)(第64図1~5)・甕が出土した。7層から土師器壺(B)・(B IIc)(第63図3)・(BV)(第63図4)・甕(B)(第63図5・6)、須恵器甕・瓶(第63図7・8)、平瓦が出土した。その他、埋土から土師器壺(B)(第65図12・13)・(BV)(第66図1~3)・甕(B)、須恵器壺が出土した。

【S K3086土坑】(第12・61図)

2区中央部で検出した土坑である。

【重複】S D3102北側溝跡・3105区画溝跡、S K3087土坑より古い。

【規模・埋土】東西0.50m(検出長)、南北0.98m(検出長)で、深さは0.15mである。埋土は1層で、自然堆積である。

【遺物】土師器壺(B)、支脚(第66図5)が出土した。

【S K3087土坑】(第12・61図)

2区中央部で検出した土坑である。

【重複】S D3102北側溝跡・3105区画溝跡より古い。S K3086土坑より新しい。

【規模・埋土】東西1.20m(検出長)、南北1.46m(検出長)で、深さは0.24mである。埋土は1層で、自然堆積である。

【遺物】土師器壺(B II)・甕(B)・瓶(第66図6)、須恵器蓋・甕が出土した。

【S K3088土坑】(第13・61図、写真図版18)

2区南部で検出した土坑である。

〔重複〕ない。

〔規模・埋土〕 2.25×1.36 mの不整形で、深さは0.51mである。埋土は5層で、1層は自然堆積、下層は人為堆積である。

〔遺物〕1層から土師器壺（B）・甕（A）（第66図8）・（B）、須恵器壺（第66図7）・甕、須恵系土器壺が出土した。2層から土師器壺（B）・甕（B）、須恵器壺が出土した。

【S K3089土坑】（第16・61図）

3区東部で検出した土坑である。

〔重複〕隣接するピットより古い。

〔規模・埋土〕 2.70×2.58 （検出長）mの楕円形で、深さは0.22mである。埋土は4層で、自然堆積である。

〔遺物〕埋土から土師器壺（A）（第66図9）（B）・蓋、須恵器壺（II）・（III）、須恵系土器壺（第66図12）・高台付壺（第66図11）・蓋（第66図10）、羽口（第66図13）、砥石（第66図14）が出土した。

【S K3090土坑】（第21・61図、写真図版18）

3区北部で検出した土坑である。

〔重複〕S X3122烟跡より新しい。

〔規模・埋土〕 1.02×0.86 mの不整形で、深さは0.20mである。埋土は1層で、自然堆積である。

〔遺物〕土師器壺（B）（第67図2～4）・（B V）（第67図1・5）・高台付壺（B V）（第67図6）・甕（A）・（B）（第67図7）、須恵器壺が出土した。

【S K3091土坑】（第22・61図）

4区中央部で検出した土坑である。

〔重複〕S X3122烟跡、接する遺構より新しい。

〔規模・埋土〕東西1.00m（検出長）、南北1.93m（検出長）で、深さは0.63mである。埋土は4層で、自然堆積である。1層に灰白色火山灰が自然堆積している。

〔遺物〕埋土から土師器壺（B V）（第67図8・9）・甕（B）、須恵器壺（IIa）・甕が出土した。

【S K3092土坑】（第22・61図、写真図版18）

4区中央部で検出した土坑である。

〔重複〕S X3122・3123烟跡より新しい。

〔規模・埋土〕 1.46×1.25 mの楕円形で、深さは0.20mである。埋土は2層で、自然堆積である。

〔遺物〕埋土から土師器壺（B V）（第67図12）・高台付壺・甕（B）、須恵器壺（II）・甕・瓶（第67図11）が出土した。

【S K3093土坑】（第22・61図、写真図版18）

4区中央部で検出した土坑である。

〔重複〕S B3078掘立柱建物跡より古い。S X3122烟跡より新しい。

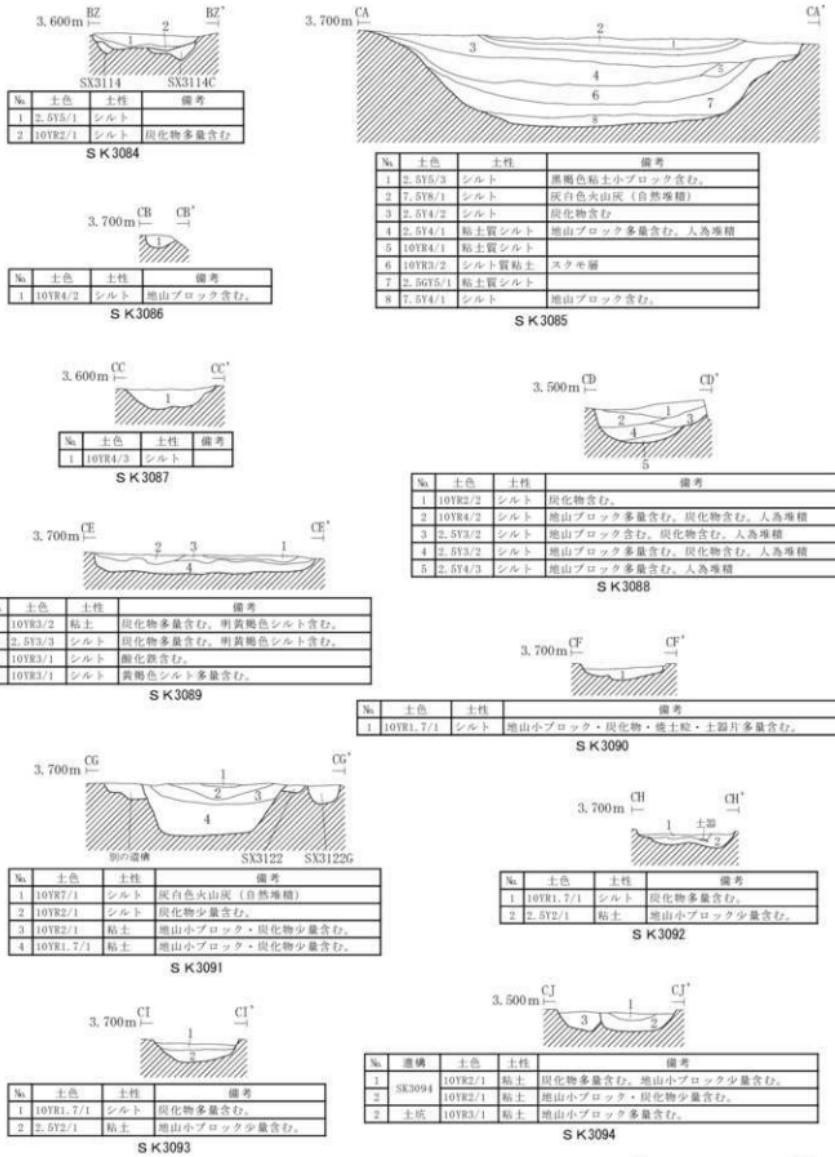
〔規模・埋土〕 1.34×1.10 mの隅丸方形で、深さは0.28mである。埋土は2層で、自然堆積である。

〔遺物〕埋土から土師器壺（B V）・甕（B）、須恵器甕が出土した。

【S K3094土坑】（第22・61図、写真図版18）

4区中央部で検出した土坑である。

〔重複〕S X3122・3123烟跡、接する土坑より新しい。



第 61 図 土坑断面図 (1)

0 2m
S=1/60

〔規模・埋土〕直径0.98mの円形で、深さは0.26mである。埋土は2層で、自然堆積である。

〔遺物〕1層から土師器坏（B V）（第68図1）・甕（B）、須恵器甕・瓶が出土した。2層から土師器甕（B）が出土した。

【S K3095土坑】（第22・62図）

4区中央部で検出した土坑である。

〔重複〕S X3122烟跡より新しい。

〔規模・埋土〕東西2.25m（検出長）、南北0.97m（検出長）で、深さは0.43mである。埋土は2層で、自然堆積である。

〔遺物〕埋土から土師器坏（B）・甕（B）、須恵器坏（I）（第68図2）・蓋、平瓦が出土した。

【S K3096土坑】（第22・62図）

4区中央部で検出した土坑である。

〔重複〕S X3122・3123烟跡より新しい。

〔規模・埋土〕1.32m（検出長）×1.08m（検出長）の楕円形で、深さは0.20mである。埋土は3層で、自然堆積である。1層に灰白色火山灰が自然堆積している。

〔遺物〕埋土から土師器坏（B）・甕（B）、須恵器坏・甕・瓶が出土した。

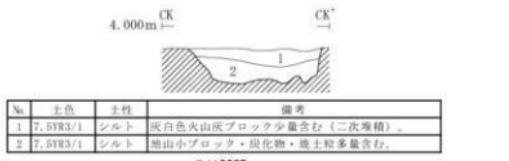
【S K3097土坑】（第23・49図）

4区東部で検出した土坑である。

〔重複〕S A3098掘立柱堀跡、接するピットより古い。S X3122・3123烟跡より新しい。

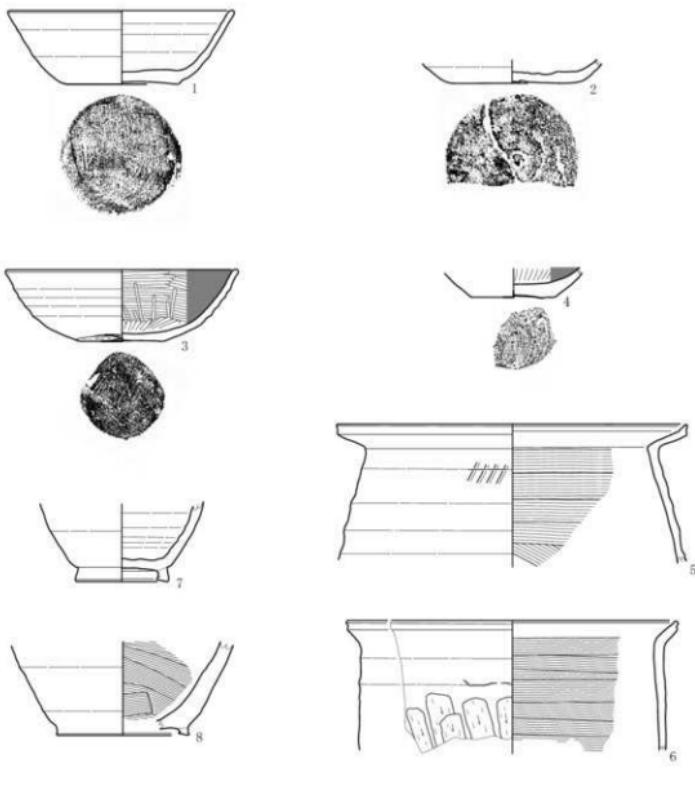
〔規模・埋土〕直径1.75mの円形で、深さは0.23mである。埋土は1層で、自然堆積である。

〔遺物〕土師器坏（B）・甕（A・B）、須恵器瓶、羽口（第67図10）が出土した。



第62図 土坑断面図（2）

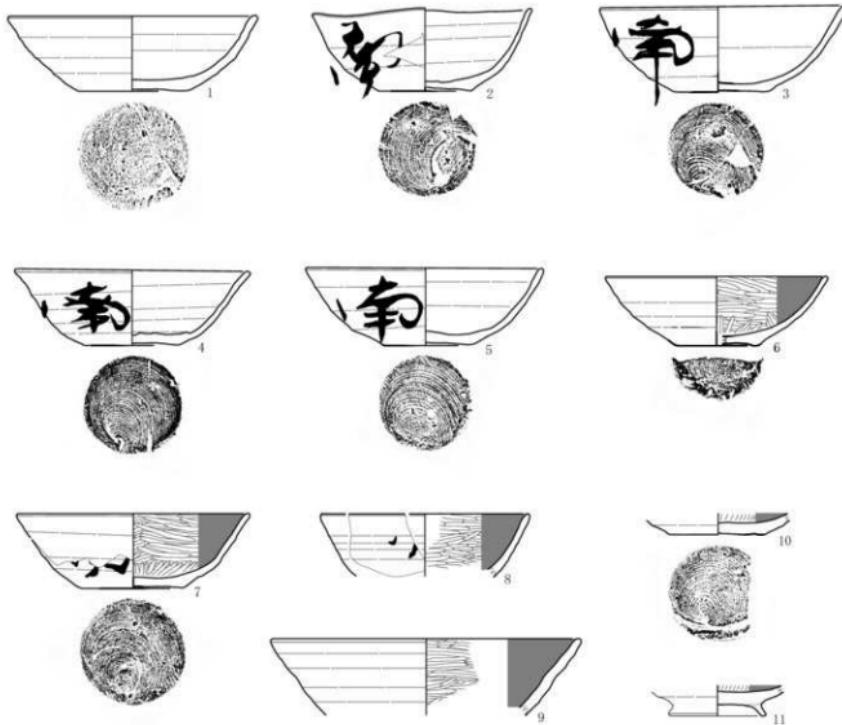
0
S=1/60 2m



S=1/3 0 10cm

No.	種類	遺構	部位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	参考番号
1	須恵器环	SK3084	1	ロクロナデ。底：手持ケズリ	ロクロナデ	(12.8) × 15/24	7.2 × 24/24	4.6	R26
2	須恵器环		1	ロクロナデ。底：回転ヘラ切・手持ケズリ	ロクロナデ		(8.0) × 14/24	(1.4)	R255
3	土師器环	SK3085	7	ロクロナデ・手持ケズリ。底：回転魚切・手持ケズリ	ハラミガキ・黒色処理	(14.0) × 7/24	5.0 × 24/24	4.4	R15
4	土師器环		7	ロクロナデ。底：回転魚切	ハラミガキ・黒色処理		(5.3) × 10/24	(1.8)	R197
5	土師器便	SK3085	7	平行タタキ・ロクロナデ	ロクロナデ・回転ヘラナデ	(21.4) × 3/24		(8.6)	R198
6	土師器便		7	ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ・回転ヘラナデ	(20.2) × 4/24		(8.2)	R199
7	須恵器瓶	7	ロクロナデ。底：不明	ロクロナデ		5.6 × 24/24	(4.8)	R200	
8	須恵器瓶	7	ロクロナデ。底：不明	ヘラナデ		(8.0) × 7/24	(5.7)	R201	

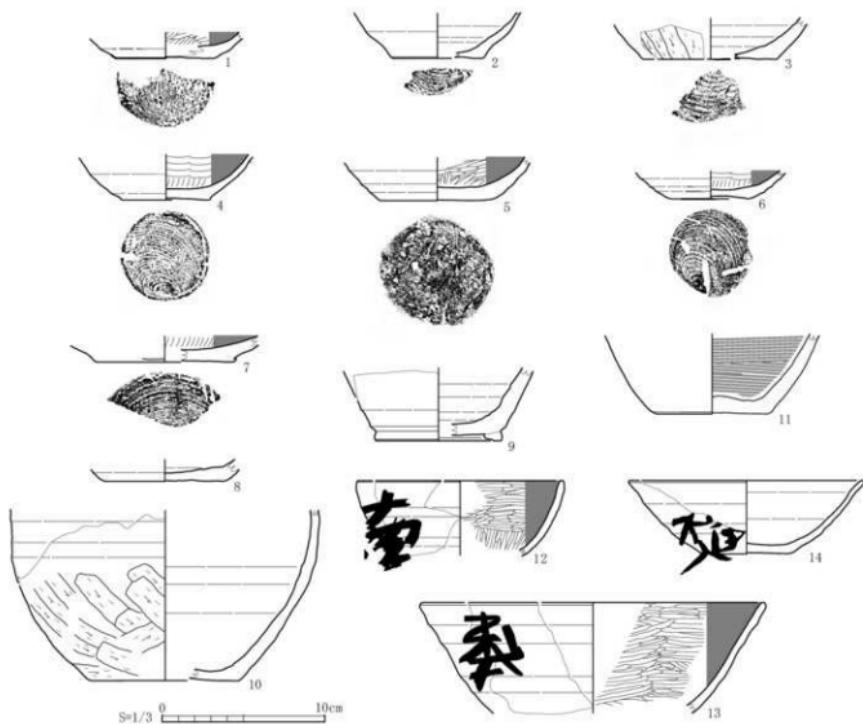
第63図 S K3084・S K3085 (1) 土坑出土遺物



S=1/3 0 10cm

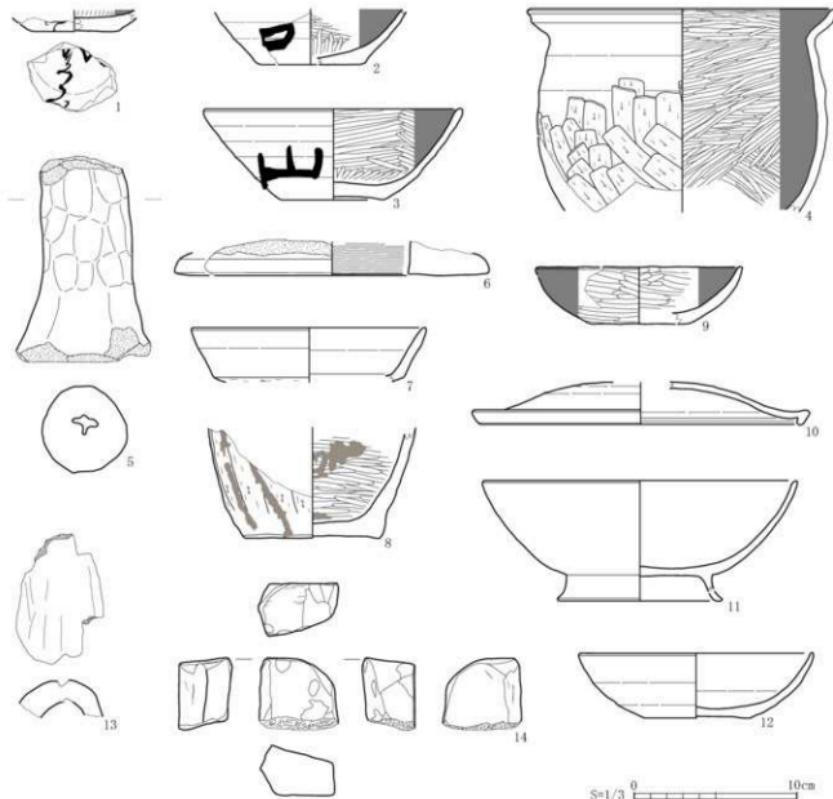
No.	種類	遺構	部位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	周囲	参考番号	備考
1	須恵器坏	SK3085	6	口クロナデ。底：回転系切	ロクロナデ	(15.2)・4/24	6.9・24/24	4.6	R11	
2	須恵器坏		6	ロクロナデ。底：回転系切	ロクロナデ	(13.4)・4/24	5.8・24/24	5.1	R12	墨書き「南」
3	須恵器坏		6	ロクロナデ。底：回転系切	ロクロナデ	(15.0)・15/24	6.0・24/24	5.3	R14	墨書き「南」
4	須恵器坏		6	ロクロナデ。底：回転系切	ロクロナデ	(14.3)・13/24	5.8・24/24	4.7	R10	墨書き「南」
5	須恵器坏		6	ロクロナデ。底：回転系切	ロクロナデ	(14.5)・15/24	5.5・24/24	4.8	R13	墨書き「南」
6	土器器坏		6	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色処理	(13.6)・2/24	(5.1)・10/24	4.2	R28	
7	土器器坏		6	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色処理	(14.1)・5/24	6.3・24/24	4.6	R9	墨書き「南」
8	土器器坏		6	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理	(12.8)・3/24		(3.9)	R29	墨書き
9	土器器坏		6	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理	(18.8)・3/24		(4.7)	R202	
10	土器器坏		6	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色処理		(5.9)・18/24	(1.3)	R203	
11	土器器 高台付坏		6	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色処理		(5.8)・21/24	(1.9)	R205	

第64図 S K 3085 土坑出土遺物（2）



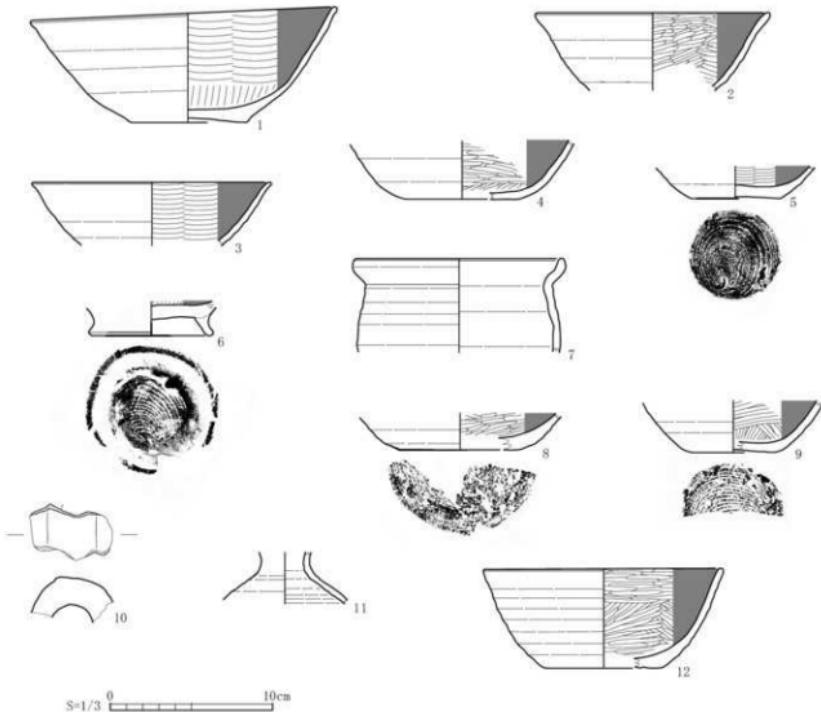
No.	種類	造構	層位	外一面	内一面	口径・残存率	底径・残存率	器高	鉢形番号	備考
1	土師器杯		4	ロクロナダ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色処理	(6.0) + 12/24	(1.6)	8206		
2	土師器甕		4	ロクロナダ。底：回転系切	ロクロナダ	(5.5) + 6/24	(2.8)	8207		
3	土師器甕		4	ヘラケズリ。底：回転系切	ロクロナダ	(6.3) + 5/24	(2.5)	8208		
4	土師器杯		3	ロクロナダ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色処理	(5.3) + 23/24	(2.8)	8213		
5	土師器杯		3	ロクロナダ。底：回転系切・手持ケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	6.9 + 24/24	(2.6)	8211		
6	土師器杯		3	ロクロナダ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色処理	5.0 + 24/24	(1.7)	8210		
7	土師器杯		3	ロクロナダ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色処理	(8.5) + 6/24	(1.6)	8209		
8	須恵器杯	SK3085	3	ロクロナダ。底：回転ヘタ切・回転ケズリ	ロクロナダ	(7.5) + 5/24	(1.3)	8212		
9	須恵器瓶		3	ロクロナダ。底：回転系切	ロクロナダ	(7.7) + 5/24	(4.5)	8254		
10	土師器甕		3	ロクロナダ・ヘラケズリ。底：甕底	ロクロナダ	9.2 + 24/24	(10.2)	8218		
11	土師器甕		1	甕底	回転ハケメ		7.0 + 24/24	(4.9)	8215	
12	土師器杯			ロクロナダ	ヘラミガキ・黒色処理	(12.6) + 3/24	(4.6)	836	墨書「南」	
13	土師器杯			ロクロナダ	ヘラミガキ・黒色処理	(21.0) + 2/24		(6.8)	837	墨書「南」
14	須恵器杯			ロクロナダ	ロクロナダ3	(14.2) + 10/24	5.6 + 24/24	4.5	820	墨書

第65図 SK3085 土坑出土遺物（3）



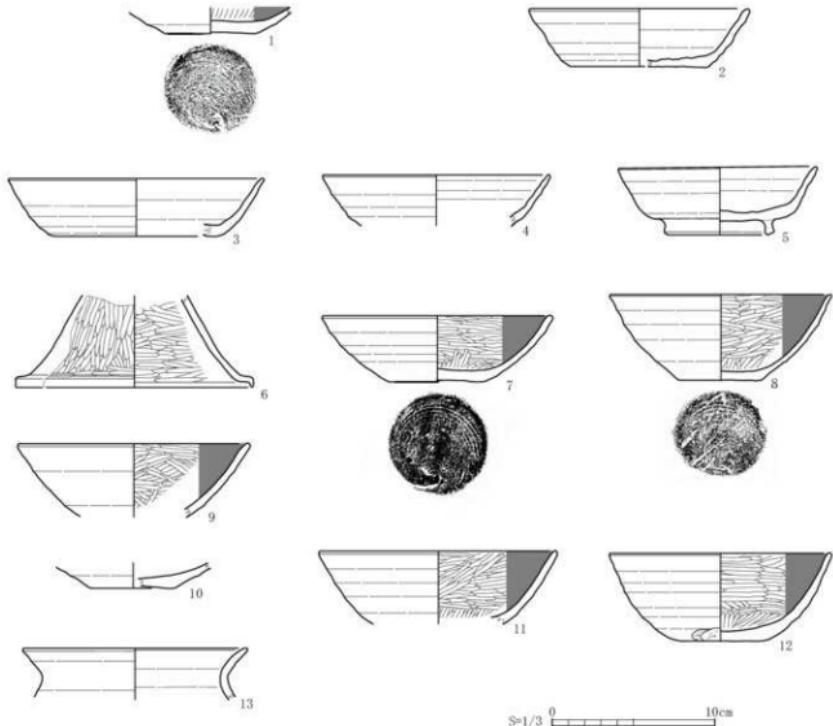
No.	種類	遺構	層位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	寸法(目)	備考
1	土器器坏	SK3085		ロクロナデ・回転糸切	ヘラミガキ・黒色処理	(5, 4)・8/24	(1, 3)	R39	墨書き	
2	土器器坏			ロクロナデ・回転糸切	ヘラミガキ・黒色処理	(6, 6)・5/24	(3, 4)	R40	墨書き	
3	土器器坏			ロクロナデ・回転糸切	ヘラミガキ・黒色処理	(15, 7)・12/24	6.3・24/24	5.6	R19 墨書き「山」	
4	土器器體			ロクロナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	(18, 7)・9/24		(12, 6)	R246	
5	支脚	SK3086	1	オサエメ	長：12.6	幅：8.2			R217	
6	土器器體	SK3087	1	ロクロナデ	ヘラナデ	(19, 3)・4/24	(2, 1)	R216		
7	須恵器環	SK3088	5	ロクロナデ・回転ケズリ	ロクロナデ	(14, 2)・2/24	(3, 3)	R219	外面に焼成物付着	
8	土器器體		1	ヘラケズリ・底：木葉痕	ヘラミガキ	8.3・24/24	(6, 8)	R16	内外面に墨付着	
9	土器器坏		SK3089	外・底：ヘラミガキ・黒色処理	ヘラミガキ・黒色処理	(12, 5)・2/24	(6, 0)・7/24	3.5	R46	
10	須恵系土器 蓋			ロクロナデ	ロクロナデ	(19, 7)・6/24		(2, 6)	R50	
11	須恵系土器 高台付环			ロクロナデ・底：摩滅	ロクロナデ	(19, 3)・1/24	(10, 0)・7/24	7.3	R49	
12	須恵系土器 环			ロクロナデ・底：摩滅	ロクロナデ	(14, 3)・7/24	(6, 5)・12/24	4.0	R48	
13	羽口	R51		ナデツケ	長：(7, 8)	幅：(5, 3)			R52	
14	砥石			ナデツケ	長：4.5	幅：4.8	厚：3.2	R51		

第66図 土坑出土遺物（1）



No.	種類	造形	層位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登錄番号	備考
1	土師器环		SK3090	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色處理	(18.6)・13/24	7.2・24/24	7.1	R23	
2	土師器环			ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色處理	(14.2)・6/24		(4.8)	R93	
3	土師器环			ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色處理	(14.6)・4/24		(3.9)	R92	
4	土師器环			ロクロナデ。底：摩減	ヘラミガキ・黒色處理		(7.0)・9/24	(3.6)	R91	
5	土師器环			ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色處理		5.5・24/24	(2.0)	R94	
6	土師器 高台付环			ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色處理		(7.4)・17/24	(2.1)	R78	
7	土師器環			ロクロナデ	ロクロナデ	(12.7)・6/24		(5.8)	R96	
8	土師器环	ロクロナデ。底：回転系切	SK3091		ヘラミガキ・黒色處理		(7.5)・7/24	(2.4)	R259	
9	土師器环	ロクロナデ。底：回転系切			ヘラミガキ・黒色處理		(5.5)・13/24	(3.2)	R260	
10	羽口	SK3097	1	ナデツケ		長：(2.9)	幅：4.8	厚：(5.0)	R176	
11	須應器瓶		1	ロクロナデ	ロクロナデ			(3.2)	R54	
12	土師器环	SK3092	1	ロクロナデ。底：回転系切	ヘラミガキ・黒色處理	(14.6)・3/24	(7.4)・7/24	6.1	R173	

第67図 土坑出土遺物（2）



No.	種類	遺構	番号	外　面	内　面	口徑・底径	底径・底存率	器高	壁厚	備考
1	土師器坏	SK3094	1	ロクロナダ。底：回転曲切	ヘラミガキ・黒色処理		5.6 × 24/24	(1.6)	R174	
2	須恵器坏	SK3095		ロクロナダ。	ロクロナダ	(13.4) × 4/24	(8.4) × 8/24	(3.6)	R175	
3	須恵器坏		1	ロクロナダ。底：回転ケズリ	ロクロナダ	(15.6) × 3/24	(9.7) × 2/24	3.6	R194	
4	須恵器坏	SK3216	1	ロクロナダ	ロクロナダ	(13.8) × 6/24		(3.2)	R195	第14図
5	須恵器 高台付坏		1	ロクロナダ。底：回転ケズリ	ロクロナダ	(12.1) × 12/24	6.1 × 24/24	4.2	R196	
6	須恵器 高台	SK3217	1	ロクロナダ・ヘラミガキ	ロクロナダ・ヘラミガキ		(14.4) × 5/24	(5.6)	R86	第16図
7	土師器坏	SK3218	1	ロクロナダ。底：回転曲切	ヘラミガキ・黒色処理	(14.0) × 6/24	5.9 × 24/25	4.1	R82	第16図
8	土師器坏		1	ロクロナダ。	ヘラミガキ・黒色処理	(13.5) × 5/24	5.0 × 24/24	5.3	R84	
9	土師器坏	SK3219	1	ロクロナダ	ヘラミガキ・黒色処理	(14.2) × 11/24		(4.5)	R83	第16図
10	須恵系土器 坏		1	ロクロナダ。底：撲滅	ロクロナダ		(5.3) × 5/24	(2.6)	R85	
11	土師器坏	SK3221	1	ロクロナダ	ヘラミガキ・黒色処理	(14.5) × 5/24		(4.5)	R89	第18図
12	土師器坏	SK3222	1	ロクロナダ・手持ケズリ。 底：手持ケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	(13.5) × 9/24	(5.4) × 13/24	5.4	R55	第23図
13	土師器壞	SK3220	1	ロクロナダ	ロクロナダ	(13.7) × 4/24		(3.2)	R87	第16図

第68図 土坑出土遺物（3）



第63図1



第63図2



第63図3



第63図4



第63図5



第63図6



第63図7



第64図1



第64図2



第64図3

10



第64図4

11



第64図5

12



第64図6

13



第64図7

14



第64図8

15



第64図11

16



第64図9

17

写真図版 14



第65図2 1



第65図4 2



第65図5 3



第65図9 4



第65図10 5



第65図11 6



第65図12 7



第65図13 8



第65図14 9



第66図1 10



第66図3 12



第66図4 13



第66図2 11

写真図版 15



第66図5 1



第66図6 2



第66図7 3



第66図8 4



第66図9 5



第66図10 6



第66図11 7



第66図12 8



第66図13 9



第66図14 10



第67図1 11



第67図2 12



第67図3 13



第67図4 14



第67図5 15



第67図6 16

写真図版 16



第67図7 10



第67図8 11



第67図9 12



第67図10 13



第67図11 14



第67図12 15



第68図1 16



第68図2 17



第68図3 18



第68図4 1



第68図5 2



第68図6 3



第68図7 4



第68図8 5



第68図9 6



第68図10 7



第68図11 8



第68図12 9



第68図13 10

写真図版 17



2区 SK3085 土坑模出（西から）



2区 SK3085 土坑断面（南東から）



2区 SK3085 土坑完掘（東から）



2区 SK3088 土坑断面（北東から）



3区 SK3090 土坑断面（西から）



3区 SK3089・3219・3220 土坑完掘（南から）



3区 SK3217・3218・3221 土坑完掘（西から）



4区 SK3092～3094 土坑完掘（北から）

(8) 番跡

【S X3114番跡】(第7~9・69・78図、写真図版20)

1区で検出された南北方向の番跡である。小溝跡は41条で、溝の間隔や方向、切り合い関係から4群に分類された。

(古) A群→B群→C群→D群(新)

〔重複〕S B2760~2764掘立柱建物跡、S A2765掘立柱廻跡、S K3084土坑、その他接する土坑、ピットより古い。S X3099整地層、S D3108・3109・3111溝跡、その他接する溝より新しい。

〔規模・埋土〕A群は6条で、長さ1.36~4.72(検出長)m、幅0.22~0.35m、深さ0.05~0.20mである。方向はN-8~12°-Eである。B群は10条で、溝の間隔は1.50~2.00mである。長さ0.88~5.83(検出長)m、幅0.22~0.55m、深さ0.04~0.20mである。方向はN-6~13°-Eである。C群は13条で、溝の間隔は1.50~2.00mである。長さ0.73~6.85(検出長)m、幅0.19~0.96m、深さ0.04~0.15mである。方向はN-5°-Eである。D群は12条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ0.87~10.70(検出長)m、幅0.15~0.26m、深さ0.07~0.19mである。方向はN-4~13°-Eである。

〔遺物〕出土していない。

【S X3115番跡】(第11・70・76図、写真図版20)

2区北部で検出された東西方向の番跡である。小溝跡は5条で、溝の間隔から2群に分類された。先後関係は不明である。

〔重複〕S D3113区画溝跡、S X3116番跡より古い。

〔規模・埋土〕A群は4条で、溝の間隔は1.50~2.00mである。長さ1.00~5.50(検出長)m、幅0.17~0.43m、深さ0.05~0.18mである。方向はE-7~11°-Sである。B群は1条で、長さ1.94m、幅0.20m、深さ0.03~0.05mである。方向はE-6°-Sである。

〔遺物〕A群埋土から土師器壺(BV)(第79図1)・甕(A・B)、須恵器壺(V)(第79図2)・瓶が出土した。

【S X3116番跡】(第11・71・76図、写真図版20)

2区北部で検出された南北方向の番跡である。小溝跡は8条で、溝の間隔や方向、切り合い関係から3群に分類された。

(古) A群→C群(新)
B群

〔重複〕S D3102北側溝跡、S K3085土坑、その他接する土坑、ピットより古い。S X3115番跡より新しい。

〔規模・埋土〕A群は3条で、溝の間隔は約1.70mである。長さ1.26~8.60(検出長)m、幅0.13~0.36m、深さ0.06mである。方向はN-4°-Eである。B群は2条で、溝の間隔は約1.50mである。長さ0.78~2.44(検出長)m、幅0.15~0.27m、深さ0.04~0.09mである。方向はN-11°-W~N-5°-Eである。C群は3条で、溝の間隔は約1.50mである。長さ2.45~7.41(検出長)m、幅0.16~0.51m、深さ0.04~0.12mである。方向はN-1~7°-Eである。

〔遺物〕A群埋土から土師器壺(BV)(第79図3)・甕(B)、須恵器甕が出土した。C群埋土から土師器壺(B)・甕(A)、須恵器甕、平瓦が出土した。

【S X3117番跡】(第12・13・72・76図、写真図版21)

2区中央部で検出された東西方向の番跡である。小溝跡は10条で、溝の間隔から2群に分類された。先後関係は不明である。

〔重複〕S X3118番跡より古い。

〔規模・埋土〕A群は7条で、溝の間隔は1.50~2.00mである。長さ0.98~4.20(検出長)m、幅0.15

～0.52m、深さ0.04～0.16mである。方向はE-7°～N～E-7°～Sである。B群は3条で、溝の間隔は1.30～2.00mである。長さ1.45～2.72（検出長）m、幅0.30～0.62m、深さ0.05mである。方向はE-16～21°～Sである。

【遺物】出土していない。

【S X3118烟跡】（第12～15・73・76・77図、写真図版21）

2区南半部で検出された南北方向の烟跡である。小溝跡は18条で、構の間隔や方向、切り合い関係から3群に分類された。

(古) A群→B群→C群（新）

【重複】SD3105区画溝跡、SD3112溝跡、SK3216土坑、SX3119烟跡、その他接する土坑より古い。SX3117烟跡より新しい。

【規模・埋土】A群は13条で、長さ0.75～12.28m、幅0.25～0.67m、深さ0.03～0.11mである。方向はN-34°～W～N-30°～Eである。B群は2条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ12.82～17.20m、幅0.18～0.46m、深さ0.03～0.14mである。方向はN-9～13°～Eである。C群は3条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ3.50～17.42（検出長）m、幅0.17～0.52m、深さ0.03～0.08mである。方向はN-1～4°～Eである。

【遺物】A群埋土から土師器坏（B）・甕（A・B）、須恵器坏（I）（第79図4）・（Ia）・蓋・甕が出土した。C群埋土から土師器坏（B）・高台付坏、須恵器坏（II）・甕が出土した。

【S X3119烟跡】（第13・14・72・77図、写真図版21）

2区南半部で検出された東西方向の烟跡である。小溝跡は15条で、構の間隔や方向、切り合い関係から3群に分類された。

(古) A群
B群→C群（新）

【重複】SD3112溝跡、その他接する土坑より古い。SX3118烟跡より新しい。

【規模・埋土】A群は4条で、溝の間隔は約2.50mである。長さ1.56～1.98（検出長）m、幅0.24～0.33m、深さ0.04～0.11mである。方向はE-1°～N～E-5°～Sである。B群は5条で、長さ1.31～4.23（検出長）m、幅0.20～0.32m、深さ0.04～0.07mである。方向はE-20°～N～E-6°～Sである。C群は6条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ2.50～4.00（検出長）m、幅0.22～0.60m、深さ0.04～0.12mである。方向はE-12°～N～E-7°～Sである。

【遺物】B群埋土から須恵器甕が出土した。C群埋土から土師器坏（B）・甕（A・B）、須恵器坏・蓋・甕・瓶が出土した。

【S X3120烟跡】（第16～19・75・77図、写真図版21）

3区東部～中央部で検出された東西方向の烟跡である。小溝跡は10条で、溝の間隔から2群に分類された。先後関係は不明である。

【重複】SB3064・3065・3068・3071・3072掘立柱建物跡、SK3218土坑、その他接する土坑、ピットより古い。SK3221土坑、SX3121烟跡より新しい。

【規模・埋土】A群は3条で、溝の間隔は2.00～3.00mである。長さ0.80～7.64（検出長）m、幅0.20～0.64m、深さ0.05～0.21mである。方向はE-7°～N～E-8°～Sである。B群は7条で、長さ0.58～4.08（検出長）m、幅0.25～0.51m、深さ0.05～0.16mである。方向はE-5°～N～E-10°～Sである。

【遺物】A群から土師器坏（B V）（第79図5）が出土した。B群埋土から土師器坏（B）・甕（A・B）、須

第69図 S×3114 烟跡





第70図 S X3115・3122 煙跡

第71図 S X3116・3123 烟跡



恵器坏（I）・甕が出土した。

【S X3121烟跡】(第16～19・74・77図)

3区東部～中央部で検出された南北方向の烟跡である。小溝跡は11条で、溝の間隔や方向、切り合い関係から3群に分類された。

〔重複〕S B 3064・3065・

3071掘立柱建物跡、S K

3217土坑、S X3120烟跡、その他接する土坑、ピットより古い。

〔規模・埋土〕A群は5条で、長さ0.53～5.40(検出長)m、幅0.31～0.61m、深さ0.04～0.11mである。方向はN-5°-Eである。B群は3条で、溝の間隔は約2.50mである。長さ1.00～4.04(検出長)m、幅0.27～0.51m、深さ0.04～0.12mである。方向はN-2～10°-Eである。C群は3条で、溝の間隔は約3.00mである。長さ2.75～15.25(検出長)m、幅0.27～0.56m、深さ0.03～0.21mである。方向はN-2～6°-Eである。

〔遺物〕A群から土師器甕（B）、須恵器坏・甕が出土した。B群から土師器坏（B）・甕（A・B）、須恵器坏・甕が出土した。C群から土師器坏（B）・甕（A）が出土した。

【S X3122烟跡】(第21～23・70・77図、写真図版21)

3区北部～4区で検出された東西方向の烟跡である。

小溝跡は47

条で、溝の

間隔や方向、

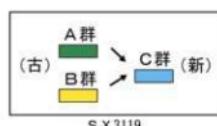
切り合い関

係から8群

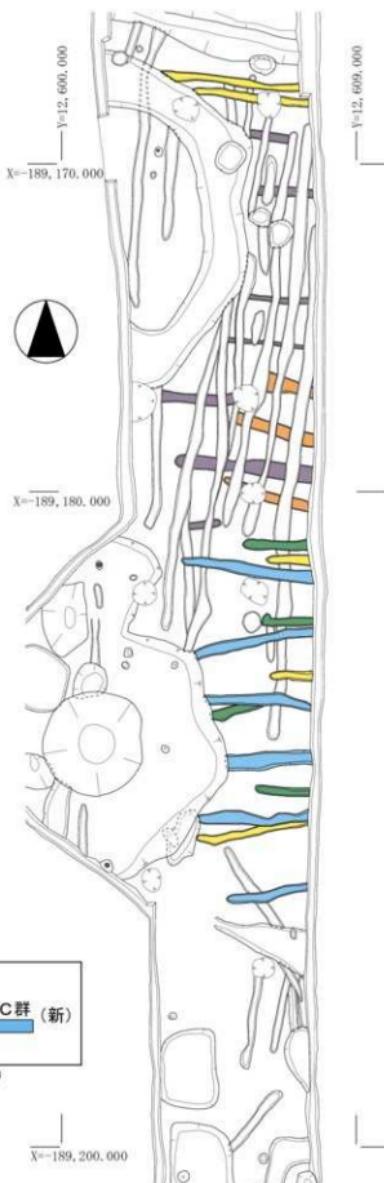
に分類された。



〔重複〕S D3113区画溝跡、S B 3073～3082掘立柱建物



S=1/150 0 10m

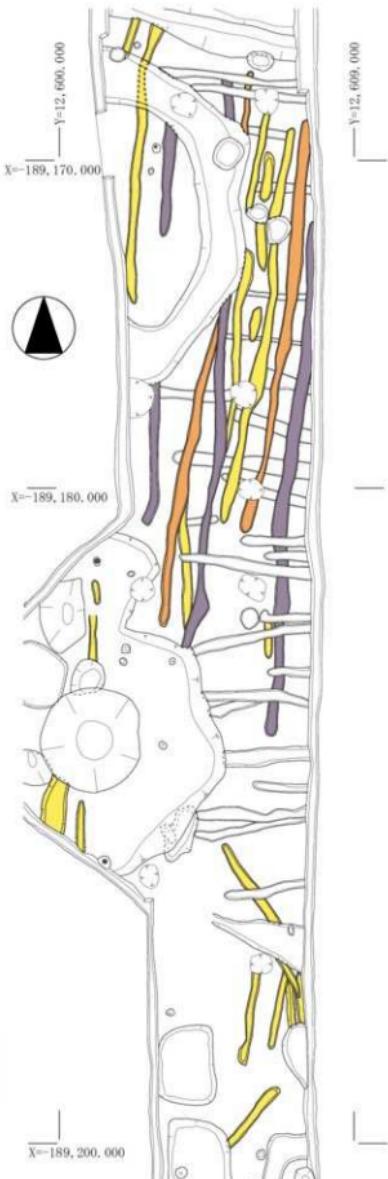
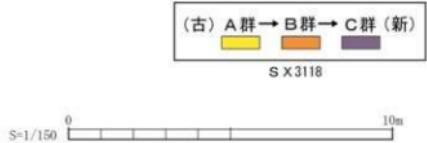


第72図 S X3117・3119 烟跡

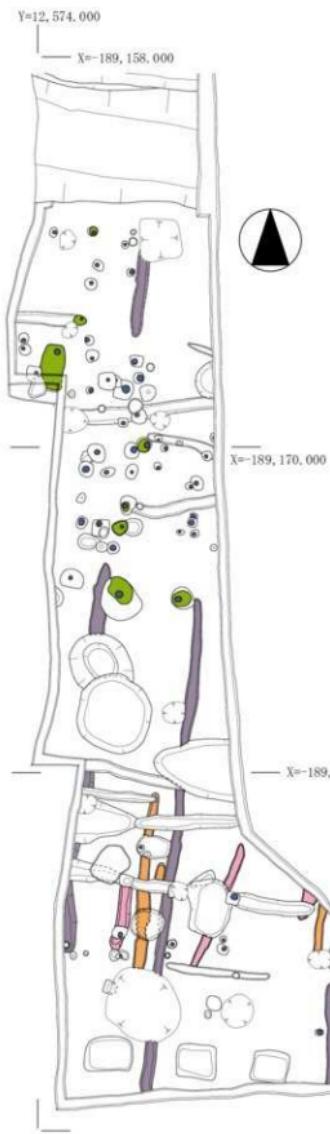
跡、S A3098掘立柱壙跡、S K3090～3097・3222土坑、S X3123烟跡、ピット3・4、その他接する土坑、ピットより古い。

[規模・埋土] **A群**は9条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ1.10～8.20（検出長）m、幅0.15～0.65m、深さ0.04～0.14mである。方向はE-1°～5°-Sである。**B群**は12条で、長さ0.64～12.59（検出長）m、幅0.16～0.70m、深さ0.05～0.21mである。方向はE-4°-N～E-10°-Sである。**C群**は5条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ3.90～10.35（検出長）m、幅0.21～0.62m、深さ0.07～0.11mである。方向はE-3°-Nである。**D群**は4条で、溝の間隔は1.70～2.00mである。長さ0.53～4.71（検出長）m、幅0.9～0.23m、深さ0.05～0.18mである。方向はE-4～7°-Sである。**E群**は3条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ3.20～4.39（検出長）m、幅0.13m、深さ0.08～0.26mである。方向はE-5°～10°-Sである。**F群**は3条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ0.70～1.51（検出長）m、幅0.03～0.11m、深さ0.04mである。方向はE-1°-N～E-2°-Sである。**G群**は6条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ0.65～15.00（検出長）m、幅0.16～0.55m、深さ0.07～0.20mである。方向はE-2°-Sである。**H群**は5条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ1.20～6.35（検出長）m、幅0.05～0.24m、深さ0.04～0.18mである。方向はE-12～22°-Sである。

[遺物] **A群**から土師器壺（B I）・甕（B）、須恵器高台付壺・甕が出土した。**B群**から土師器壺（B）・甕（B）、須恵器壺（IIa）・（III）・甕・瓶、平瓦が出土した。**D群**から土師器壺（B V）・甕（B）、須恵器蓋・甕が出土した。**E群**から土師器壺（B）・甕（A）（第79図7）・（B）、**G群**から土師器壺（B）・甕（A）（第79図7）・（B）、



第73図 S X3118 痕跡



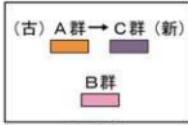
須恵器壺（I）（第79図8）・蓋（第79図6）・甕、砥石（第79図9）が出土した。H群から土師器甕（A・B）、須恵器蓋・甕が出土した。

【S X3123 煙跡】（第21～23・71・78図、写真図版21）

3区北部～4区で検出された南北方向の煙跡である。小溝跡は41条で、溝の間隔や方向、切り合い関係から5群に分類された。

【重複】 S D3113区画溝跡、S B3073・3074・3077・3079～3081掘立柱建物跡、S A3098掘立柱塙跡、S K3092～3094・3096・3097土坑、その他接する土坑、ピットより古い。S X3122煙跡より新しい。

【規模・埋土】 A群は10条で、溝の間隔は2.00～3.00mである。長さ1.35～4.48（検出長）m、幅0.15～0.26m、深さ0.05～0.13mである。方向はN-1～5°-Eである。B群は8条で、長さ0.67～2.20（検出長）m、幅0.16～0.48m、深さ0.05～0.18mである。方向はN-4°-W～N-10°-Eである。C群は3条で、溝の間隔は1.50～2.00mである。長さ1.16～4.74（検出長）m、幅0.13～0.33m、深さ0.03～0.05mである。方向はN-5°-Eである。D群は5条で、溝の間隔は約1.50mである。長さ1.92～4.93（検出長）m、幅0.15～0.36m、深さ0.04～



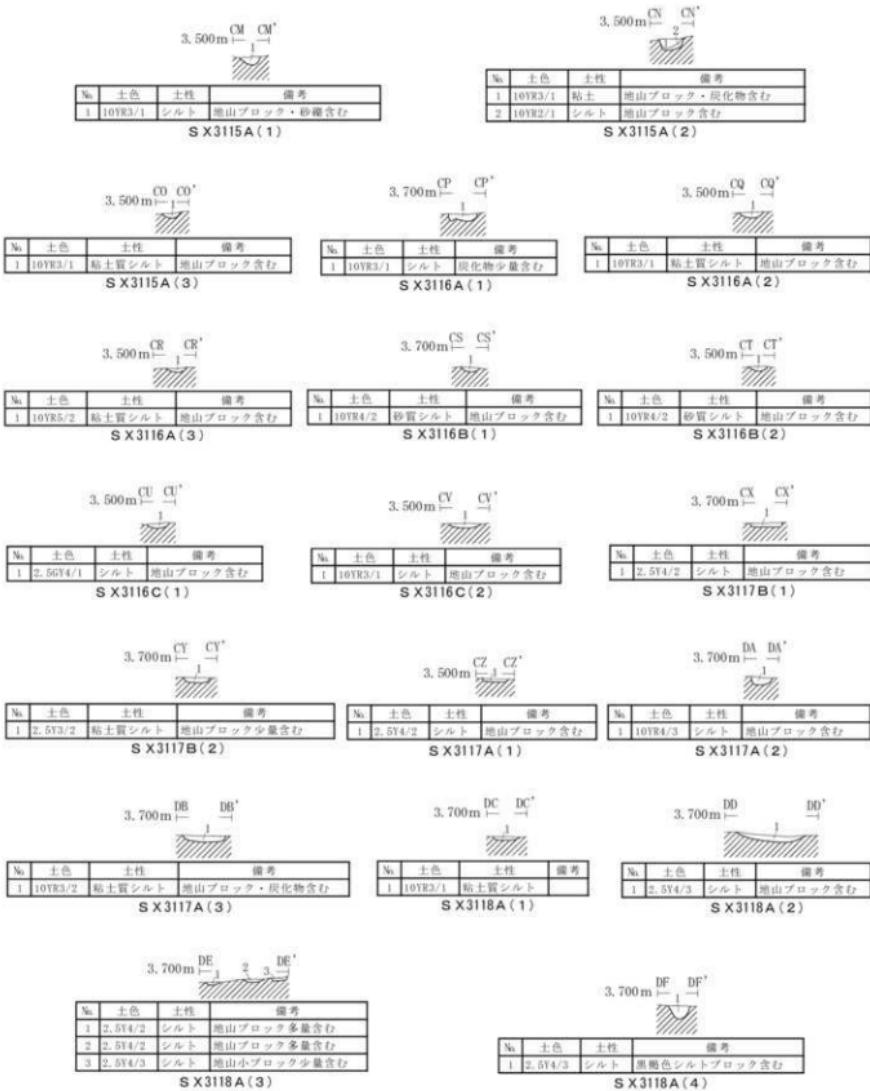
第74図 S X3121 煙跡



第75図 S X3120 煙跡

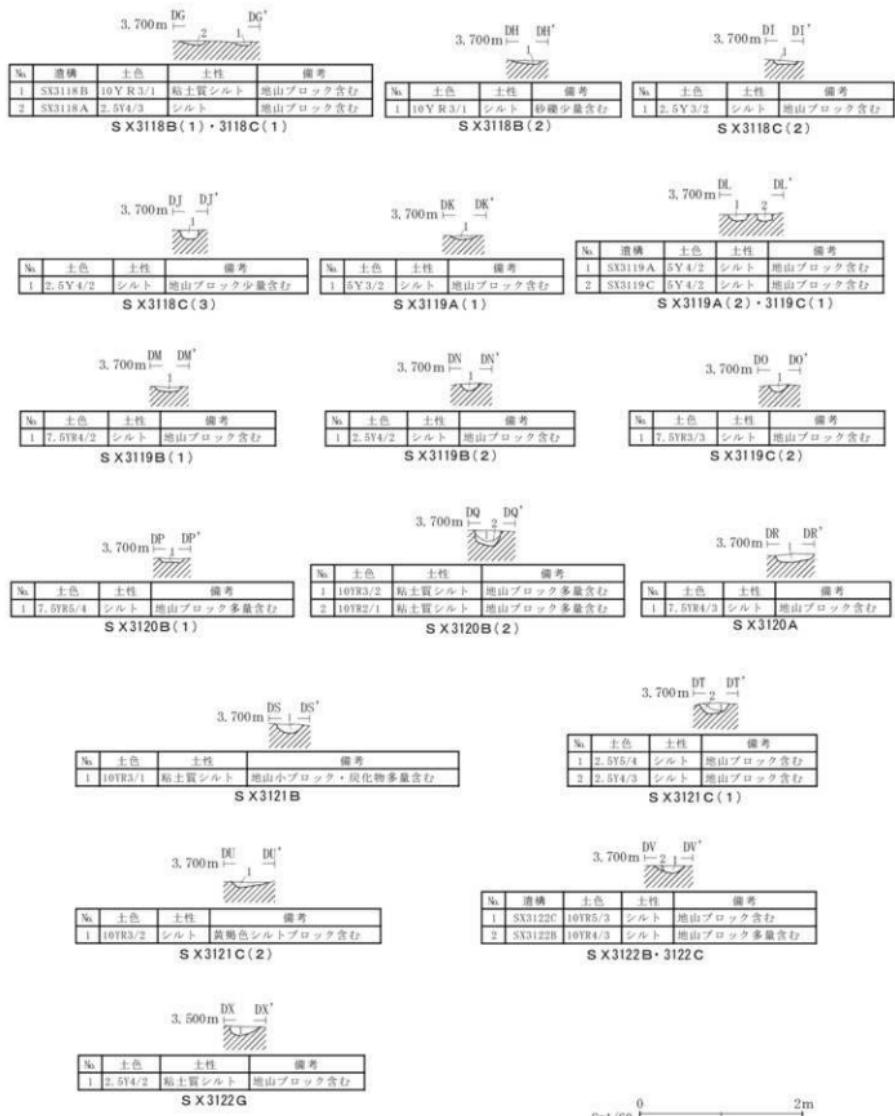
0.18mである。方向はN-1~4°-Eである。E群は15条で、溝の間隔は1.50~2.00mである。長さ1.35~8.40(検出長)m、幅0.16~0.48m、深さ0.08~0.26mである。方向はN-1~7°-Eである。

[遺物] A群から土師器壺(B)・甕(B)、須恵器壺(III)・甕、鉄滓が出土した。C群から土師器壺(B I a)・甕(B)、須恵器甕が出土した。E群から土師器壺(B II)・甕(A・B)、須恵器壺(I a)・甕・瓶が出土した。

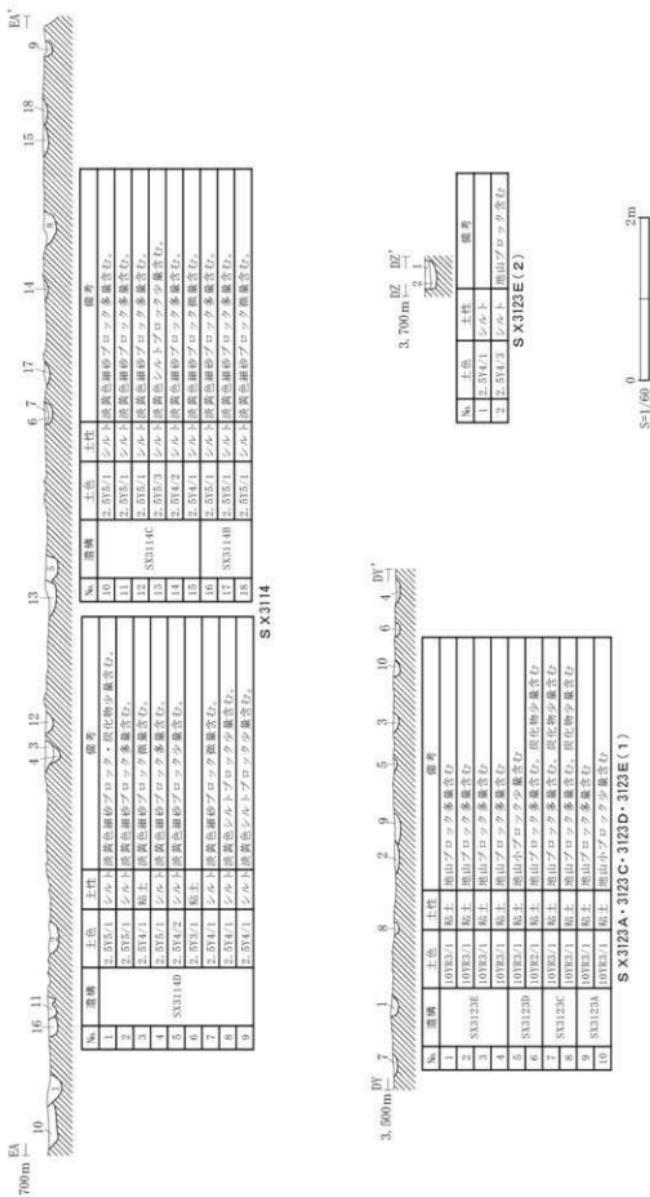


第 76 図 番跡断面図 (1)

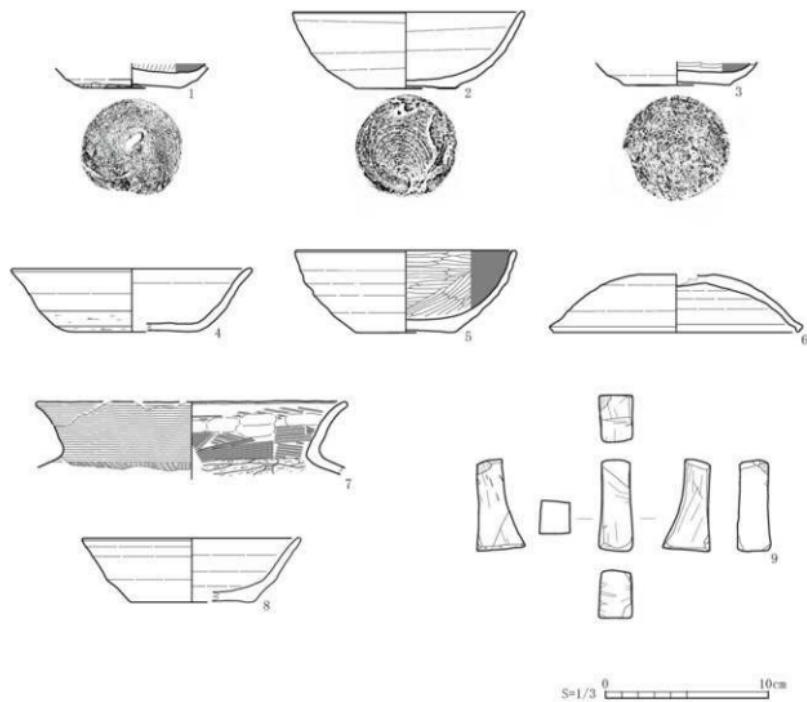
0 2m
S=1/60



第 77 図 烟跡断面図 (2)



第78圖 煙跡斷面圖 (3)



5=1/3 0 10cm

No.	種類	遺構	層位	外　面	内　面	口径・現存半	底径・現存半	器高	甲種番号	圖考
1	土師器环	SX3115A	I	ロクロナダ・手持ケズリ。 底：回転舟切	ヘラミガキ・ 黒色処理	6.2・24/24	(1.5)	R239		
2	須恵器环		I	ロクロナダ。底：回転舟切	ロクロナダ	(14.1)・10/24	6.2・24/24	4.7	R6	
3	土師器 环	SX3116A	I	ロクロナダ。底：回転舟切	ヘラミガキ・ 黒色処理	6.5・24/24	(1.4)	R238		
4	須恵器 环	SX3118A	I	ロクロナダ・回転ケズリ。 底：回転ケズリ	ロクロナダ	(14.6)・4/24	(8.2)・10/24	3.9	R5	
5	土師器 环	SX3120A	I	ロクロナダ。底：回転舟切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.4)・11/24	6.2・24/24	5.0	R21	
6	須恵器 盖		I	ロクロナダ	ロクロナダ	(15.2)・1/24		(3.5)	R171	
7	土師器 壶	SX3122G	I	ハケメ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ ハケメ	(18.8)・4/24		(4.7)	R170	
8	須恵器 环		I	ロクロナダ。底：回転ヘラ切	ロクロナダ	(13.3)・2/24	(7.8)・7/24	3.9	R108	
9	瓦石		I			長：5.6	幅：2.1	厚：2.9	R168	

第79図 煙跡出土遺物



第79図2



第79図5



第79図4



第79図6



第79図7



第79図8



第79図9

7

写真図版19



1区S X3114 煙跡検出（東から）



1区S X3114 煙跡完掘（北から）



2区S X3115+3116 煙跡完掘（北から）



1区S X3115A群煙跡断面（西から）

写真図版20



2区S X3117～3119 番跡検出（北から）



2区S X3117～3119 番跡完掘（東から）



2区S X3118A 群番跡断面（南から）



3区S X3120B 群番跡断面（西から）



4区S X3122・3123 番跡検出（北から）



3区S X3122・3123 番跡完掘（東から）



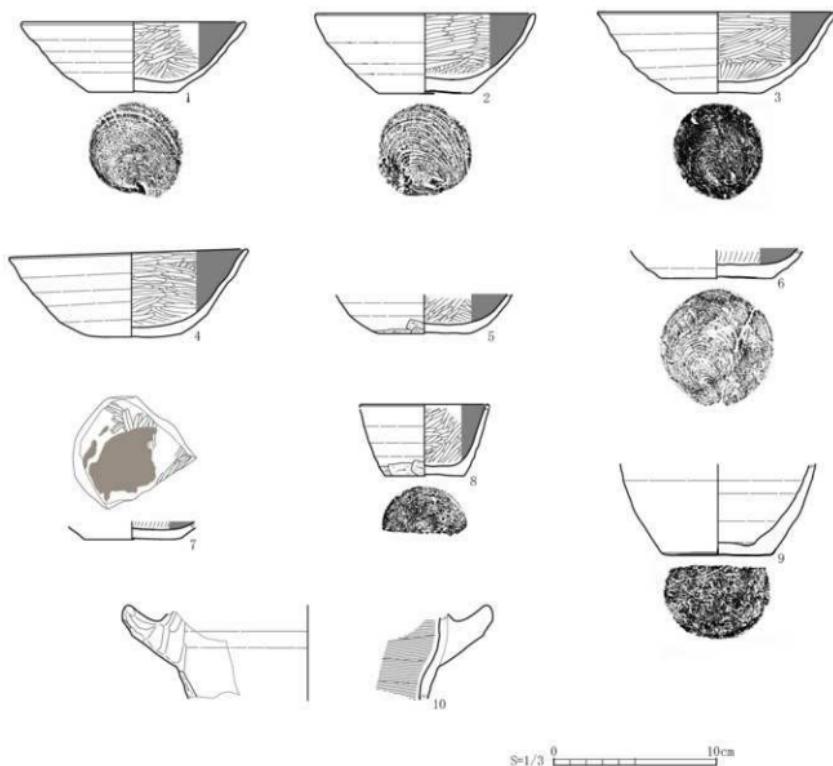
4区S X3122・3123 番跡完掘（東から）



4区S X3123E 群番跡断面（南から）

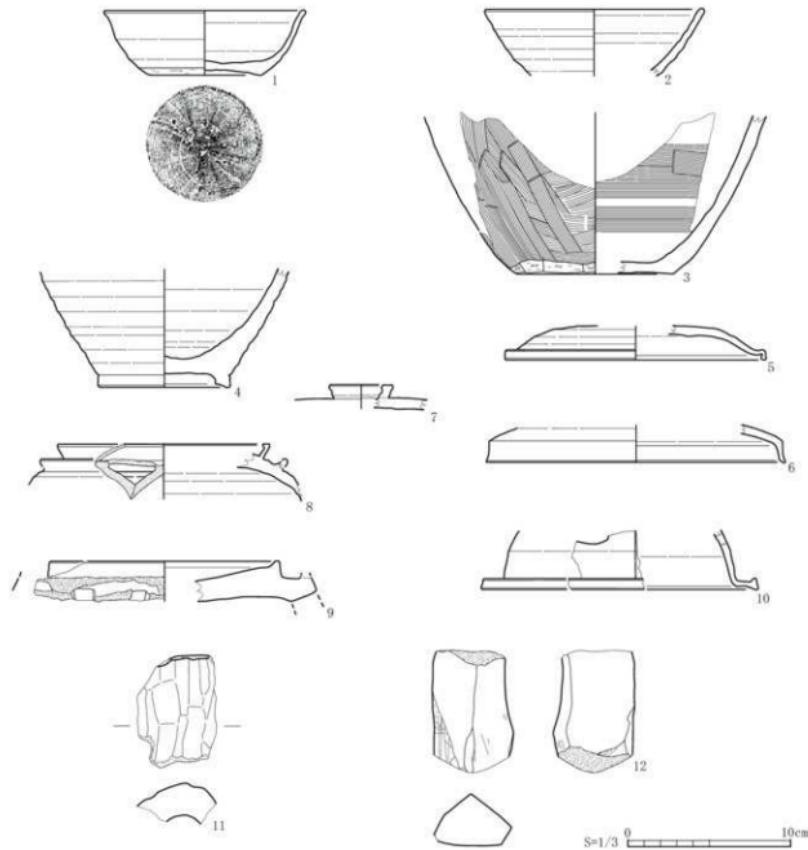
(9) 遺構外出土遺物

III1・III2・IV2・V層出土遺物を掲載する。



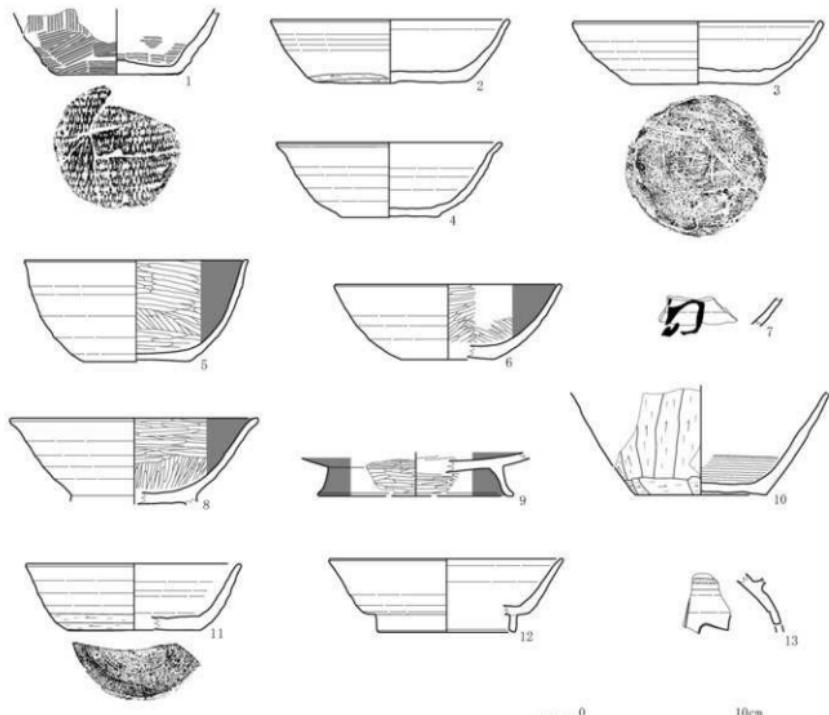
%	種類	層位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	参考番号	備考
1	土師器环	III	ロクロナゲ。底：回転糸切	ヘラミガキ・黒色處理	(13.6)・2/24	5.4・24/24	4.3	R142	
2	土師器环	III	ロクロナゲ。底：回転糸切	ヘラミガキ・黒色處理	(13.4)・4/24	5.6・24/24	4.9	R253	
3	土師器环	III	ロクロナゲ。底：回転糸切	ヘラミガキ・黒色處理	(14.6)・6/24	5.2・24/24	5.0	R18	
4	土師器环	III	ロクロナゲ。底：摩滅	ヘラミガキ・黒色處理	(14.5)・16/24	6.1・24/24	5.4	R152	
5	土師器环	III	ロクロナゲ・ヘラケズリ。 底：手持ケズリ	ヘラミガキ・黒色處理		5.8・24/24	(2.4)	R143	
6	土師器环	III	ロクロナゲ。底：回転糸切・ 手持ケズリ	ヘラミガキ・黒色處理		(6.8)・23/24	(1.7)	R140	
7	土師器环	III	ロクロナゲ。底：回転糸切	ヘラミガキ・黒色處理		(5.9)・15/24	(1.1)	R32	内面に唐付器
8	土師器环	III	ロクロナゲ・ヘラケズリ。 底：回転糸切・手持ケズリ	ヘラミガキ・黒色處理		(4.9)・13/24	(4.4)	R149	
9	土師器甕	III	ロクロナゲ。底：不明	ロクロナゲ		(6.8)・16/24	(5.6)	R17	底面にヘラ擦き
10	土師器甕	III	ロクロナゲ・ヘラケズリ	ヘラナゲ			(5.8)	R144	

第80図 遺構外出土遺物（1）



No.	種類	断面	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	年輪数	備考
1	須恵器杯	III	ロクロナゲ・回転ケズリ。 底：回転ケメリ	ロクロナゲ	(12.2) × 2/24	7.0 × 24/24	4.0	R145	
2	須恵器杯	III	ロクロナゲ	ロクロナゲ	(13.3) × 7/24		(4.1)	R153	
3	須恵器甕	III	ヘラナゲ・ヘラケズリ。 底：ヘラナゲ	回転ヘラナゲ		(9.6) × 20/24	(9.9)	R146	
4	須恵器瓶	III	ロクロナゲ。底：ロクロナゲ	ロクロナゲ		(8.1) × 7/24	(7.2)	R147	
5	須恵器蓋	III	ロクロナゲ	ロクロナゲ	(15.9) × 2/24		(2.1)	R34	
6	須恵器蓋	III	ロクロナゲ	ロクロナゲ	(18.2) × 3/24		(2.3)	R150	
7	須恵器蓋	III	ロクロナゲ	ロクロナゲ			(1.5)	R33	
8	須恵器 円盤鏡	III	ロクロナゲ	ロクロナゲ	(12.9) × 2/24		(3.4)	R151	
9	須恵器 円盤鏡	III	ロクロナゲ。スカシ：方形	ロクロナゲ	(14.0) × 6/24		(2.5)	R252	
10	須恵器 円盤鏡	III	ロクロナゲ。スカシ：方形？	ロクロナゲ		(17.0) × 2/24	(3.6)	R141	
11	器口	III	ナデツケ		長：(6.5)	幅：(4.8)		R35	
12	砥石	III			長：(7.4)	幅：4.9	厚：3.8	R148	

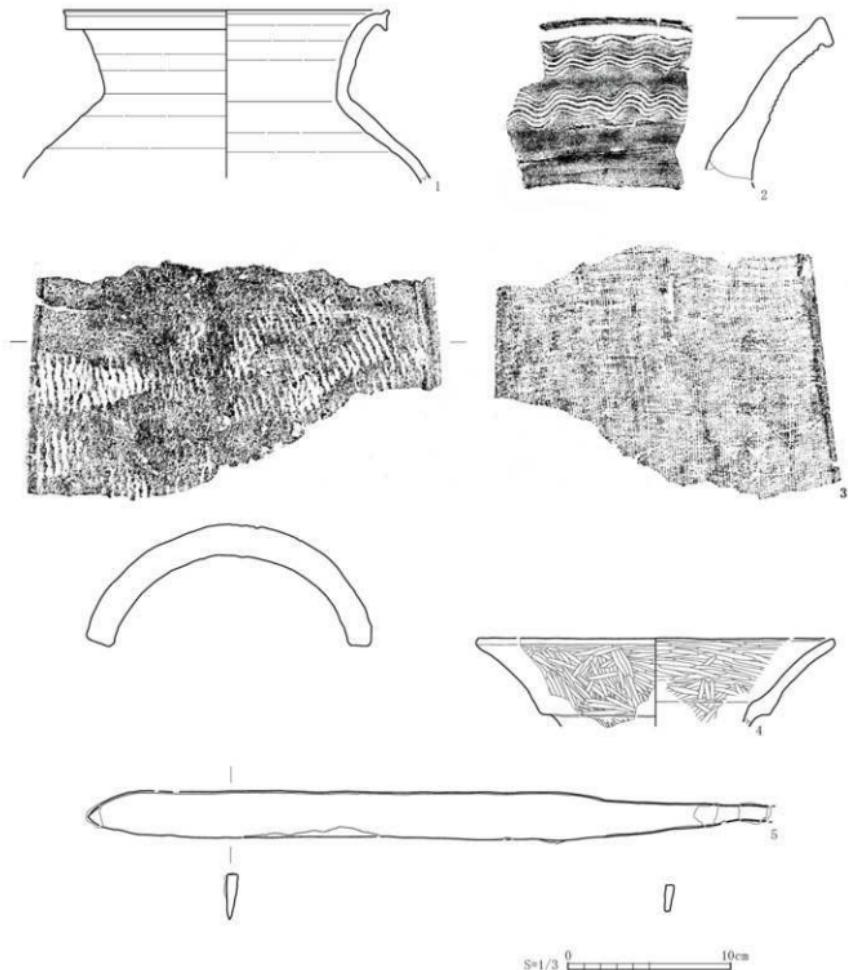
第81図 遺構出土遺物（2）



S=1/3 0 10cm

No.	種類	層位	外観	内面	口径・残存率	底径・残存率	器高	参考番号	備考
1	土師器盤	Ⅲ～ⅣⅡ	ハケメ。底：笠状圧痕	ハケメ		(7.6)・19/24	(4.0)	R155	
2	須恵器环	Ⅲ～ⅣⅡ	ロクロナデ・手持ケズリ。 底：回転ヘラ切・手持ケズリ	ロクロナデ	(14.6)・10/24	(9.2)・14/24	3.9	R25	
3	須恵器环	Ⅲ～ⅣⅡ	ヘラナデ。底：手持ケズリ	ロクロナデ	(15.2)・10/24	8.6・24/24	3.9	R156	
4	須恵器环	Ⅲ～ⅣⅡ	ヘラナデ。底：回転糸切	ロクロナデ	(13.7)・5/24	(5.9)・7/24	4.6	R154	
5	土師器环	ⅣⅡ	ロクロナデ。底：摩滅	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.6)・6/24	(6.5)・15/24	6.2	R97	
6	土師器环	ⅣⅡ	ヘラナデ。底：回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.8)・2/24	(5.6)・9/24	4.6	R180	
7	土師器环	ⅣⅡ	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理			(1.6)	R250	墨書「南」
8	土師器 高台付环	ⅣⅡ	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(15.1)・2/24		(5.3)	R251	
9	土師器 高台付环	ⅣⅡ	ヘラミガキ・黒色処理	ヘラミガキ・ 黒色処理		(12.9)・1/24	(2.7)	R38	
10	土師器	ⅣⅡ	ロクロナデ・ヘラケズリ。 底：不明	回転ヘラナデ		(8.6)・17/24	(6.2)	R178	
11	須恵器环	ⅣⅡ	ロクロナデ・回転ケズリ。 底：回転ケズリ	ロクロナデ	(13.1)・4/24	(8.2)・12/24	4.1	R247	
12	須恵器 高台付环	ⅣⅡ	ヘラナデ。底：不明	ロクロナデ	(14.3)・2/24	(8.4)・5/24	4.5	R248	
13	須恵器 内面破	ⅣⅡ	ロクロナデ・沈穂。 スカシ：十字形	ロクロナデ			(3.6)	R79	

第82図 遺構外出土遺物（3）



第83図 遺構出土土遺物（4）

No.	種類	層位	外　面	内　面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	須彌器甕	IV.2	ロクロナデ	ロクロナデ	(19.8)・5/24		(10.3)	E179	
2	須彌器甕	IV.2	ロクロナデ・横波状文	ロクロナデ			(10.0)	E90	
3	瓦	IV.2	凸面：横タタキ目・ロクロナデ	凹面：布目	長：(15.7)	幅：17.7		E249	
4	土師器甕	V	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	(21.7)・4/24		(5.4)	E257	
5	刀	III.1			長：(42.0)	幅：2.8		E1	



第80図1 1



第80図2 2



第80図3 3



第80図4 4



第80図5 5



第80図6 6



第80図7 7



第80図8 8



第80図9 9



第80図10 10



第81図1 11



第81図3 13



第81図2 12



第81図4 14



第81図5 15



第81図6 16

写真図版 22



第81図8 1



第81図9 2



第81図10 3



第81図11 4



第81図12 5



第82図1 6



第82図2 7



第82図3 8



第82図4 9



第82図5 10



第82図6 11



第82図7 12



第82図8 13



第82図9 14



第83図5 15

写真図版 23



第82図10 1



第82図11 2



第82図12 3



第82図13 4



第83図1 5



第83図2 6



第83図3 7



第83図4 8

写真図版 24

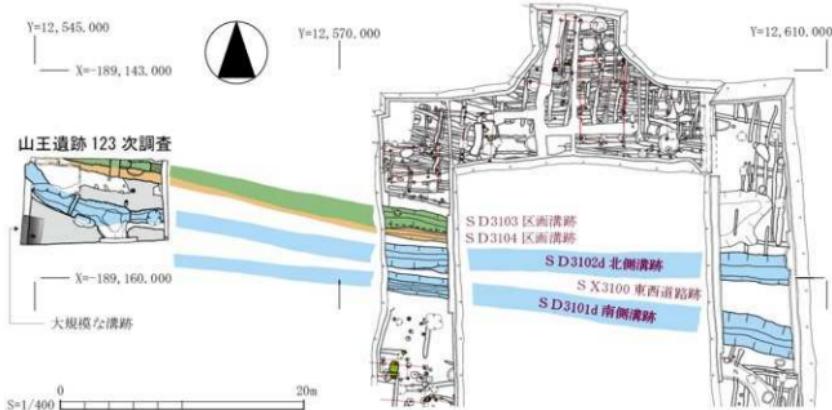
3 まとめ

(1) 山王遺跡第123次調査の検討

平成24年度に震災復興関連で行われた山王遺跡第123次調査（以下、山王123次と記す。多賀城市教育委員会 2021）は、本調査地の西隣に位置し、西8道路跡と東西道路跡の交差点を発見したとの調査結果を報告している。そこで、本調査成果と関わるためあらためて検討したい。

本調査と山王123次の位置関係は、第84図に示した。両調査区の距離は約17mとなる。本調査で得られた東西道路跡と S D3103・3104区画溝を西へ推定延長させてみると、山王123次調査報告と異なる解釈となる。それは山王123次で東西道路跡南側溝跡（S D2810南側溝）としたものが本調査の東西道路跡北側溝跡に、北側溝跡（S D2809北側溝）としたものが本調査の S D3103・3104区画溝にそれぞれ対応することである。根拠は山王123次の北側溝跡に方格地割廃絶以降の黒色粘土層が堆積していないことや、3時期あるものの、2時期目と3時期目の切り合い関係や規模が S D3103・3104区画溝に類似するためである。山王123次の南側溝跡も、本調査の北側溝跡とつなげた方が、平面図上スムーズに連結できると推定される。さらに、山王123次の調査区南西部で東西方向の大規模な溝跡が報告されており、これについても本調査の S D3105区画溝を思わせるものである。このように考えるならば、山王123次の発見遺構は本調査と共に通する様相となり、東西道路跡及び区画溝が西側に延長していく成果が追加されたこととなる。

このほか検討すべき事として、西8道路跡の西側溝跡（S D2812西側溝）がある。南東方向の2度の掘り直しがある溝跡で、対応する東側溝跡は調査区外の東側にあるものと推定している。西8道路については、令和3年度の山王遺跡第233次調査で東側溝が検出された（令和4年度報告予定）。その成果を踏まえると、山王123次調査区よりさらに西側に西8道路跡が通過することが推定され、西8道路と記載された南北方向に突き出た遺構は、西側溝ではないと考えたい。なお、現時点ではその遺構がどんな形状になるか読み取れないため、性格等は不明である。



第84図 山王遺跡第123次調査の検討

（2）東西道路跡と区画溝跡の変遷

2・3区でSX3100東西道路跡が発見され、さらに道路直下から先行する区画溝跡2条を確認した。これらと道路跡北脇で検出した区画溝跡2条の変遷と年代について古い時期から検討したい（第85・86図）。

【SD3106区画溝跡】最も古い遺構はSD3106区画溝跡である。2区だけで検出されたが、SD3105区画溝跡により大きく壊されているため、3区でも存在した可能性がある。位置はSD3101南側溝跡よりわずかに北寄りになる。出土遺物は土師器・須恵器の破片数点で、ロクロ調整の土師器甕がある。遺構の年代は8世紀末以降と考えられる。

【SD3105区画溝跡、SD3103・3104区画溝跡】次がSD3105区画溝跡である。上幅が広い形状で、SD3101南側溝跡により一部壊されている。出土遺物（下層）は土師器はロクロ調整である。須恵器は逆台形状で、回転ヘラ切り無調整、回転ヘラ切り後に回転ヘラケズリ、静止糸切り後に手持ちヘラケズリ、切り離し不明で回転ヘラケズリなどがある。このような特徴は、多賀城跡大塙地区S12153住居跡出土遺物（多賀城跡調査研究所 1993）、山王遺跡八幡地区SK7093土坑（宮城県教育委員会 2018）などがあり、8世紀末～9世紀前葉に位置付けられている（宮城県教育委員会 2018）。遺構の年代としては、SD3106区画溝跡との重複や上層に時期が新しい遺物も散見できることから、9世紀前半頃と考えておきたい。

SD3103・3104区画溝跡は、3区東西道路跡の北脇で検出された。SD3104区画溝跡はSD3103区画溝跡に一部壊されており、方向も近似することから掘り直しの可能性もある。遺物は少なく、流れ込み等も考えられる出土状況である。これらの溝跡はSD3102北側溝跡とごく近い距離にあり、区画施設としての機能を考えた場合、SX3100東西道路跡と同時期に作られたとは考えにくい。このことから、SD3103・3104区画溝跡はSD3105区画溝跡と併存していたものと推定したい。

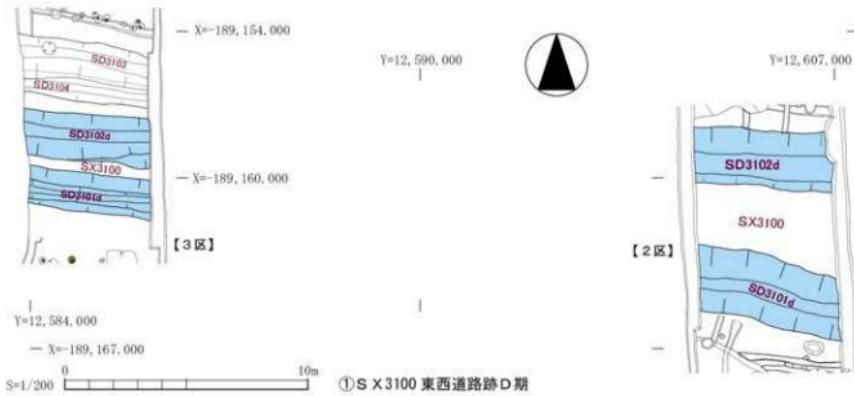
【SX3100東西道路跡A期】次いでSX3100東西道路跡の最古段階であるA期となる。B期以降の掘り直しの影響を受けて3区SD3102北側溝跡だけ検出された。遺物は出土していない。遺構の年代は後述するB期の年代を踏まえて、9世紀後半～10世紀前葉以前頃と考えられる。

【SX3100東西道路跡B期】SX3100東西道路跡の2期目であるB期は、C期以降の掘り直しの影響を受けて2・3区SD3102北側溝跡だけ検出された。3区北側溝跡埋土で灰白色火山灰の自然堆積を確認した。このことから、遺構の年代は10世紀前葉頃と捉えられる。

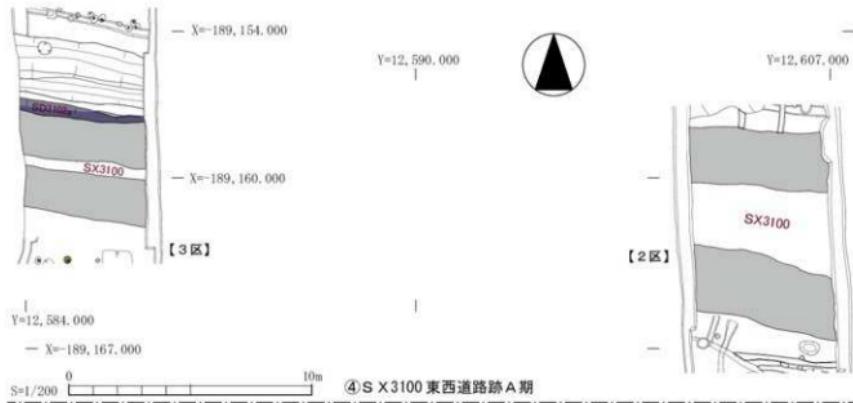
【SX3100東西道路跡C期】SX3100東西道路跡の3期目であるC期は、D期の掘り直しで一部壊されているが、SD3101南側溝跡・SD3102北側溝跡とも検出された。この時期でようやく東西道路跡の規模が明らかとなる。路幅（側溝心々計測）は2区で5.58～6.28m、3区で2.53～2.80mになり、調査区西側で路幅が狭くなる傾向にある。出土遺物は少なくまとまりがないことから、遺構の年代はB期を踏まえて10世紀前葉以降としておきたい。

【SX3100東西道路跡D期】SX3100東西道路跡の最終段階であるD期は、SD3101南側溝跡・SD3102北側溝跡が検出された。路幅（側溝心々計測）は2区で5.00～5.68m、3区で2.42～2.59mになり、路幅・方向ともC期と大差はない。遺構の年代について、側溝跡埋土の上層に方格地割廃絶以降の黒色粘土層が堆積していることから、下限を10世紀後半頃と考えられる。

調査記録から以上のような変遷と年代が想定される。特に、SX3100東西道路跡の直下から、道路跡と方向を同じくした区画溝跡の検出は、方格地割を検討する上で重要な発見と考えられる。



第 85 図 遺構変遷図（1）



第 86 図 遺構変遷図 (2)

（3）方格地割

方格地割について検討したい。8世紀後半以降、南北・東西大路を中心に東西約1.5km、南北約0.8kmの範囲に方格地割が形成された。基幹道路である大路を基準として施行された方格地割は、幾度かの改修を経ながら段階的に拡大したと考えられている。

第87図はこれまでの調査成果に、平成27年度～令和2年度にかけて実施した多賀城地区ほ場整備事業に伴う発掘調査（報告書作成中）で新たに得られた成果を加えて作成された方格地割図である。この中で、東西大路より南に施工された道路について見ていきたい。東西大路から南へ約140m離れた地点から南1道路が検出されている。南2道路は東西大路から南へ260～280m離れた地点から検出されているが、これまでは西側にどのように延びているのか不明な点が多かった。ほ場整備事業による調査により7地点で確認することができ、図で示したように東西大路と平行することが有力となった。そしてさらに東西大路から南へ390～400m離れた3地点で東西方向の道路跡が検出された。この道路跡について、今のところ道路名はない。本調査および山王遺跡第123次調査で検出した東西道路跡は、位置関係からこの3本目の東西道路跡の延長線上に当たる。今回の発見によりこの東西道路跡は、延長約800m以上の直線状の道路で、東西大路に平行することが推定される。ほ場整備事業の報告書でさらに詳細な検討が加えられるであろうが、現時点での状況を考慮し、東西大路にほぼ平行する広域的な区画道路として「南3道路」と呼びたい。南3道路の設定により、まち並みの広がりや形成について今後検討していく必要がある。

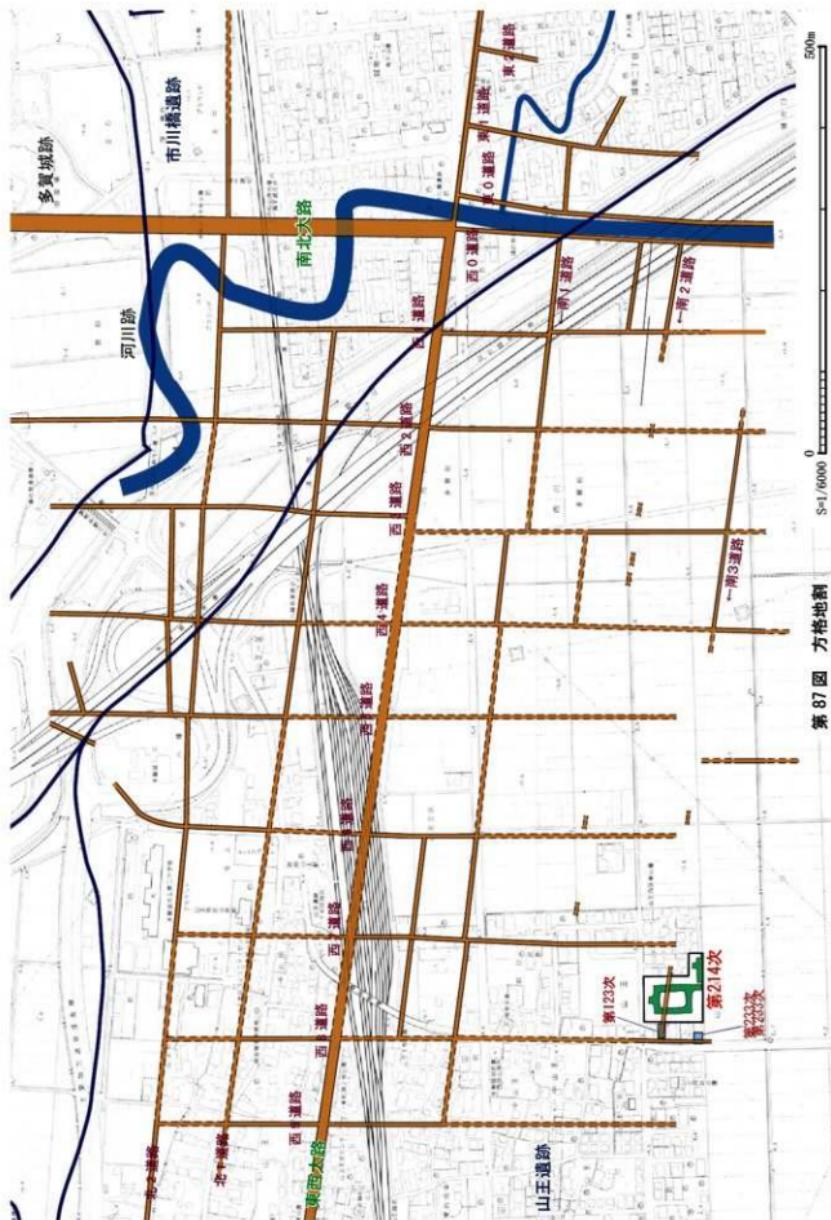
（4）烟跡

10面の烟跡が検出された。烟の方向は東西方向と南北方向があり、南北方向が新しい傾向にある。烟跡の小溝は間隔や切り合い関係から複数の群に分けられ、繰り返し改変されたことが読み取れる。溝の間隔は1.50～2.00mのものが多い。平面図に記載できなかったが、小溝底面に凹凸があり作業中の工具痕と推定される。出土遺物は小片が多いものの、土師器壺は非ロクロ調整とロクロ調整があり、ロクロ調整には回転ヘラ切り後に回転ヘラケズリ、切り離し不明で手持ちヘラケズリ、回転ヘラ切り無調整、静止糸切り無調整、回転糸切り無調整がある。須恵器壺は回転ヘラ切り後に回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り後に手持ちヘラケズリ、回転ヘラ切り無調整、回転糸切り無調整がある。これらの特徴から、土器の年代は8世紀末から9世紀前半頃と考えられ、烟跡の年代も同様に捉えられる。なお、本調査区から程近い山王遺跡第187～191調査（多賀城市教育委員会 2018）でも烟跡が検出され、年代を8世紀末以降としており、共通する。

（5）掘立柱建物跡、掘立柱塙跡

掘立柱建物跡24棟、掘立柱塙跡2条が検出された。全ての建物跡・塙跡は切り合い関係が烟跡より新しい。また、1区でこれらの遺構がII層（方格地割廃絶以降の黒色粘土層）・III層（灰白火山灰の二次堆積ブロックを含む）に覆われている。このことから、建物・塙の機能時期は9世紀後半から10世紀後半頃の期間と推定される。

灰白色火山灰や切り合い関係から次のような変遷と年代が考えられる。1区では重複して掘立柱建物跡5棟、掘立柱塙跡1条を検出し（第7～9図）、S B2760・2763・2764掘立柱建物跡で柱穴掘方に灰白色火山灰ブロックを確認した。S B2761掘立柱建物跡で柱抜取穴に灰白色火山灰ブロックを確認した。残り



第87図

のS B2762掘立柱建物跡、S A2765掘立柱堀跡に灰白色火山灰は含まれていない。これらの観察結果を整理すると、(古) S B2762、S A2765→S B2761→S B2760・2763・2764(新)という変遷となる。4区で検出したS B3078掘立柱建物跡(第22図)は、灰白色火山灰(自然堆積)を含むSK3093土坑と重複し、これより古いため、年代は9世紀後半となる。また、S B3077掘立柱建物跡(第22図)は、灰白色火山灰ブロックを含むSK3096土坑と重複しこれより新しかったため、年代は10世紀初頭以降となる。

(6) SD3110区画溝跡

1区で検出した、埋土上層に灰白色火山灰が自然堆積する、南北方向の溝跡である(第10図)。1度の掘り直しが認められ、2時期の変遷を考えられる。8世紀末～9世紀前半と推定する畑跡が、この溝跡を境に西側だけで確認されており、土地利用に関わる機能が想定される。年代は畑跡への影響も踏まえ、8世紀末～9世紀後半の時期と考えられる。山王遺跡第187～191調査(多賀城市教育委員会 2018)で南北方向に延びる溝跡(SD2310溝跡)が確認されているが、推定延長させるとほぼこの溝跡につながる位置関係にある。その間に南3道路を跨ぐこととなるが、長い距離を区画した施設の可能性を指摘しておきたい。

(7) SD3113区画溝跡

2区・4区で検出した南北方向の溝跡である(第23図)。1度の掘り直しが認められる。新しい時期の溝跡と畑跡は重複し、溝跡が新しい。溝跡の東側で畑跡、西側で掘立柱建物跡、掘立柱堀跡、畑跡などが発見されているが、溝跡を境に掘立柱建物跡、掘立柱堀跡の有無、畑跡の小溝の密度が異なるなどが確認できた。畑跡への影響も踏まえると、溝跡の年代の上限は8世紀末が妥当と思われる。しかし、古い時期の溝跡埋土に灰白色火山灰ブロックが含まれているなど、断面観察ではこのことを裏付ける資料が得られなかった。なお、重複によりさらに古段階の溝跡が消滅したとも考えられることを付け加えておきたい。

(8) SK3085土坑

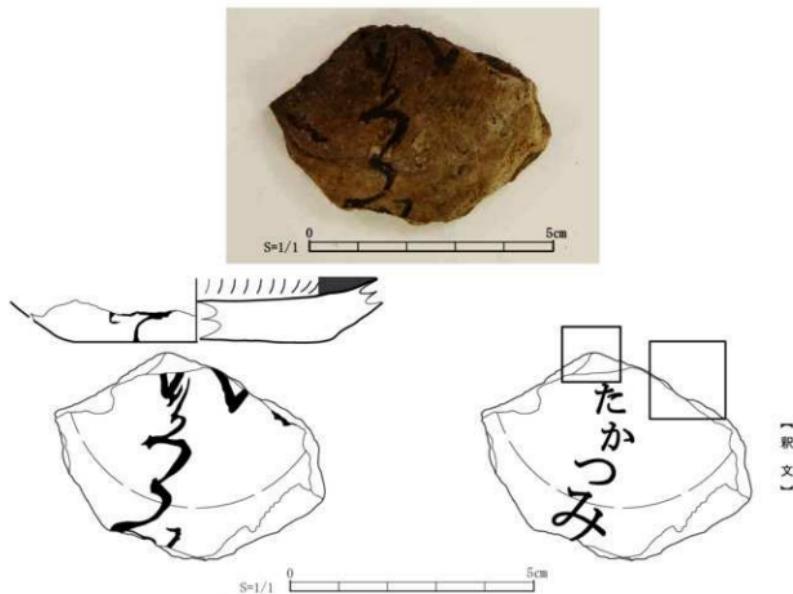
埋土上層に灰白色火山灰が自然堆積しているSK3085土坑の出土土器(第63～66図)について検討する。土師器坏は楕円形のロクロ調整で、回転糸切り無調整が主で、他に回転ヘラ切り後に回転ヘラケズリ、回転糸切り後に手持ちヘラケズリがある。須恵器坏は楕円形の回転糸切り無調整が主で、他に回転ヘラ切り後に回転ヘラケズリがある。須恵系土器は出土していない。このような特徴は多賀城跡第66次調査SK2321土坑出土第2群土器(宮城県多賀城跡調査研究所 1996)、多賀城跡第61次調査鴻の池第10層出土土器(宮城県多賀城跡調査研究所 1992a)に類似し、出土土器の年代は9世紀後半頃と考えられる。また、土師器坏の底径は5.1～6.3cmで鴻の池第10層出土土器と比較し小さい傾向にあり、9世紀後半代でも新しい時期の様相が認められる。なお、須恵器坏でみると底径/口径比は0.38～0.43、器高/口径比は0.30～0.38となり、年代について石巻市閔ノ入遺跡の1号窯跡・2号窯跡・3号窯跡出土土器(河南町教育委員会 1993)の中に類似点を見出すことができる。

(9) 平仮名と推測される墨書き土器

SK3085土坑の出土した墨書き土器(土師器坏・須恵器坏)12点の中で、「平仮名」で墨書きされたと推測

される土器がある（第88図）。ロクロ調整、放射状へラミガキが施された回転糸切り無調整の土師器杯で、底部から体部にかけての一部が残存している。土器の年代は他の出土遺物同様に9世紀後半に属する。文字は外面に墨書きされており、写真中央に縦書きの文字とその右上にも文字が認められる。字形や筆のはこびから、文字が続け書き（連綿）されているように観察される。東京大学名誉教授 佐藤信氏のご教示により、第88図に示したような釈文を頂くことができた。内容は和歌などが想像されるが、現時点では不明である。

連綿体の出現が現在へつながる平仮名の成立とされ、その成立は9世紀末～10世紀初頭頃と考えられている（川尻秋生 2020、名児耶明 2013、平川南 2019）。成立期頃の資料としては、10世紀中葉段階とされる山梨県甲州市ケカチ遺跡出土の「和歌刻書土器」があり（甲州市教育委員会 2013）、地方での書写活動の様相が推定される貴重な資料とされている（長谷川千秋 2019）。また、多賀城跡での仮名資料の類例として、平川南氏は多賀城跡第60次調査（多賀城跡調査研究所 1992b）の井戸跡出土で、9世紀中頃に廃棄されたと推定される「多賀城跡出土仮名漆紙文書」を取り上げ、「書かれている文字のほとんどが仮名であるが、万葉仮名・草仮名が目立ち、平仮名文書とはいがたい」と記している（平川南 2019）。今回の土器について、釈文を基にそれぞれ漢字に直すと、「多可川美」となる。これらの字を元の漢字どおりに読もうとしても意味が通らないため、少なくともこれらの字は仮名と解釈した方が自然と思われる。そして先に述べたように連綿体に見えることからも、平仮名の可能性を指摘しておきたい。

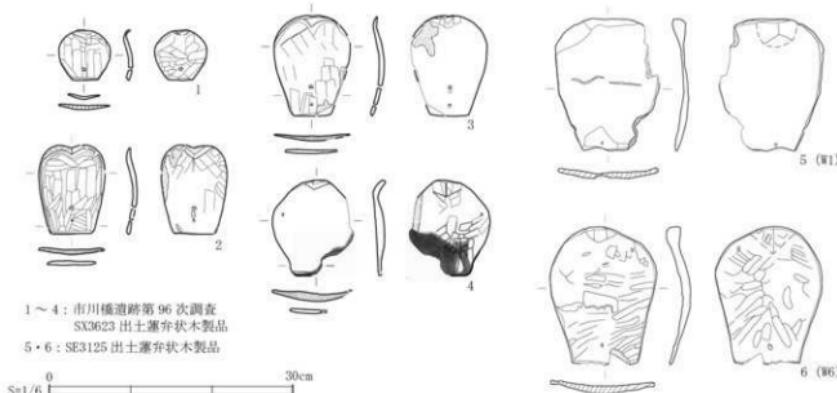


第88図 平仮名で墨書きされたと推測される土器

(10) 蓮弁状木製品

S E3125井戸跡出土の蓮弁状木製品について検討したい（第58～60図）。形状は橢円形あるいは長方形に類するもので、中央部あたりが魁を思わせるように浅く窪んでおり、実測図左面を凹面、右面を凸面と呼ぶこととする。上部（実測図の上方を上部と呼び、下方を下部と呼ぶ）が下部より長くなる傾向にある。9点の木製品を観察すると、未完成であることが次のことが推定される。凹面・凸面ともに盤状工具による粗い加工痕が明瞭に残る。第62図1（W7）・3（W9）の凹面では、中央部に向かって上部側からと下部側から加工が加えられ、中央付近に割裂（工具により滑らかに削られる）と対照的に、工具の圧により面が剥がれさざれ状になる）がされている。割裂は第60図1（W1）、第61図1（W4）・3（W6）でも確認された。工具痕の幅は2.5～4.0cmで、3.0cm程度のものが多い。さらに特徴として、凸面上部にいびつな三角錐状の突出した部位を持ち、9点すべてに共通する加工が施されている。長さは11.9（欠損あり）～19.7cmで、平均16.1cmである。幅は8.9（欠損あり）～13.0cmで、平均11.2cmである。樹種はいずれもカヤ材である。なお、9点の中で、製作工程上進んでいると推定されるものは、第60図1（W1）と第61図3（W6）で、他に比べ表面が滑らかで、全体的に薄く仕上げられている。そして、下部に穿孔が施されている。出土状況は、井戸枠内の埋土から出土した。ある程度井戸が埋まりつつある時期に、一括で持ち込まれたと思われる。欠損が認められるものもあるが、概して目立つほどではなく、廃棄とは考えにくい。おそらく水漬けされた状態を意図しての行為で、加工と加工の間の所作として推定しておきたい。

上記した蓮弁状木製品の類例として、市川橋遺跡第96次調査S X3623池状構造出土蓮弁状木製品がある（多賀城市教育委員会 2022）。4点出土しており（第89図）、その特徴は極めて類似している。製作工程から考えると、S X3623の方が成品に近いことが推定される。上部は薄く加工され、凸面側に外反している。さらに、第89図2は上部先端に抉りが作出され、花弁の先端を模したかのようである。市川橋遺跡第96次調査ではこの他にも仏教関連遺物が出土しており、蓮弁状木製品は蓮台の一部とも考えられる仏教系彫刻と推定している。したがって、本調査出土蓮弁状木製品についても仏像の台座の一つである蓮台の一部の可能性を指摘しておきたい。



第89図 蓮弁状木製品

(11) 総括

- ・山王遺跡第214次調査（宮城県多賀城市山王地区）は、宅地造成に伴う本発掘調査で、調査面積約1,400m²を平成31・令和2年度で実施した。
- ・遺構確認面は、VI層（古墳時代以降）、III2・IV1・IV2層（奈良時代以降）、III1層（10世紀後半以降）である。
- ・発見した遺構は、整地層1面、道路跡1条、溝跡14条、掘立柱建物跡24棟、掘立柱塀跡2条、井戸跡3基、土坑63基、烟跡10面などである。
- ・古墳時代の遺構は、1区のS D3108・3109溝跡がある。
- ・調査区周辺は、8世紀末～9世紀前半頃に畠地として利用されていたことが分かった。小溝跡の密度から繰り返し改変しつつ耕作された様子が窺われる。この時期に伴う遺構は、S D3103～3106・3110・3113区画溝跡があり、それぞれ畠地利用に影響を及ぼしていたと推察される。また、S D3105・3106区画溝跡は、南3道路跡に先行する区画施設としての性格が考えられ、さらなる検討が必要である。
- ・9世紀後半以降、畠地から掘立柱建物跡が立ち並ぶ景観へと変化した。この時期に伴うS X3100東西道路跡は、方格地割の基幹道路である東西大路から約390～400m南方の位置で、多賀城地区は場整備の発掘調査成果も踏まえ、3本目の広域的な区画道路として「南3道路」と名付けた。4時期の変遷があった。これらの遺構の下限は10世紀後半頃になる。この他、S D3110・3113区画溝跡や井戸跡、土器がまとまって出土したS K3085土坑などがある。
- ・9世紀後半頃のS E3125井戸跡から、未完成品の蓮弁状木製品9点（カヤ材）が出土した。その形状が仏像の台座の一つである蓮台を飾る蓮弁に類似するものである。市川橋遺跡第96次調査出土木製品に類例がある。
- ・9世紀後半頃のS K3085土坑から、平仮名で墨書きされたと推測される土師器壺が出土した。土器外面に連続体の文字を2行読み取ることができるが、今後詳細に字形等を検討する必要がある。
- ・III1層検出遺構は、1区のS D3107溝跡がある。

（引用・参考文献）

- 河南町教育委員会 1993：『須江窓跡群 開ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書第7集
- 川尻秋生 2020：『新たな文字文化の始まり』『シリーズ古代史をひらく 文字とことば—文字文化の始まり』岩波書店
- 甲州市教育委員会 2013：『古代史しんぼじゅむ「和歌刻書土器の発見」ケカチ遺跡と於曾郷』甲州市文化財調査報告書第25集
- 多賀城市教育委員会 2018：『山王遺跡第187～191次調査』『多賀城市内の遺跡2』多賀城市文化財調査報告書第138集
- 多賀城市教育委員会 2021：『山王遺跡第123次調査』『新田・山王・高崎・西沢遺跡はか一震災復興関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ』多賀城市文化財調査報告書第146集
- 多賀城市教育委員会 2022：『市川橋遺跡第96次調査発掘調査報告書』多賀城市文化財調査報告書第151集
- 名児那明 2013：『仮名文字の歴史』『古代史しんぼじゅむ「和歌刻書土器の発見」ケカチ遺跡と於曾郷』甲州市文化財調査報告書第25集
- 長谷川千秋 2019：『山梨県甲州市ケカチ遺跡出土和歌刻書土器』『万葉仮名と平仮名 その連続・不連続』三省堂
- 平川南 2019：『新しい古代史へ2 文字文化のひろがり-東国・甲斐からよむ-』吉川弘文館
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1992a：『第61次発掘調査』『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1991』
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1992b：『第60次発掘調査』『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1991』
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1996：『第66次発掘調査』『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1995』

報告書抄録

ふりがな	さんのういせき							
書名	山王遺跡							
副書名	第214次調査報告書							
シリーズ名	多賀城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第150集							
編著者名	赤澤靖章							
編集機関	多賀城市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒985-0873 宮城県多賀城市中央二丁目27-1 Tel: 022-368-0134							
発行年月日	西暦2022年3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんのういせき 山王遺跡 かわらじ (第214次)	みやぎけんたがじょうしきんのなかんば 宮城県多賀城市山王字山王四区169番地	042099	18013	38度 17分 45秒	140度 58分 38秒	2019.11.01～ 2020.11.10	1.400m ²	宅地造成
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
さんのういせき 山王遺跡 かわらじ (第214次)	集落・都市	古墳・奈良・平安	整地層、道路跡、溝跡、掘立柱建物跡、掘立柱廻跡、井戸跡、土坑、烟跡	土師器、須恵器	南3道路を発見			
要約	古墳時代の溝跡、奈良・平安時代の整地層、道路跡、溝跡、掘立柱建物跡、掘立柱廻跡、井戸跡、土坑、烟跡などを発見した。							

多賀城市文化財調査報告書第150集

山王遺跡

第214次調査報告書

令和4年3月28日発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター

宮城県多賀城市中央二丁目27番1号

電話 (022) 368-0134

発行 多賀城市教育委員会

多賀城市中央二丁目1番1号

電話 (022) 368-1141

印刷 株式会社東誠社

仙台市宮城野区岡田西町1-55

電話 (022) 287-3351